

1

VOL.

転生してTS英雄

して

まさかの

♂

TS TENSEI shite  
Masaka no Sub Heroine ni.

♀

英雄

に

作画 佃煮 原作 まさきたま

TS  
転生してまさかの  
サブヒロインに。

TS TENSEI shite  
Masaka no Sub Heroine ni.





### フィオ・ミカエル

本作の主人公

前世はヒキニートの男子高校生だったが命を落として異世界に転生する。可愛い女の子が大好きで、女として生まれ変わった今世でもTSE/作品お約束の百合ハーレムが作れると前向きに夢見てる。世界最高峰の治癒術を扱える白魔導師の勇者であり、寿命以外の回復はお手の物で『死神殺し』の異名がある。



### アルト

本作のもう一人の主人公

聖痕を身体に宿す勇者パーティーのリーダーで魔法剣士。前世は若くして亡くなった要領の悪い会社員だったが自身の無能さを嘆き、今世では人を守ることに必死になる。周りがあまい見えておらず、天然で鈍感な部分がある。会話下手のため黙っていることがあるが周囲からは寡黙なのだと誤解されている。戦闘力は他の勇者と比べても、ずば抜けている。





### ルテ・ヴェルグンド

勇者パーティーの副リーダーおよび精霊術師。マッピングや気配察知、探索から星読みなどパーティーの導き手がつ個性豊かな面々のストッパーとして務める笑顔の苦労人。



### パーティ

悪人面の槍使い。女好きでフィオとはよく一緒に色街に行くが、貧乳の女性に強いトラウマがある。王国の名派閥などへの情報収集も余念がなく、政治的な面でもパーティーを支えている。



### コリエ

パーティーの支援も担当するセファ教のシスターで通称『微笑みの勇者』一般人でも勇者並みに強化することができる。フィオとは友達として仲がいい。



### ミーミア・ノーヴァ

王都でも『神域の剣』と呼ばれている天才剣士。高位貴族の令嬢であるが、本人は馬鹿正直かつ実直で、その推力が活かされることはほほない。鍛錬が趣味で剛力の持ち主。



### リン

諜報や隠蔽などパーティーの裏方をこなすパーティー最年少の勇者。ミーミアとは主従の関係で付き合いが長い。



### レイ

全属性の攻撃魔法も扱える黒魔道士。目的のためなら手段を選ばないので、交渉事でゲスさを発揮するフィオとは別ベクトルのゲスさににじみ出るトラブルメーカー。

第1話 . . . . . 7p

第2話 . . . . . 41p

第3話 . . . . . 075p

第4話 . . . . . 109p

第5話 . . . . . 135p

書き下ろし漫画 . . . . . 165p

書き下ろし小説 . . . . . 171p

あとがき . . . . . 193p

TS  
転生して  
♂サブヒロインに。  
まさかの  
TS TENSEI shite  
Masaka no Sub Heroine ni.

聞けよ  
親友  
オレはな

異世界に  
転生するのが  
夢だったんだよ

知ってるよ  
もう飽きるほど  
語りあっただろ

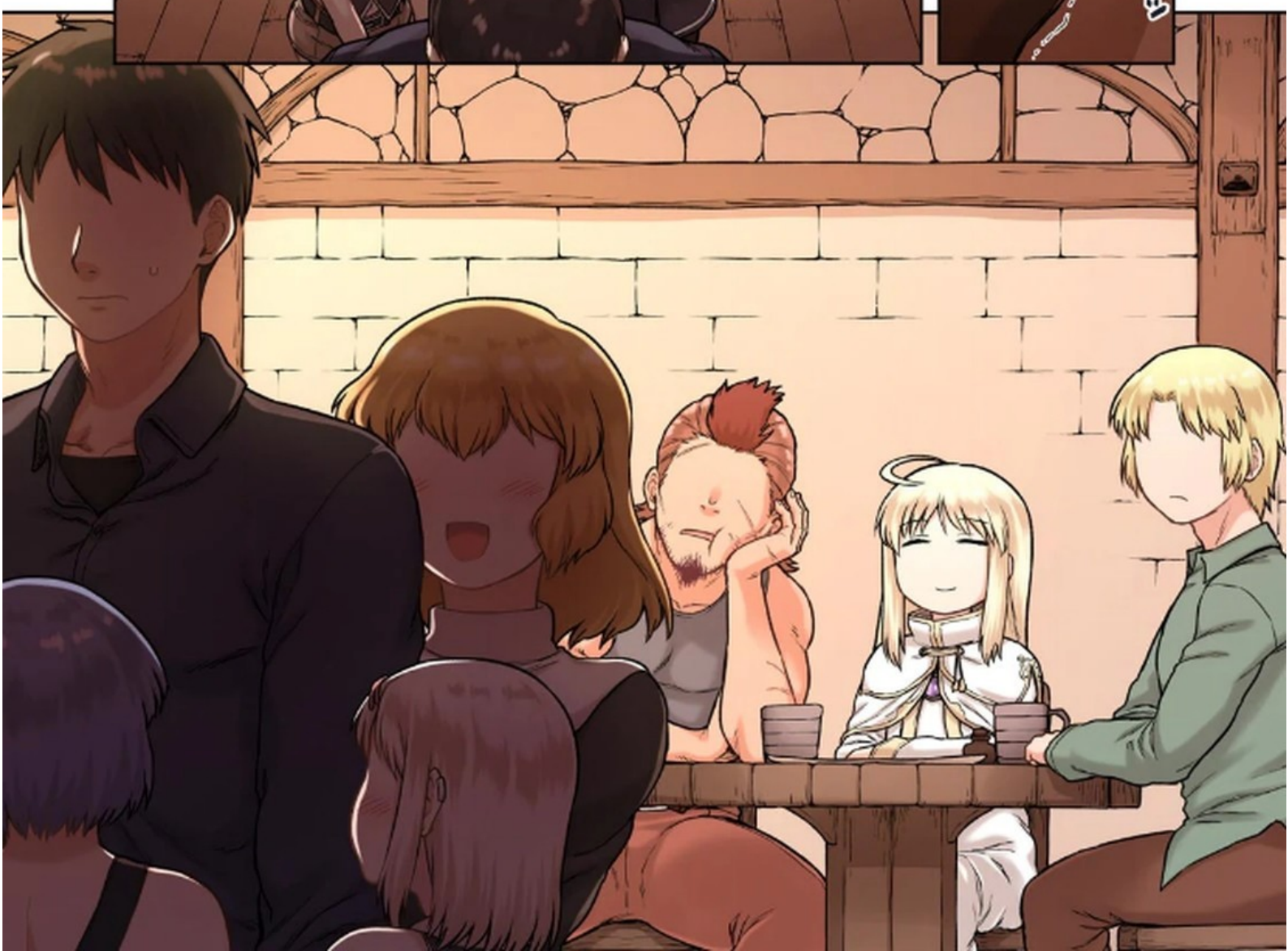
異世界でのオレは  
超イケメンっ

そんなオレのことが  
大好きな女の子達で  
ハーレム作るんだよ

バカかよ  
そりゃ都合  
良すぎだ

—とか  
前世では考えて  
いたんだが

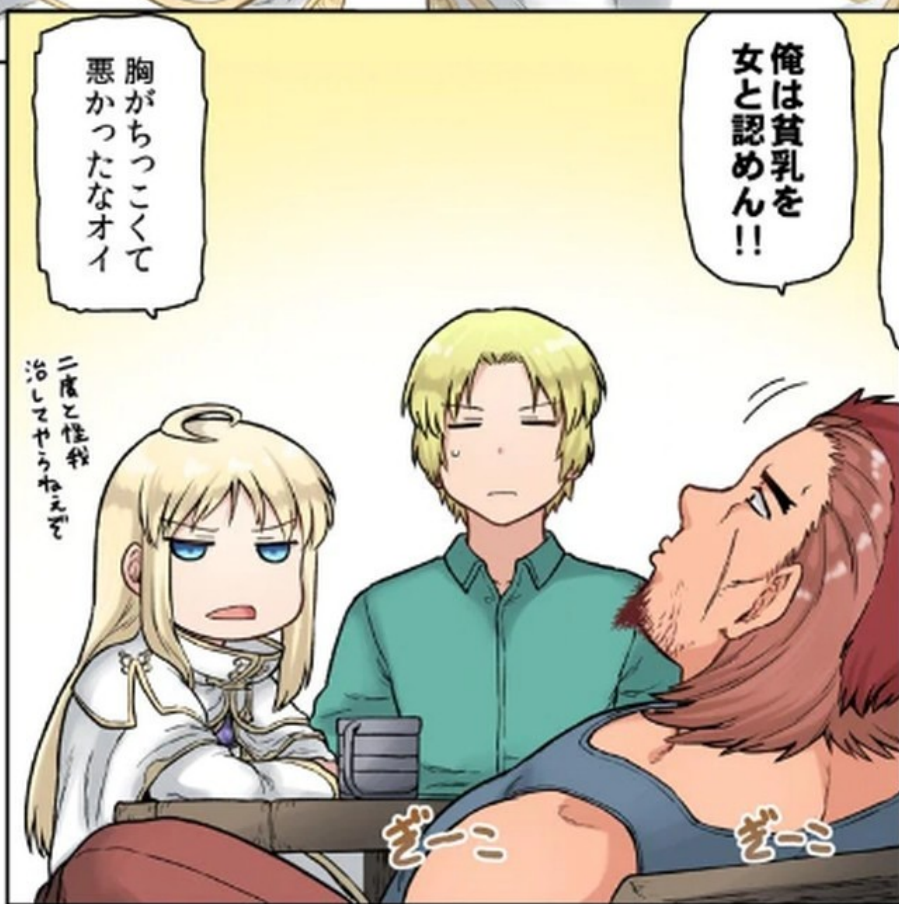
親友の言うとおり  
都合良くは  
いかなかった







ね... だいたい  
可愛い女の子なら  
ここにフィオが  
いるだろう？



胸がちつこくて  
悪かったなオイ

二度と性根  
治してやらねえぞ

俺は貧乳を  
女と認めん!!

ギーニ

まあアルトの  
毒牙にかかってない  
貴重な存在だが...

.....



前世の親友よ…  
元気に過ごして  
いるだろうか？

やんのか  
コウーッ

おかんお  
ノキョーッ

異世界ハーレムを  
夢見たオレは…

その異世界で  
カフユイ女の子として  
生を受けた

解せぬ…

名を  
フィオ・ミクアル  
という…

白魔道士  
フィオ

剣と魔法の  
いかにもな異世界

人族領は  
魔族を束ねる  
魔王によって  
侵略の危機に  
さらされていた

王国は神々によって  
選ばれた証である  
聖痕を身体に宿した  
8人の勇者を招集

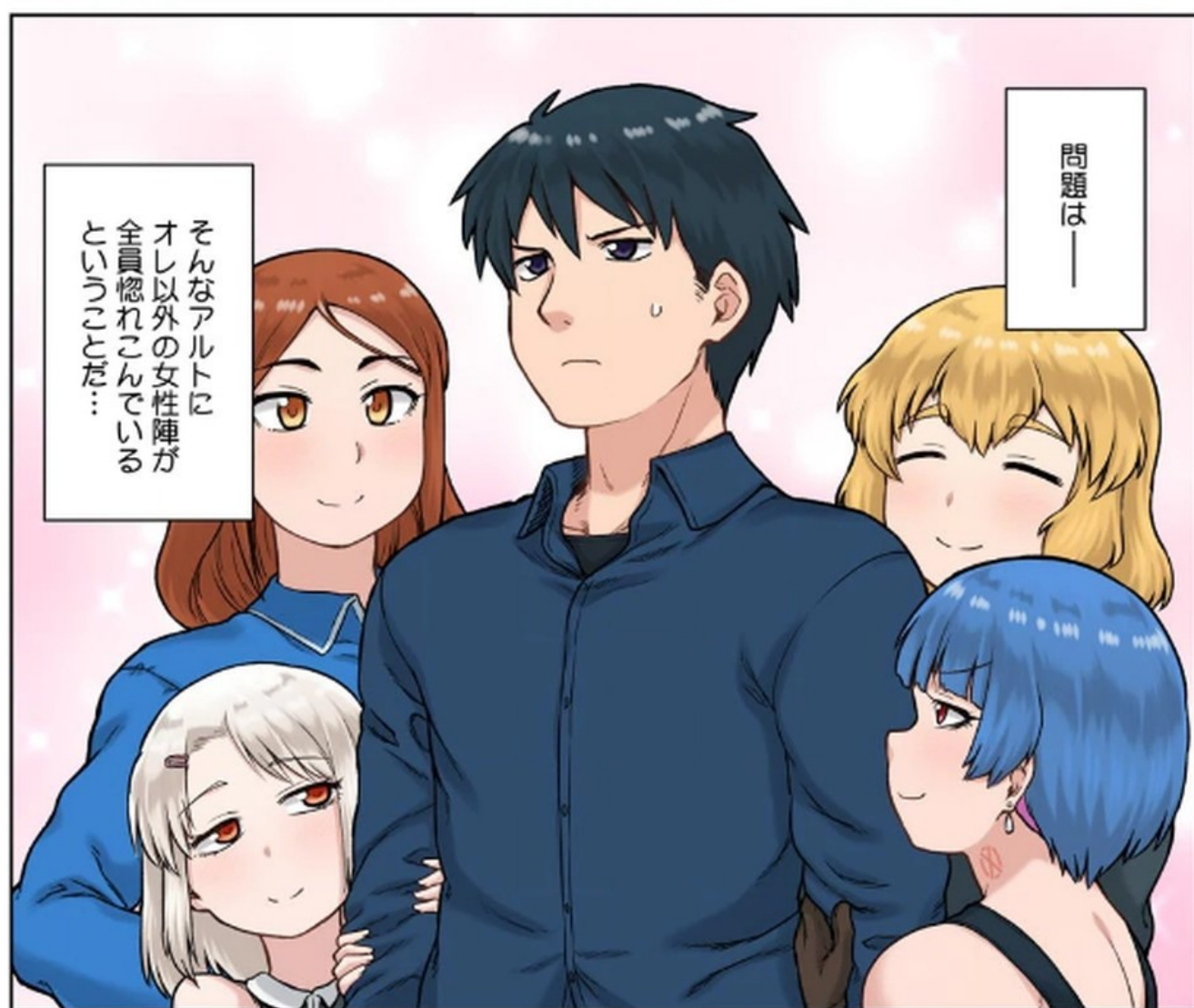
勇者のみで  
構成された  
対魔王軍  
パーティ

それが  
オレ達だ

ちなみにオレは  
回復担当  
いわゆるヒーラー  
ってやつだな

自慢じゃないが  
戦闘能力は  
からっきしだ!!







みんな  
待ってくれ

食事や訓練も  
いいがそれよりも  
すべきことがある

もう一ヶ月も  
魔王軍の動向を  
掴めていないんだ



落ち着けよ  
アルト

そろそろ奴らの  
探索を行うべき  
だと思う

俺達が離れた際に  
街を襲撃されたら  
どうすんだ？

だがこのままでは  
王や貴族達に  
申し訳がたない

彼らに出資して  
もらっている以上  
何かしらの  
成果がなくては…

だから  
落ちつけて  
焦っても  
仕方ねえだろ

ハア

単純な話だ

防衛と索敵  
この2班に  
分けりやいい

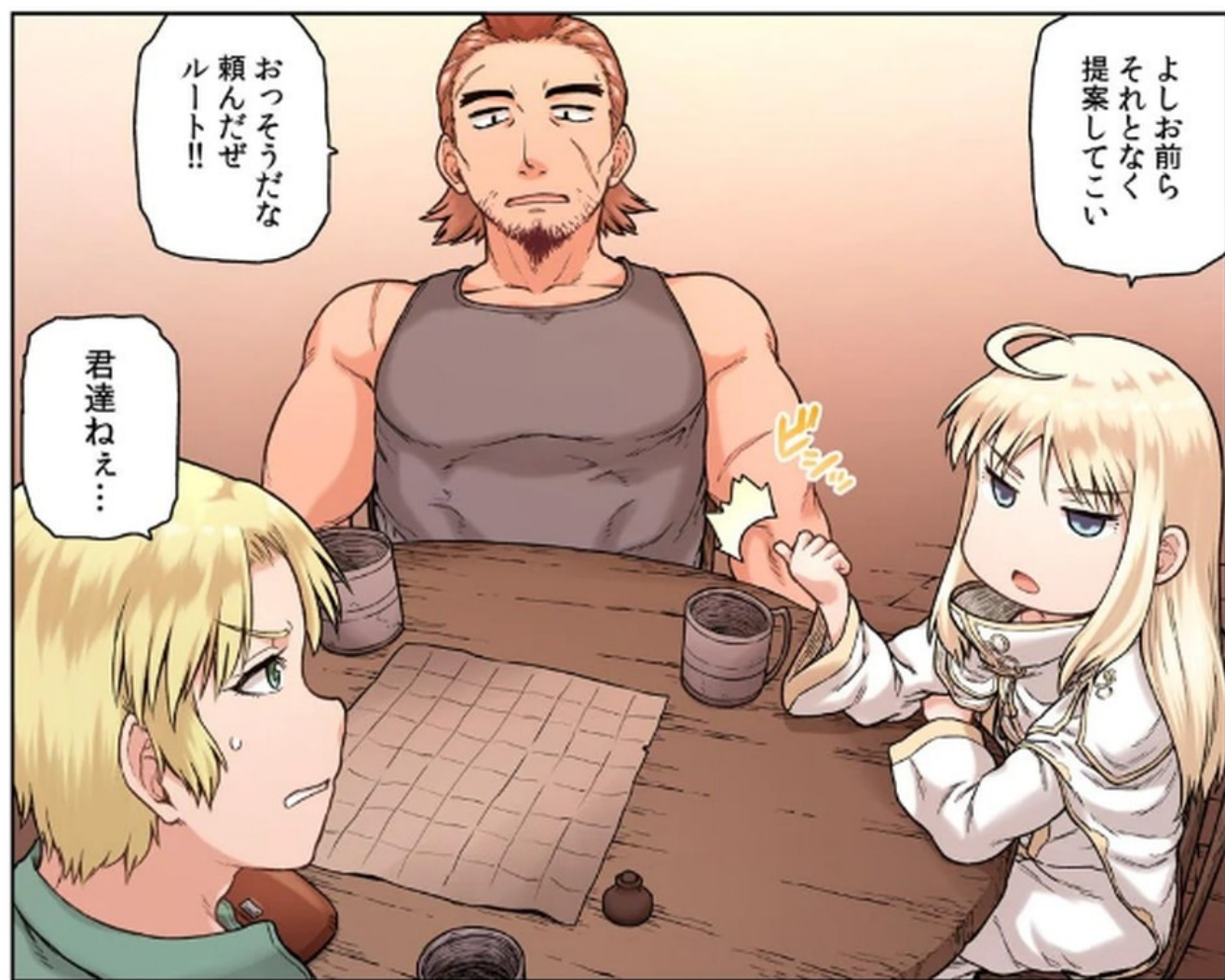
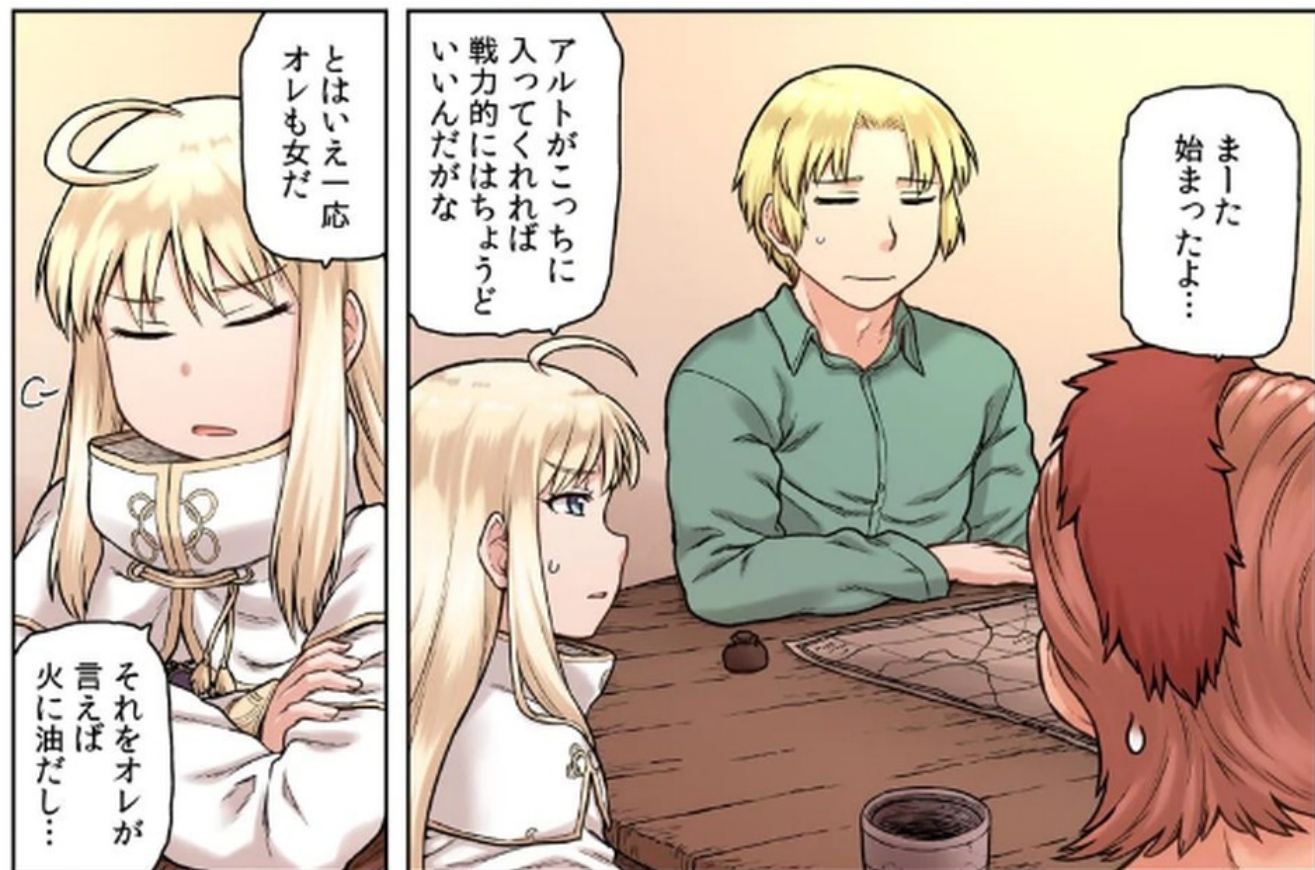
会敵の確率が高く  
臨機応変な対応が要る  
索敵班はアルト  
お前が行け

なにも全員で  
行くこたあない

防衛班は  
警戒と住民の  
避難誘導に  
努めりやいい

む…っ  
そうだな…





はあ…確かに  
その案が一番  
無難かな…

つたく…  
なんで俺達が  
氣い遣わなきや  
ならねえんだ

そりやバーデイ  
お前がモテねえからだ

ぶっ殺すぞ

おっ…おー  
行った行った

めつちや  
にらまれ  
てんじやん  
ウケる

すげえよな  
アイツ…  
よくあそこに  
割って入れんな

がんばれっ  
ルートちゃん  
がんばれっ!!

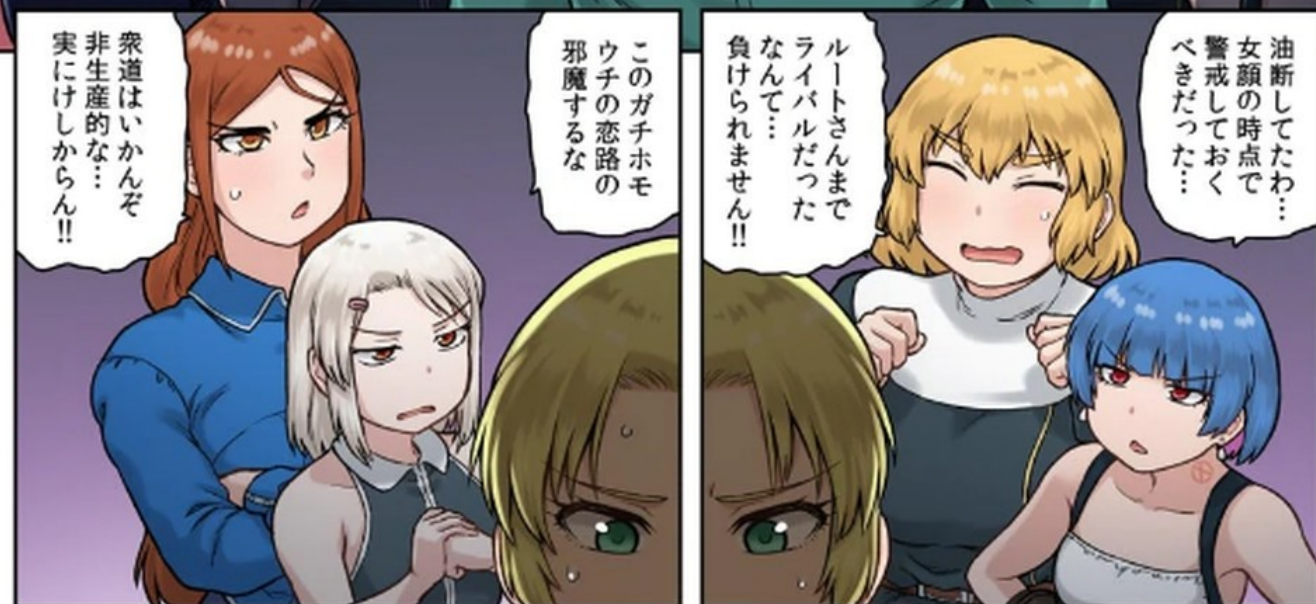


…という訳で  
どうかなアルト？  
たまには僕らと  
行動するのは？

ああ  
それで構わない  
よろしく頼む  
ルート…



グ  
ゴゴゴゴ  
ゴ



油断してたわ！  
女顔の時点で  
警戒しておく  
べきだった…

ルートさんまで  
ライバルだった  
なんて…  
負けられません！！

このガチホモ  
ウチの恋路の  
邪魔するな

衆道はいかんぞ  
非生産的な…  
実にけしからん！！



誤解だ  
ボウはホモじや...

もんだけど  
済ませてやるから  
おもしろ

もやんで  
たまらぬわあ!



フィオバーディ  
助け...って

居ないし!?



あぶねー  
あぶねー

こつちにも  
飛び火する  
とこだったな

くっ

さらば  
ルート...

お前の尊い  
犠牲は忘れない...



どうせしばらく  
戻れんだろうし...

せつかく  
だから  
イっとくか?

いいねっ





今日はちゃんと  
紹介所に行くぞ  
パーティー？

路傍の売りこみに  
当たりはいねえ

もう金が  
あまりないんだ  
ココらで路傍嬢  
探すしかねーだろ



そりゃ前回の  
失敗のせいだろ

高い金払って  
性格最悪だった  
じゃねーか!?

だから今回は  
性格重視で  
行くって!!

俺を信じろ  
大丈夫だから!!

ギャア

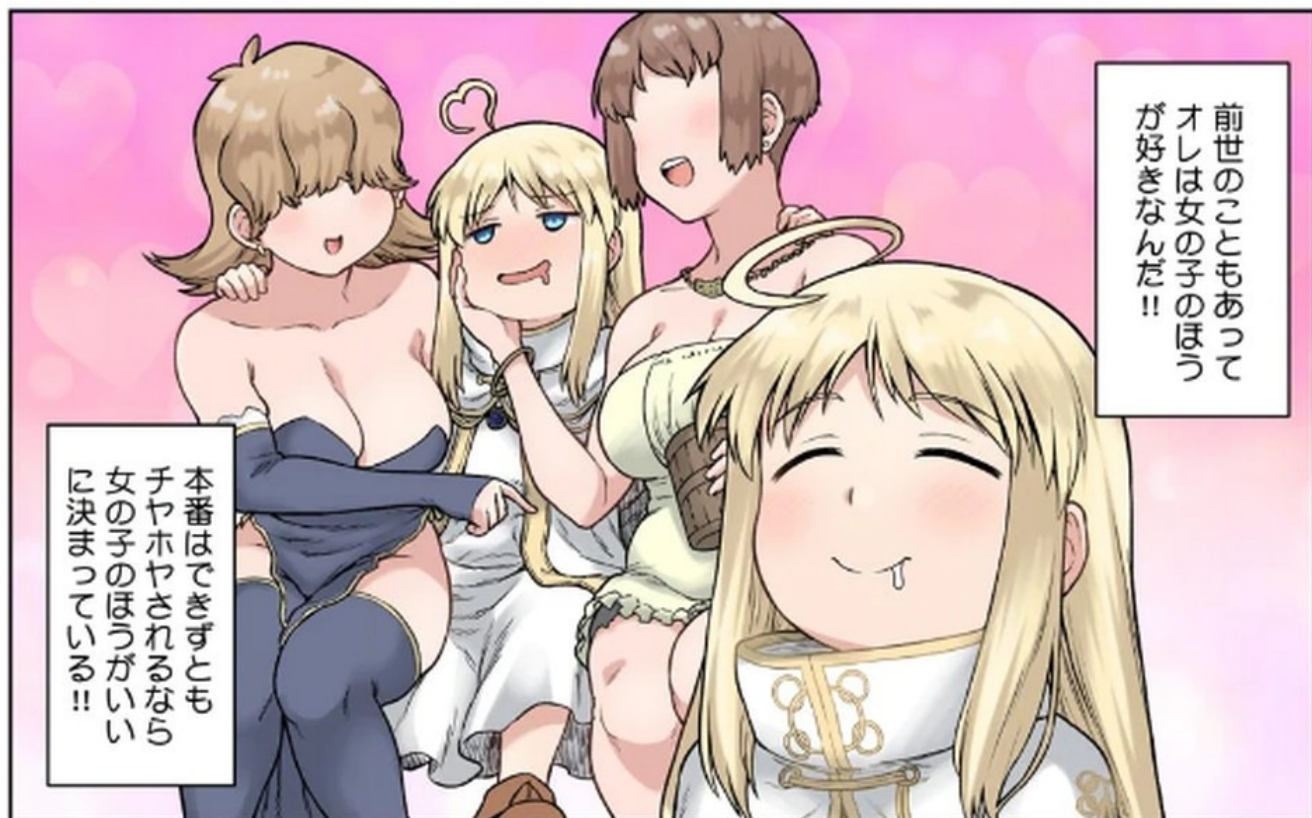
ギャア



オレとパーティーは  
よくこうして  
色街へ繰りだす

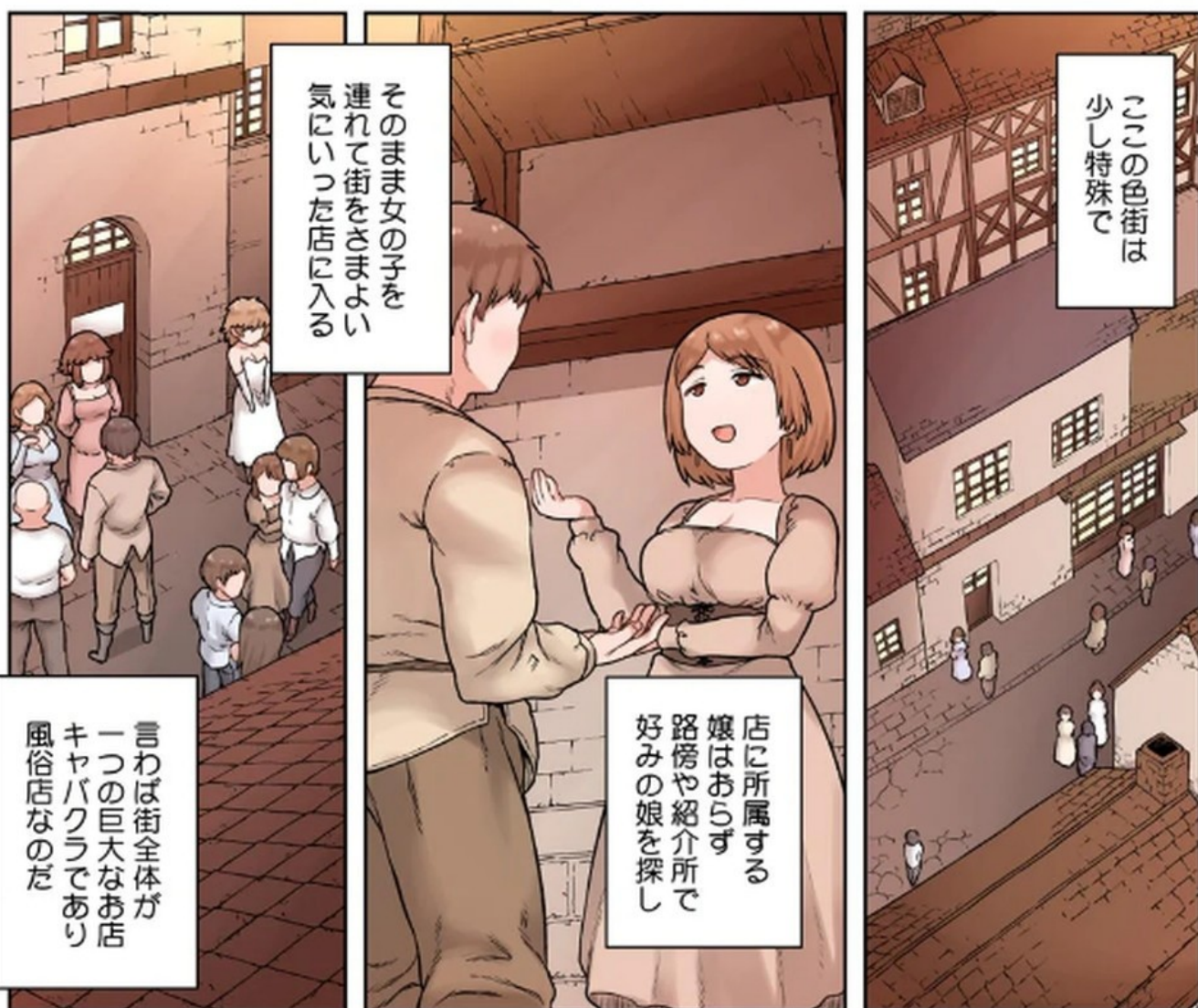
おっと勘違い  
しないでくれ?

別にコイツと  
そっとう関係な  
訳ではない



前世のこともあって  
オシは女の子のほう  
が好きなんだ!!

本番はできずとも  
チャホヤされるなら  
女の子のほうがいい  
に決まっている!!

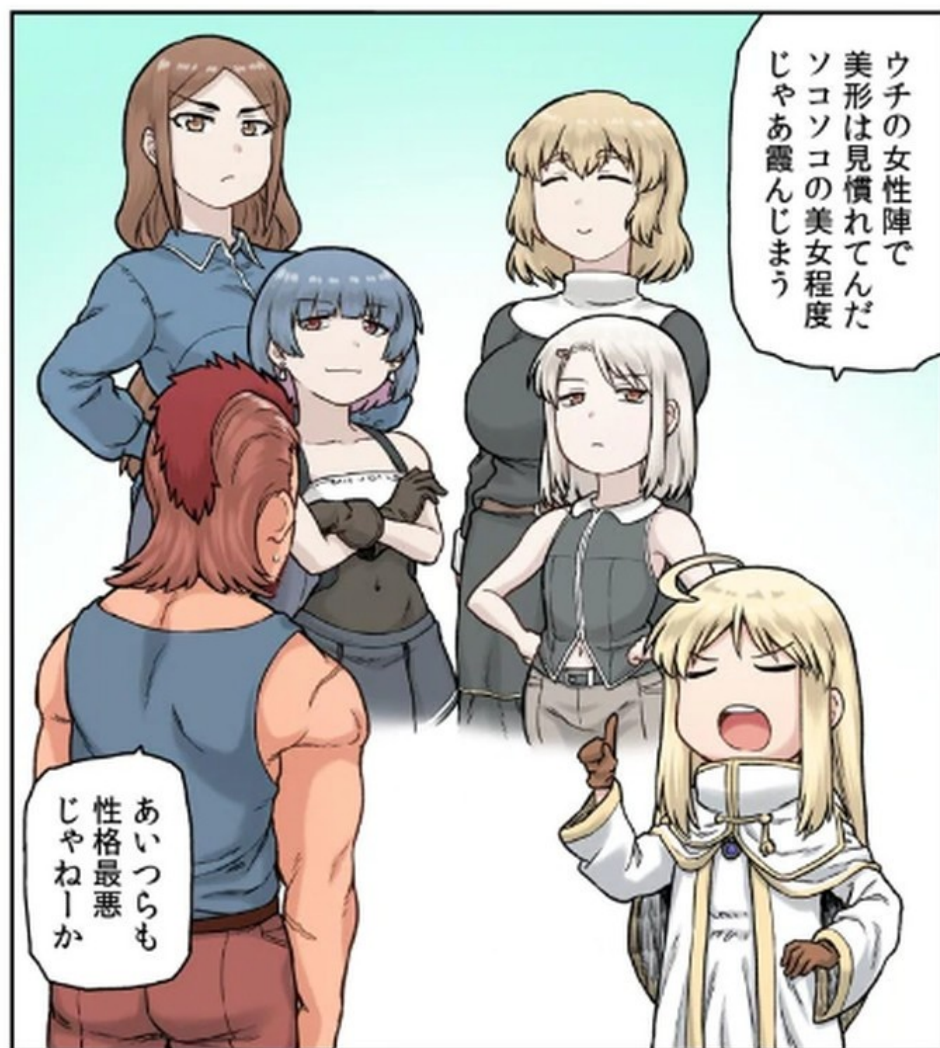


この色街は  
少し特殊で

そのまま女の子を  
連れて街をさまよい  
気にいった店に入る

店に所属する  
嬢はおらず  
路傍や紹介所で  
好みの娘を探し

言わば街全体が  
一つの巨大なお店  
キャバクラであり  
風俗店なのだ





嬢と遊ぶのに  
金かけねーで  
どうすんだよ!!

フサイクと  
飲んでも  
酒が不味く  
なるだろうが!!

飲食代出せなきや  
いい嬢呼べても  
すぐ帰っちまうぞ!!

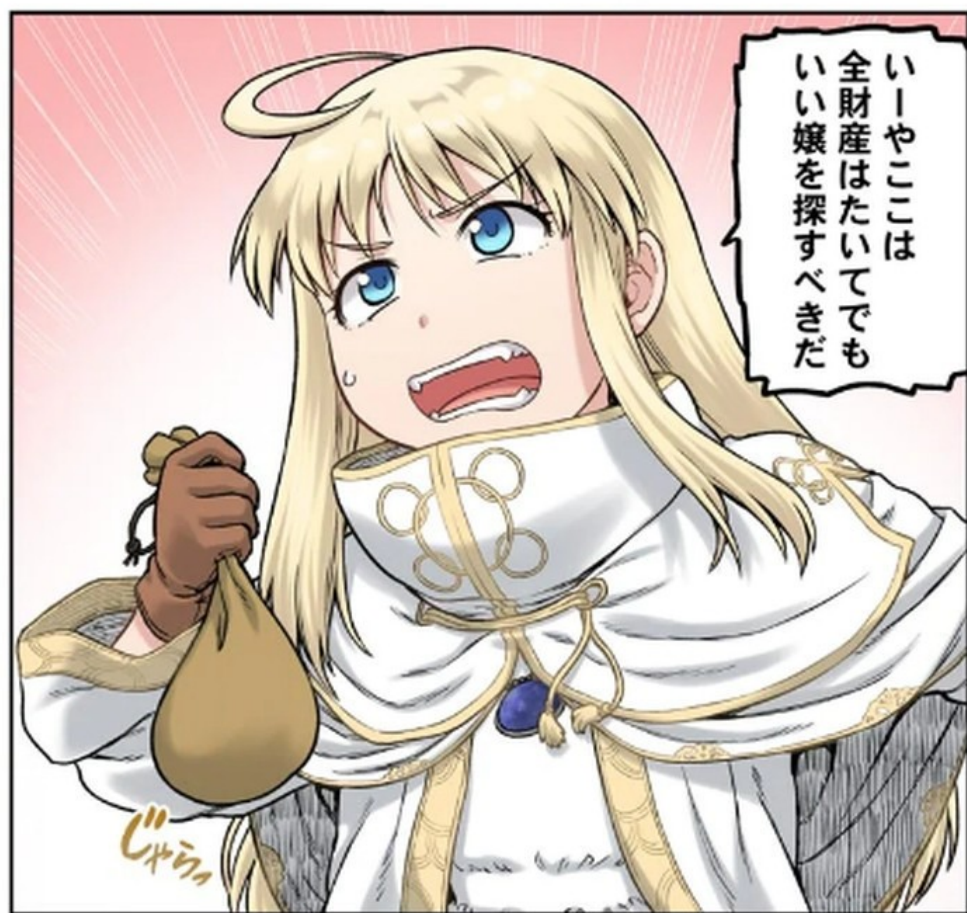
路傍嬢なら  
どっちも  
叶うじゃん!!

どた  
ばた



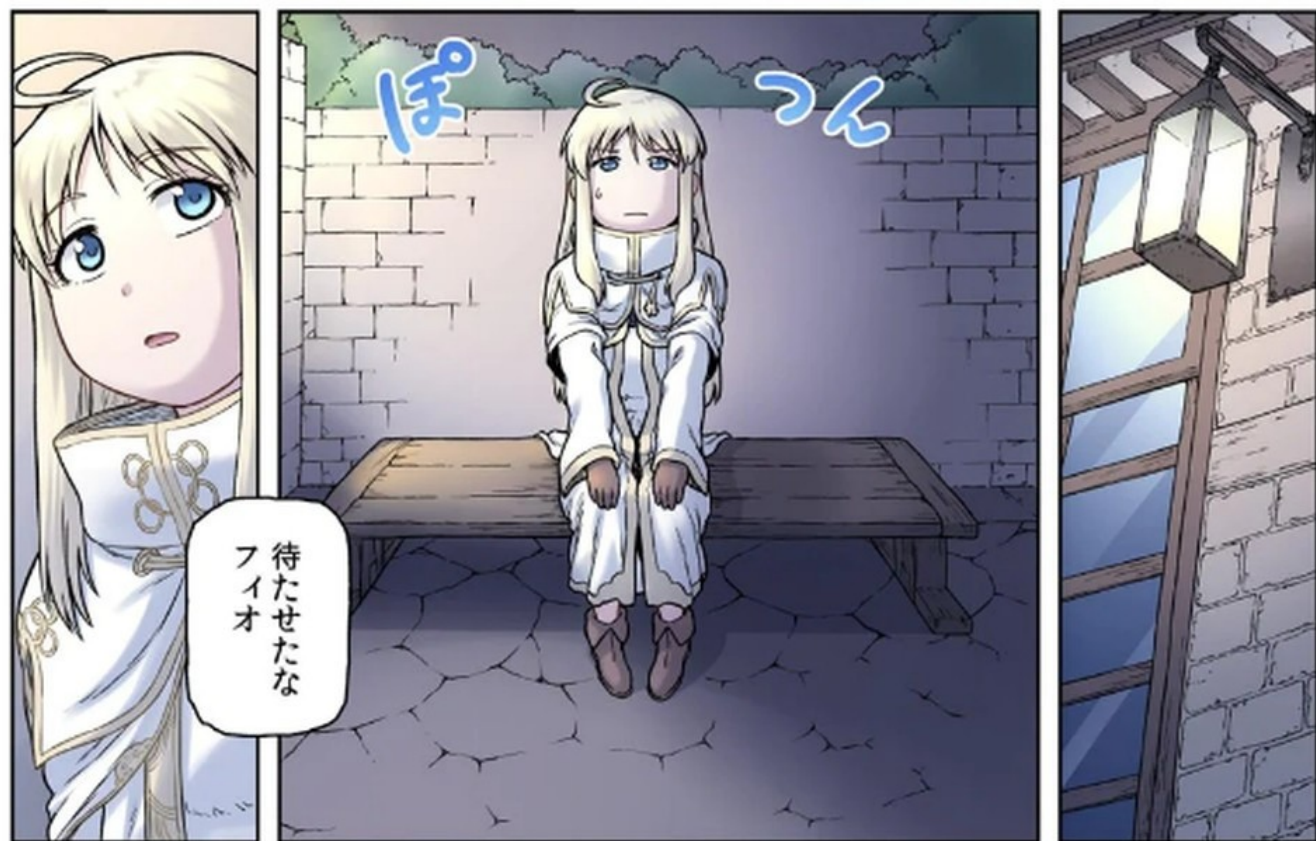
ふんっ!!

あ!!?



いやここは  
全財産はたいてでも  
いい嬢を探すべきだ

びやん



はっ…  
初めましてっ



パルメと  
います

…  
もしかして  
新人さんかな？



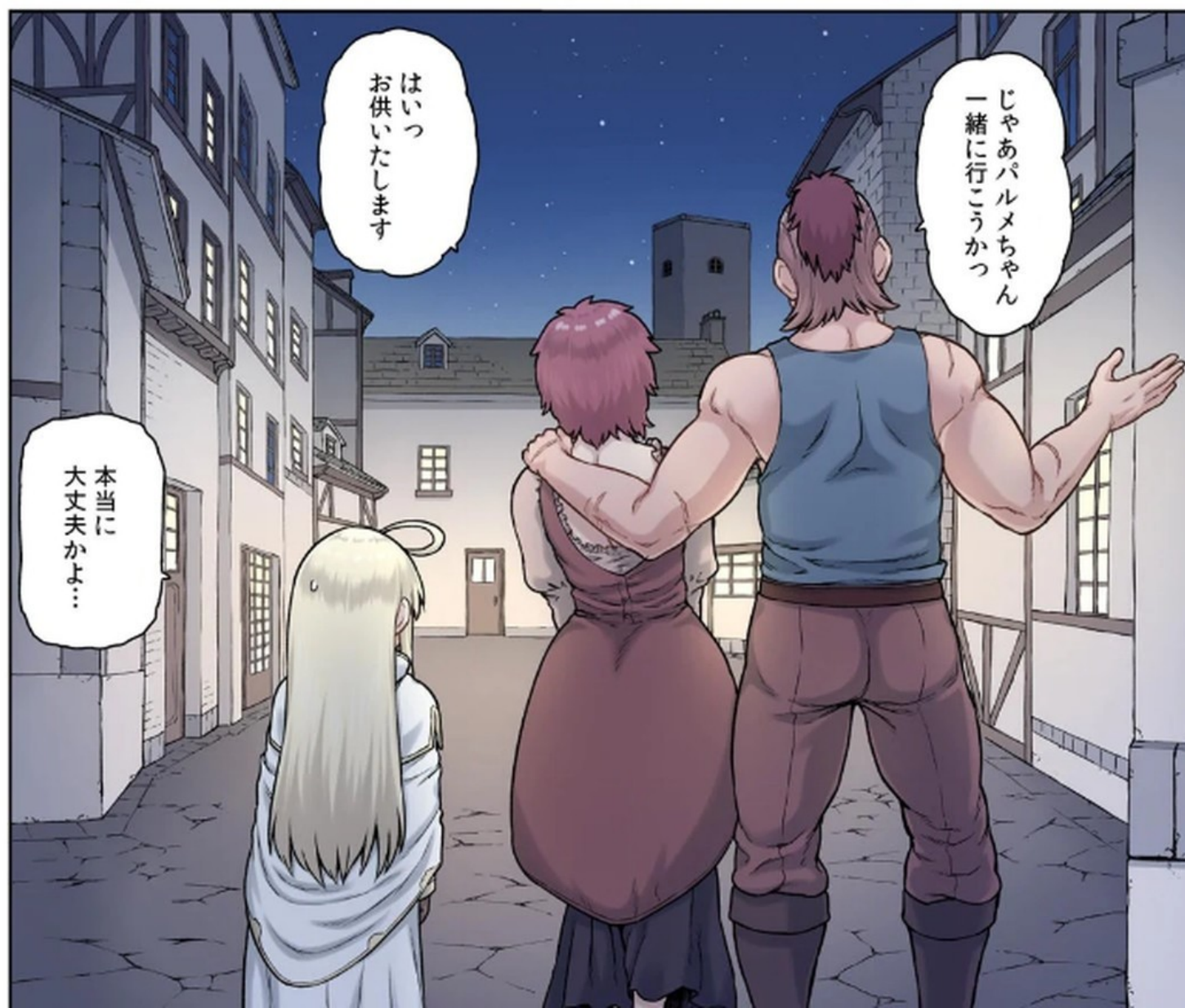
はいっ  
今週から  
働き始めました

バーティの奴  
賭けにでやがった

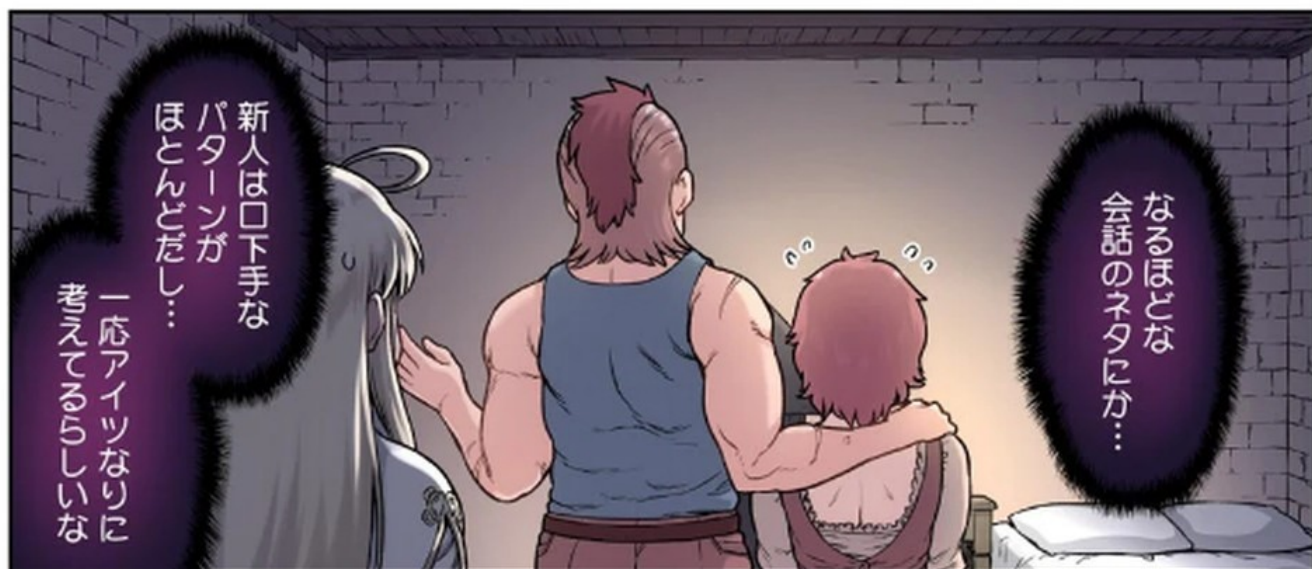


たしかに新人なら  
安くて若いし  
性格がいい娘も  
多いが…

その分こっちは  
気を遣う  
リスクもある









あつそれは  
ソコソコ  
経験ありますっ

ほうっ

もしかして  
本番自体も  
初めてだったり？



え…

可愛かったなあ…♡

初めての時は  
親友の弟を  
押し倒しましたっ



おい…マジで  
大丈夫か？

思ったより  
ヤバそうな  
娘だぞ…？

大丈夫だって  
むしろ  
積極的に助かる  
じゃねえか



なあ  
パルメちゃん

ドアホ!!  
この街は媚薬  
禁止されてん  
だろーが!?

これは  
媚薬じゃない  
戦闘補助品だ

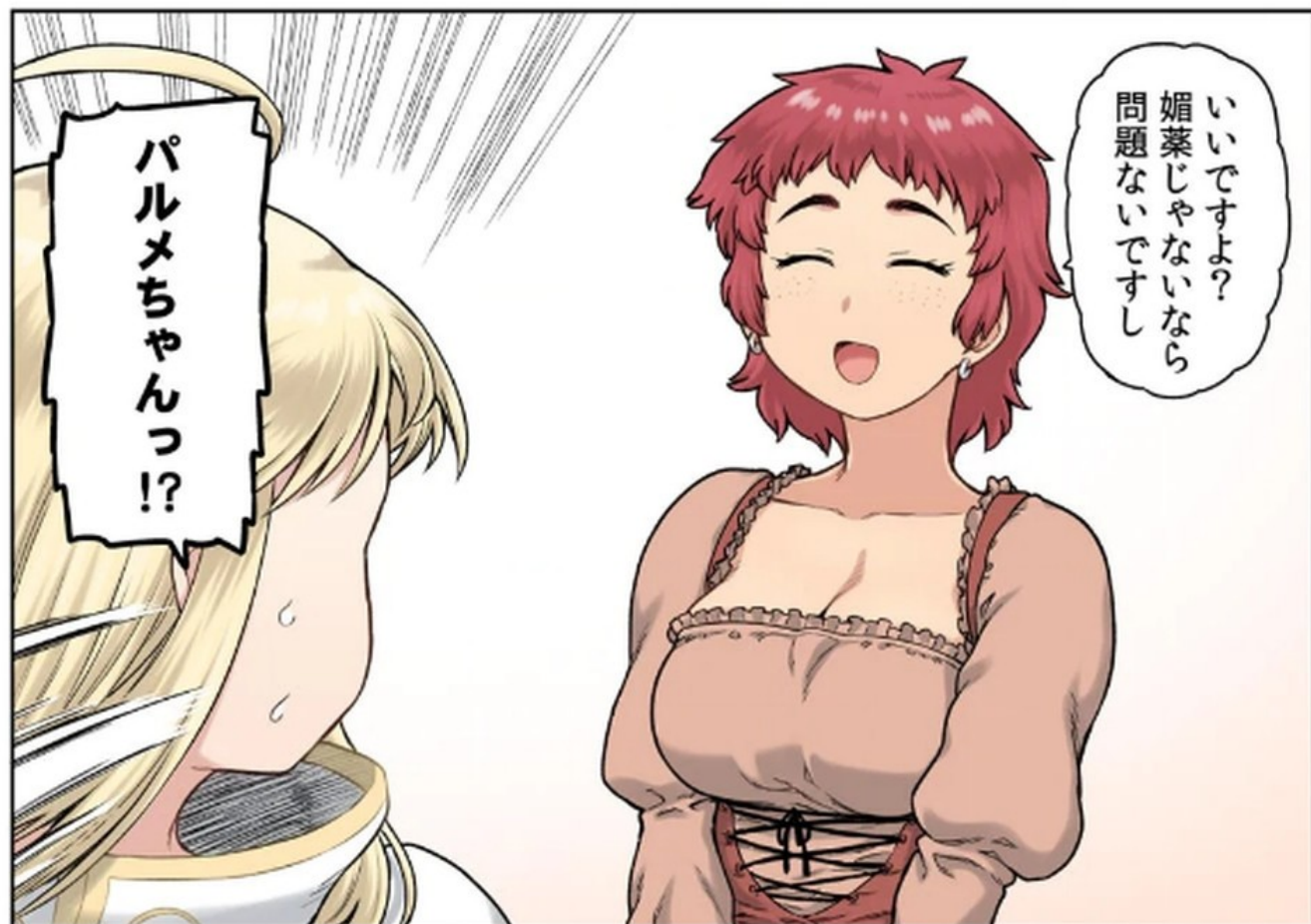
ちよつとコレ  
飲んでみない?

でも媚薬として  
使う気じゃねーか!!

そんなのバレたら  
怖いお兄さんが  
うじやうじや  
来るぞ...?

俺なら  
勝てるし

こいつは...っ







真面目そうで  
実は好き者なんて  
サイコーじゃねえか!!

ぺし ぺし

おいこの娘  
大当たりだぜ  
ファイオっ!!

おおお…っ

お…おお  
マジか…!?

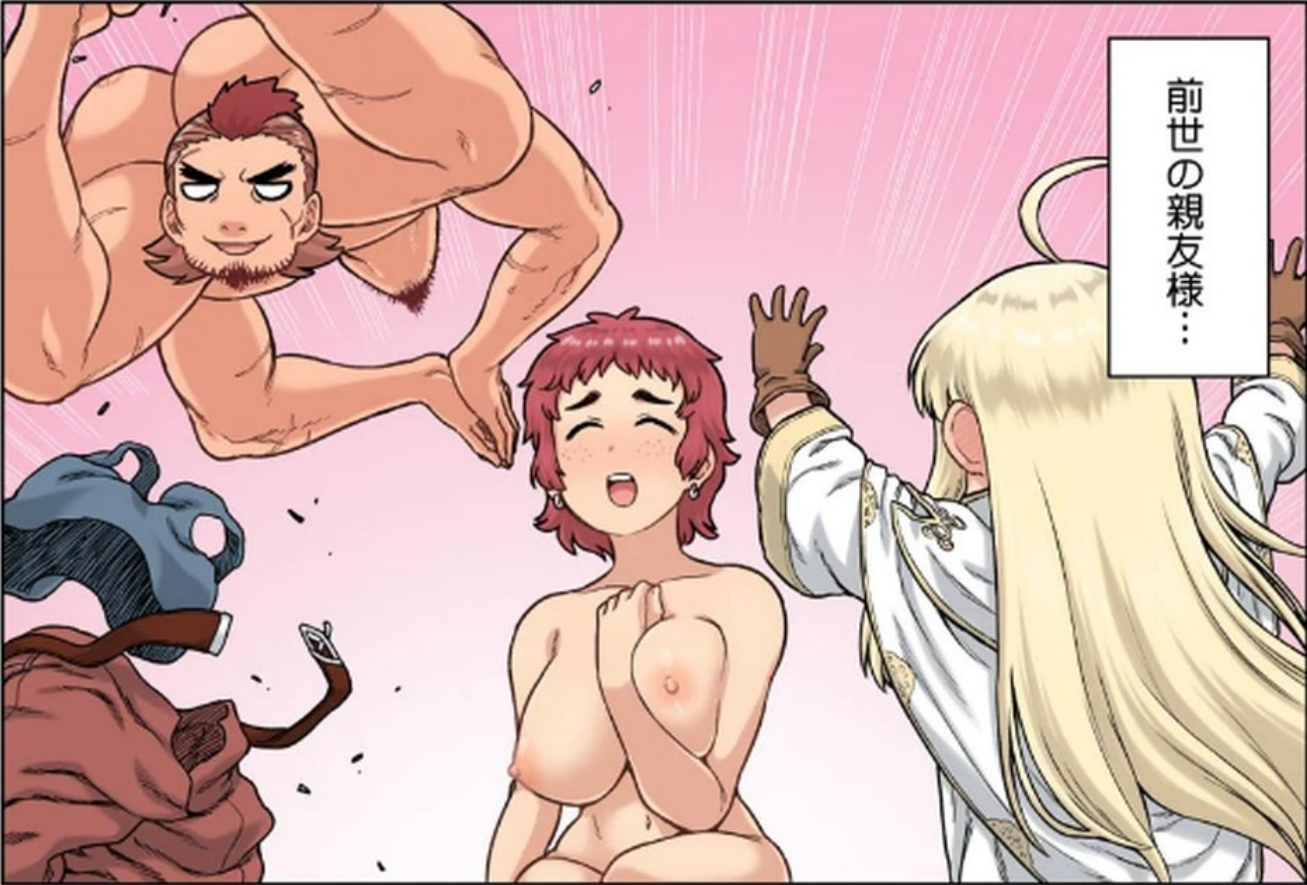
いいのか!?  
派手にヤっっちゃうよ!?

理性ぶっ飛ばして  
襲っちゃうよ!?


バッチ来いです!!

ふんす





前世の親友様…



こっちは  
異世界は  
天国です!!

フィオ デザイン案  
Ver. 1.5

アホ毛があっても  
フィオには合うかも  
アヒトとイキつくと時に  
ぴりぴりしてると可愛い

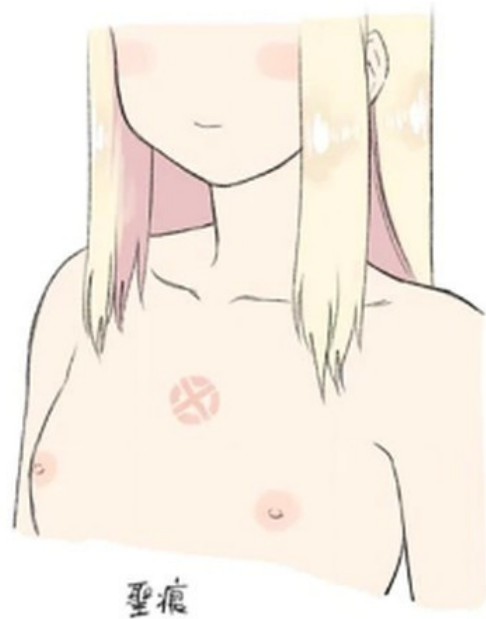
ミクアルの星製  
巫女の白装束  
所々に星と日生を  
イメージした円環の  
装飾

配色イメージは  
白と白金装飾  
どこかに流星の  
イメージで青や緑を  
差してもいいかも

聖痕、たい服とは  
ありましたが主人公の  
イメージとあいません  
ちよい盛りました



一応防刃の  
グローブと靴



聖痕

外套を外した状態  
部屋着

広法院の体のパンダ  
管は外套下に隠れて  
見えな

濃い紺色でキラキラ  
細かいらが  
入ってる

宇宙書屋の  
からイメージ  
のシンボル等  
ちらちら見ると  
良いのでは



下着



裸



後髪は  
太尻ぐらいまで

TS  
転生してまさかの  
サブヒロインに。

TS TENSEI shite  
Masaka no Sub Heroine ni.

そんでさ：

異世界で  
最強になった  
オレはな

各地で現地妻  
作りながら  
世界中を旅して  
まわるんだ

ー  
ー  
ほっ

うわっ  
めっちゃ血い  
出てんじゃない!?

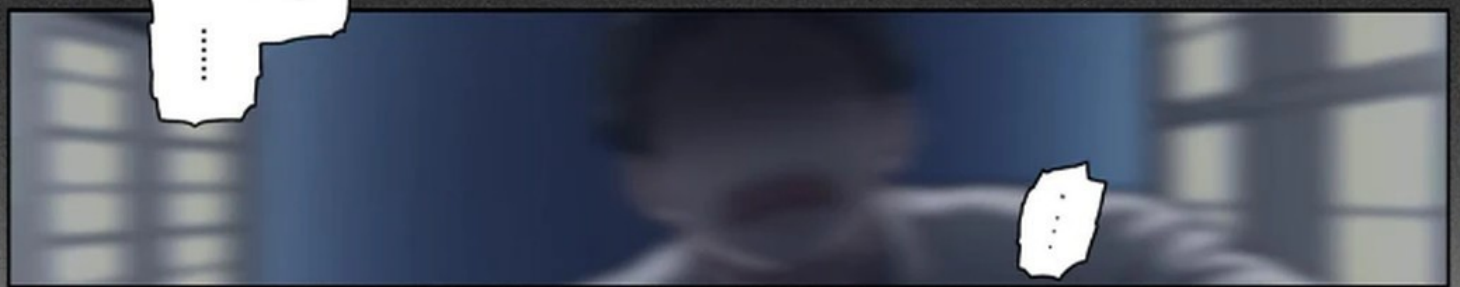
ヤクザの抗争に  
巻きこまれた  
らしいよ！

銃で撃たれた  
みたい！

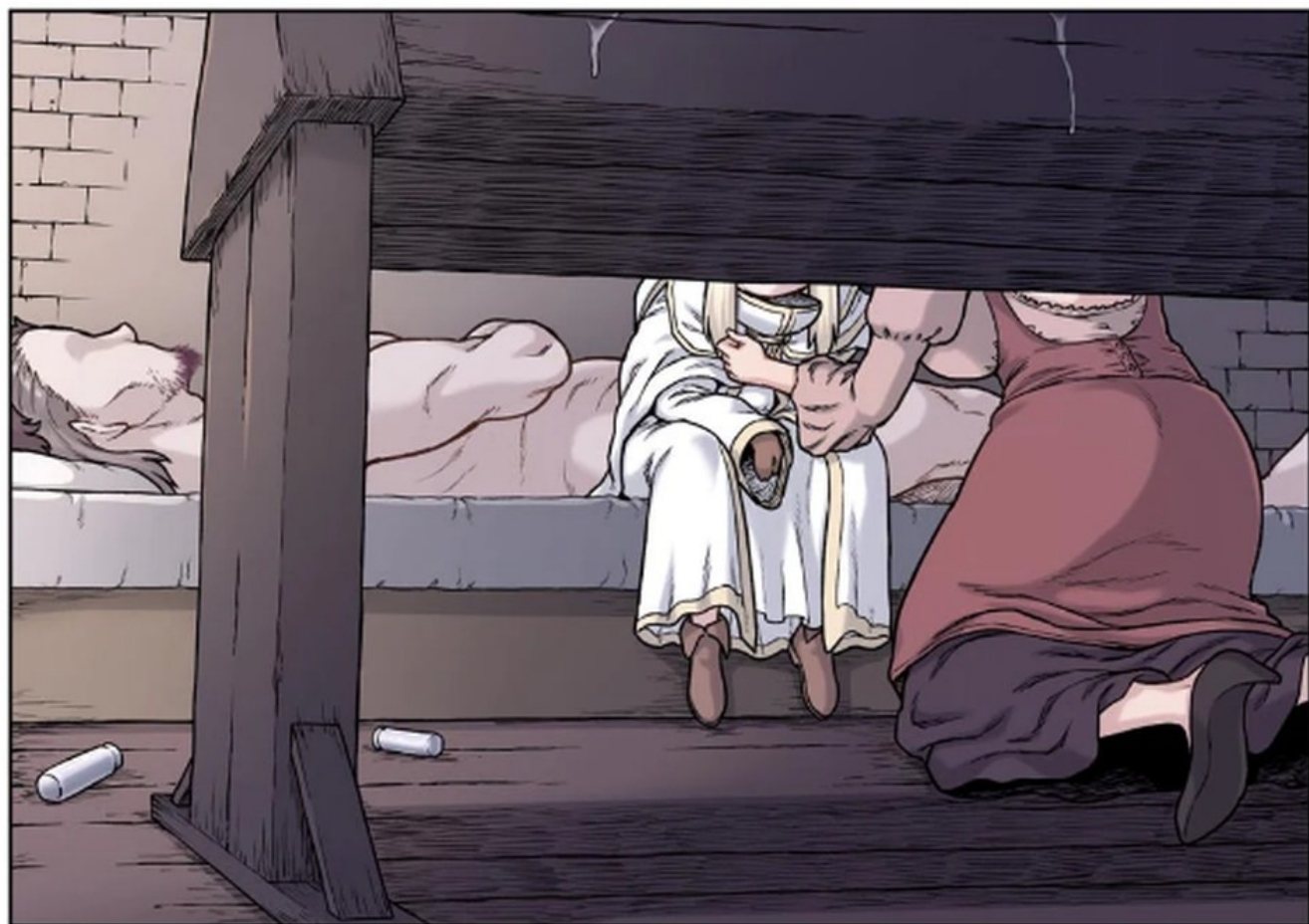
ああ  
いいな

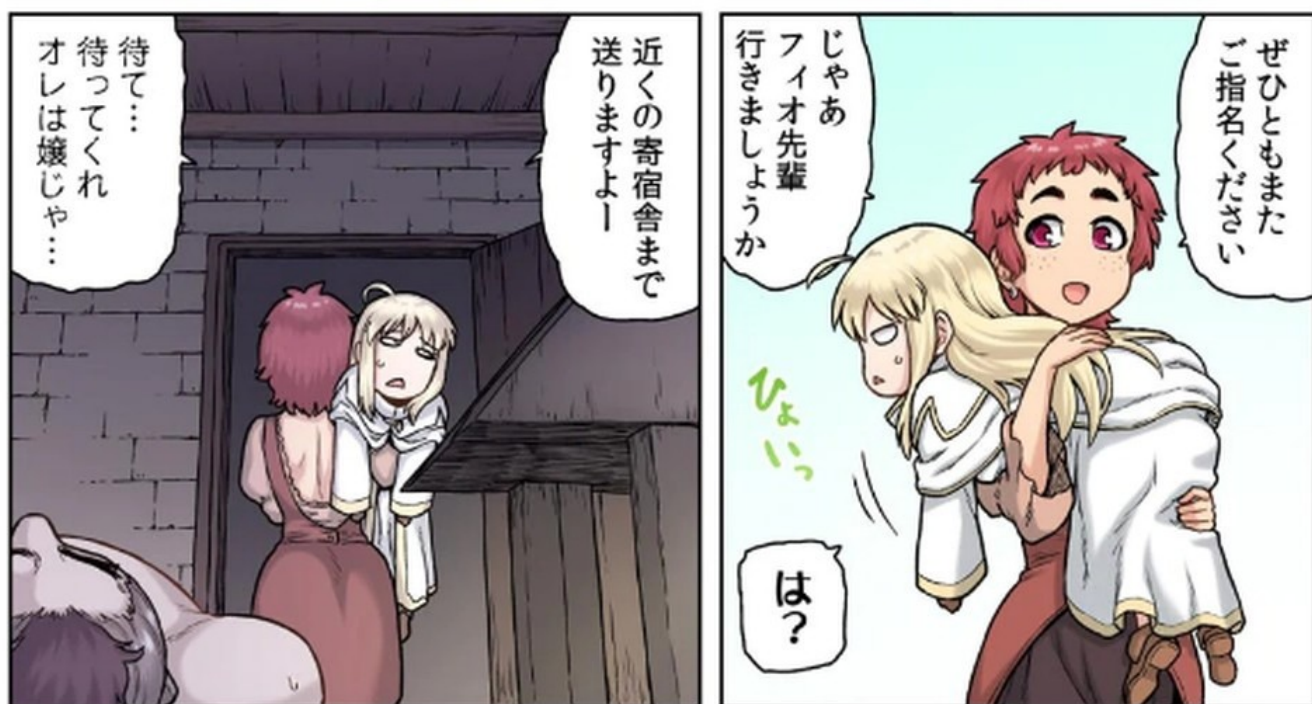
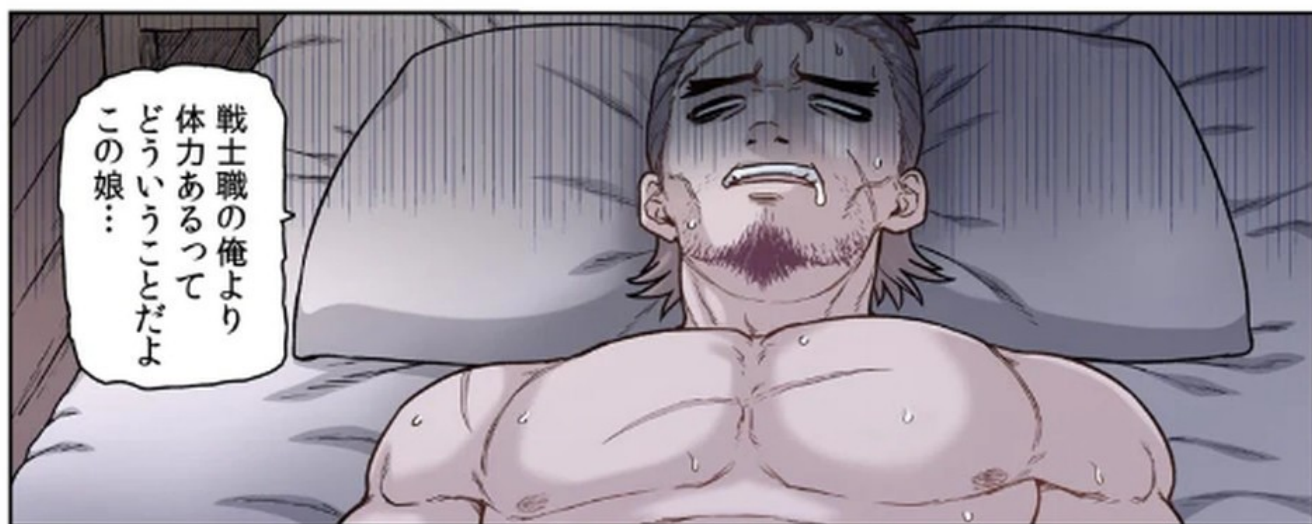
そうだったら  
最高だなオイ

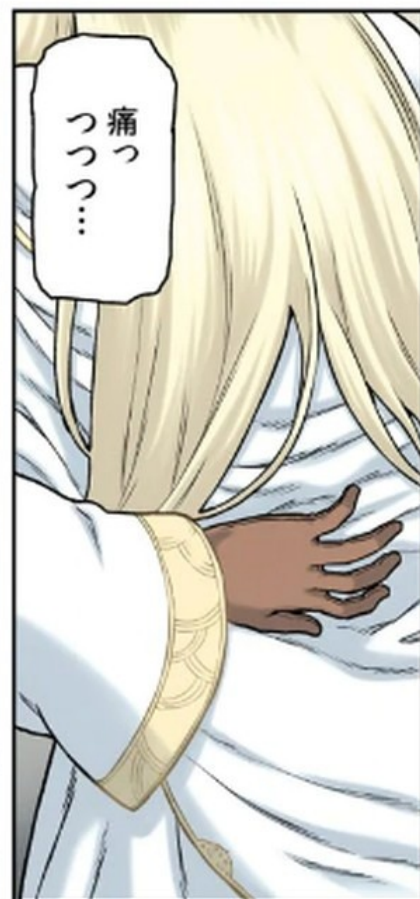
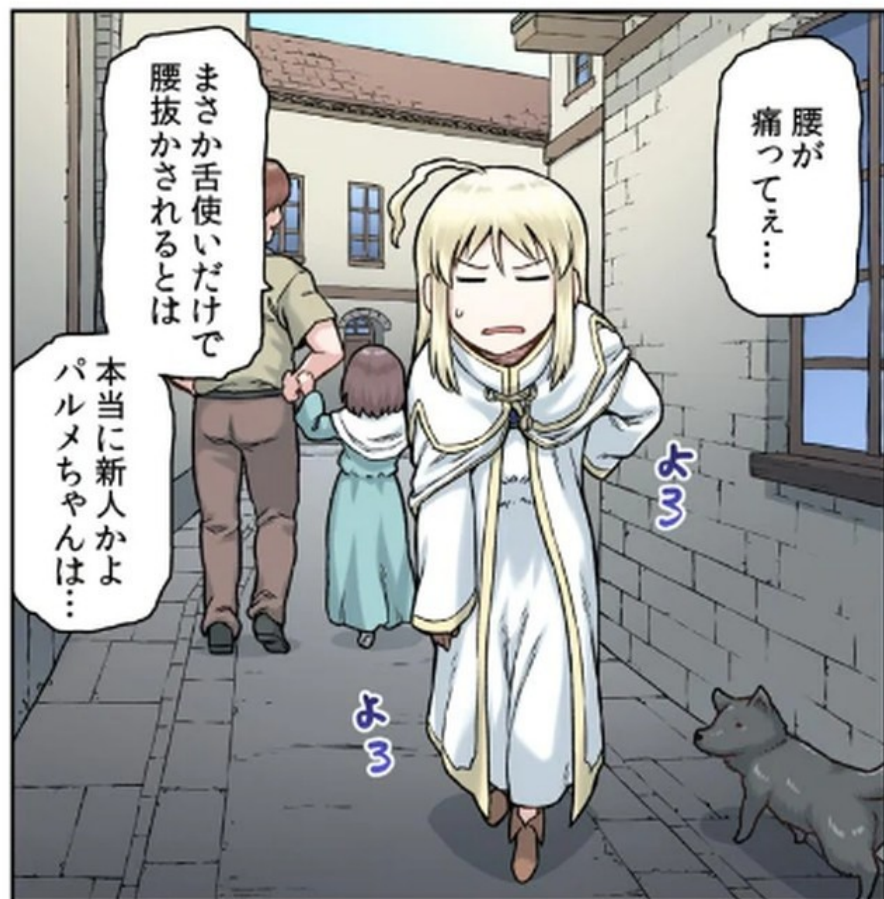
だから  
もう少し  
がんばれっ!!











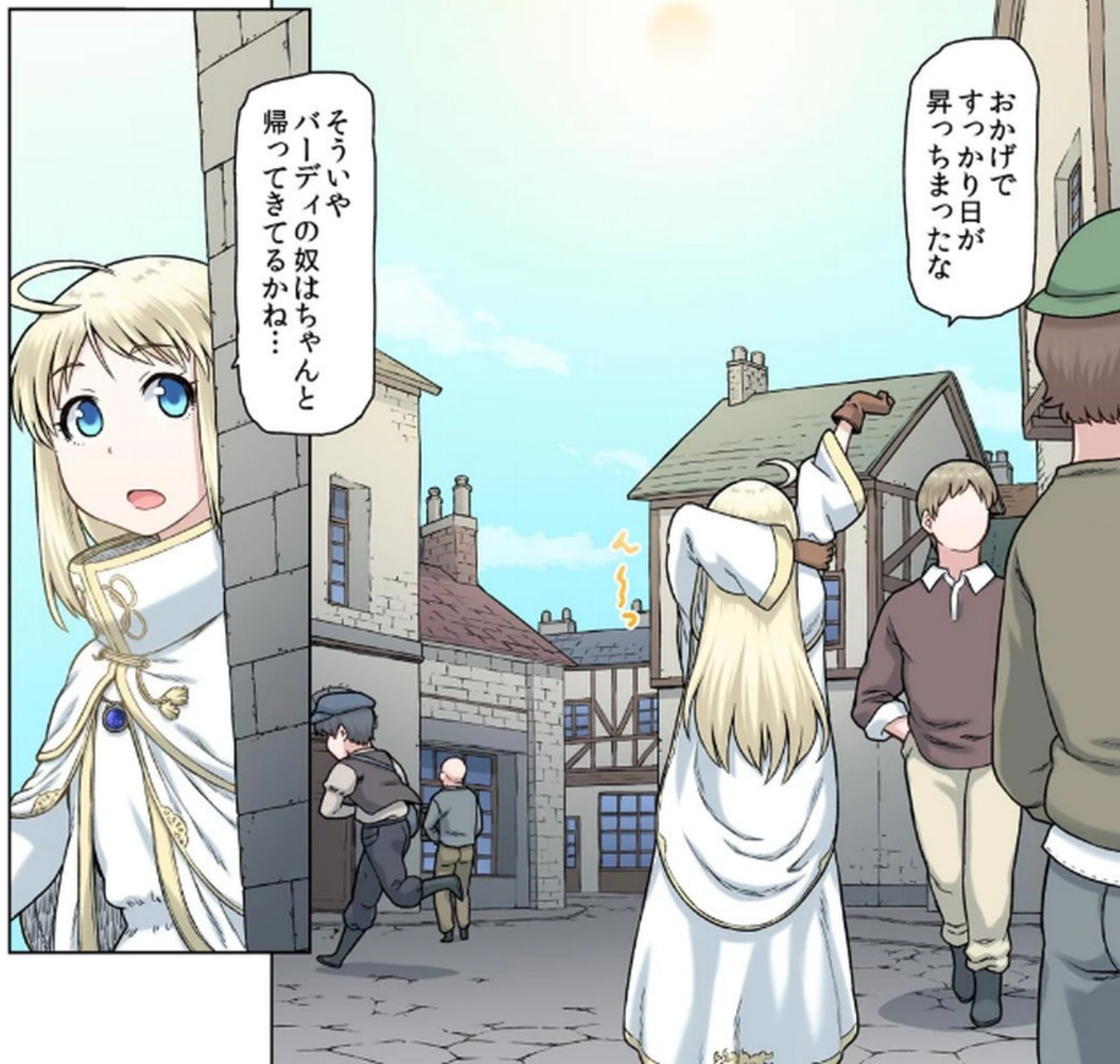


そういえばあの娘  
すげえ怒られてん  
のにぜんぜん  
堪えてなかったな

はあ♡

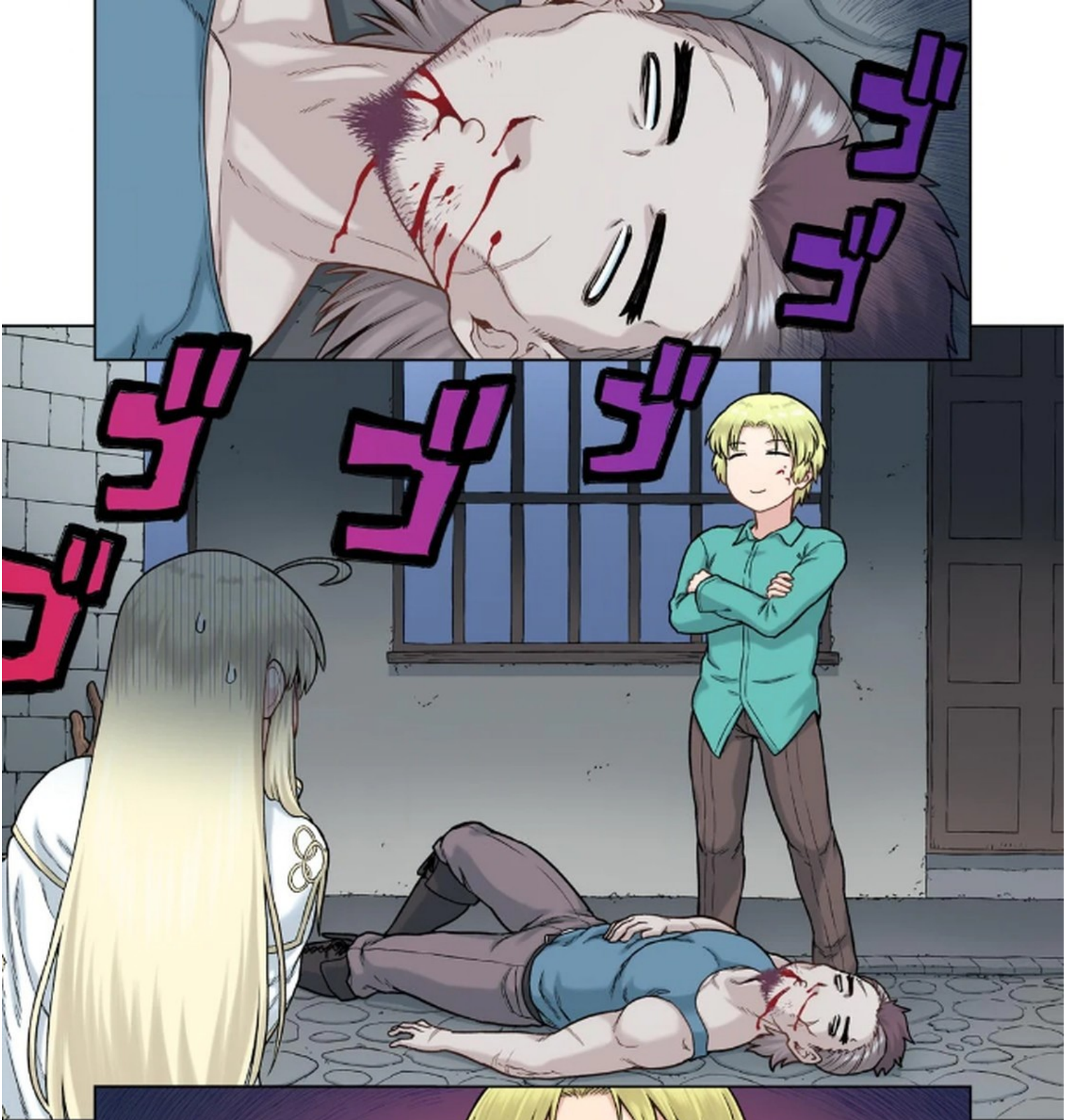
ありや大物に  
なるわ…

はあ♡



おかげで  
すつかり日が  
昇っちまったな

そういや  
バーデイの奴はちゃんと  
帰ってきてるかね…



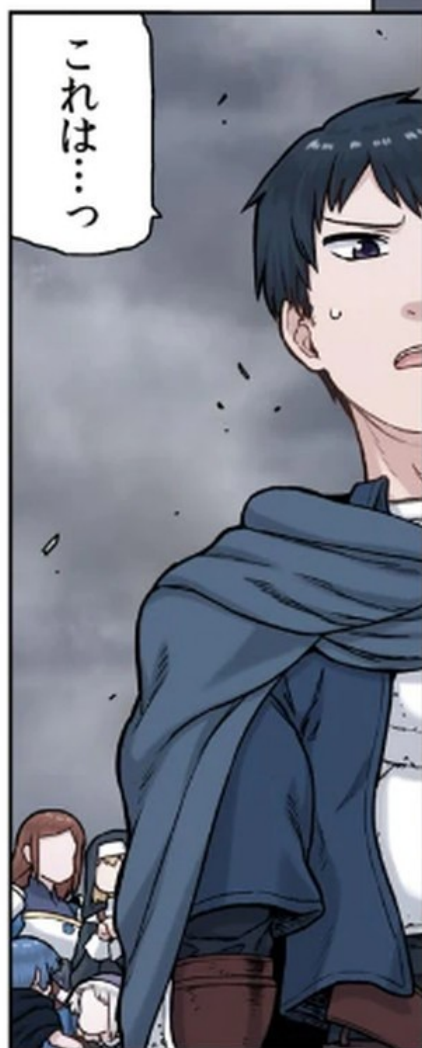
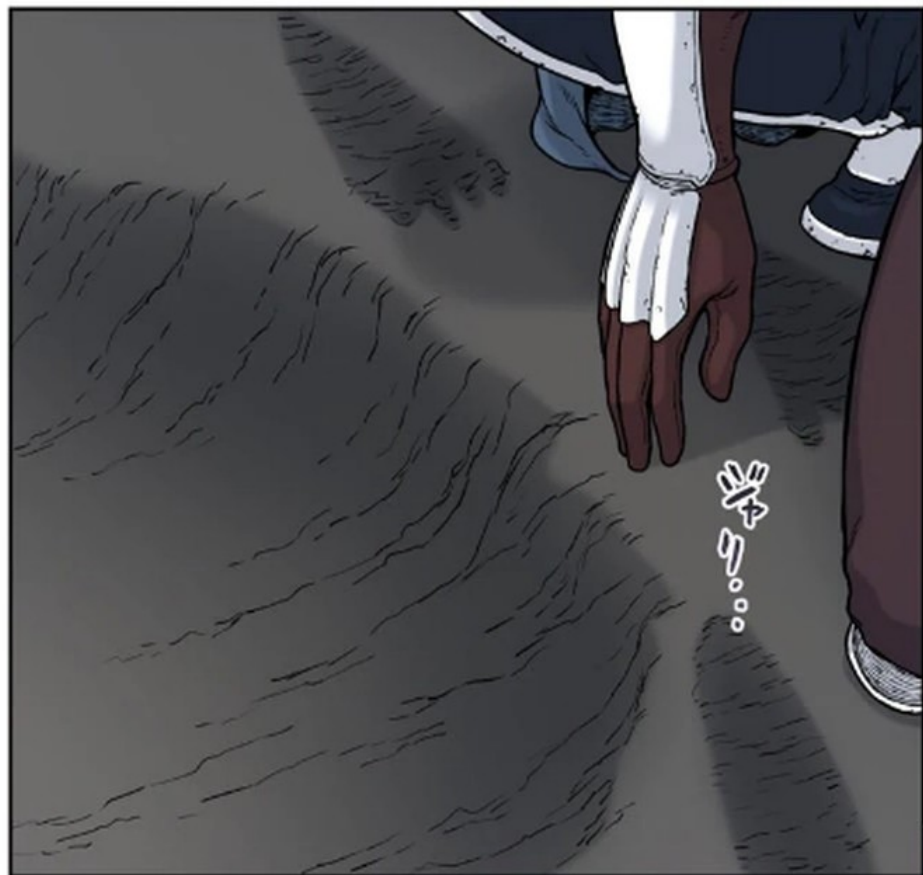


実はオレー人で  
索敵に行つて  
きました

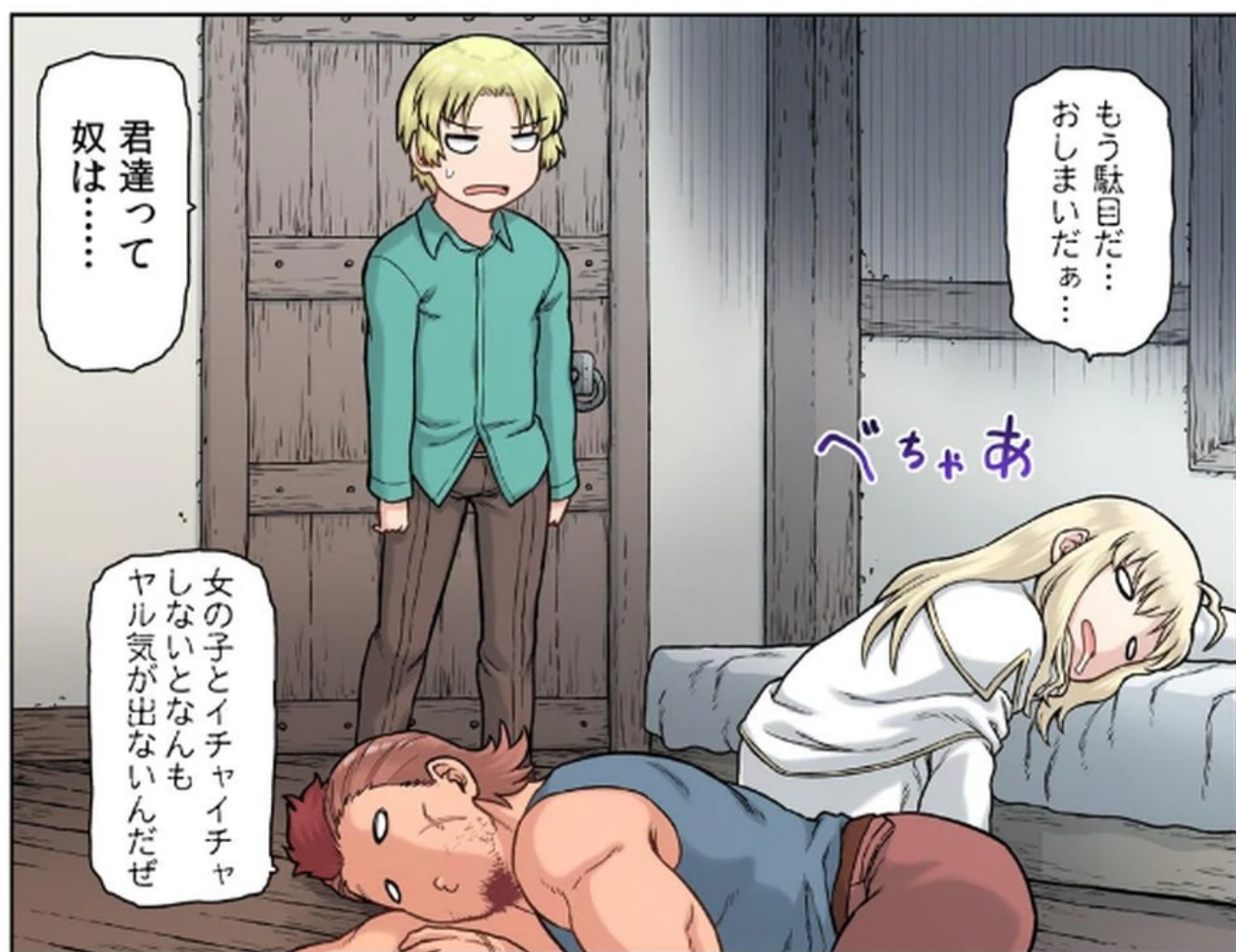
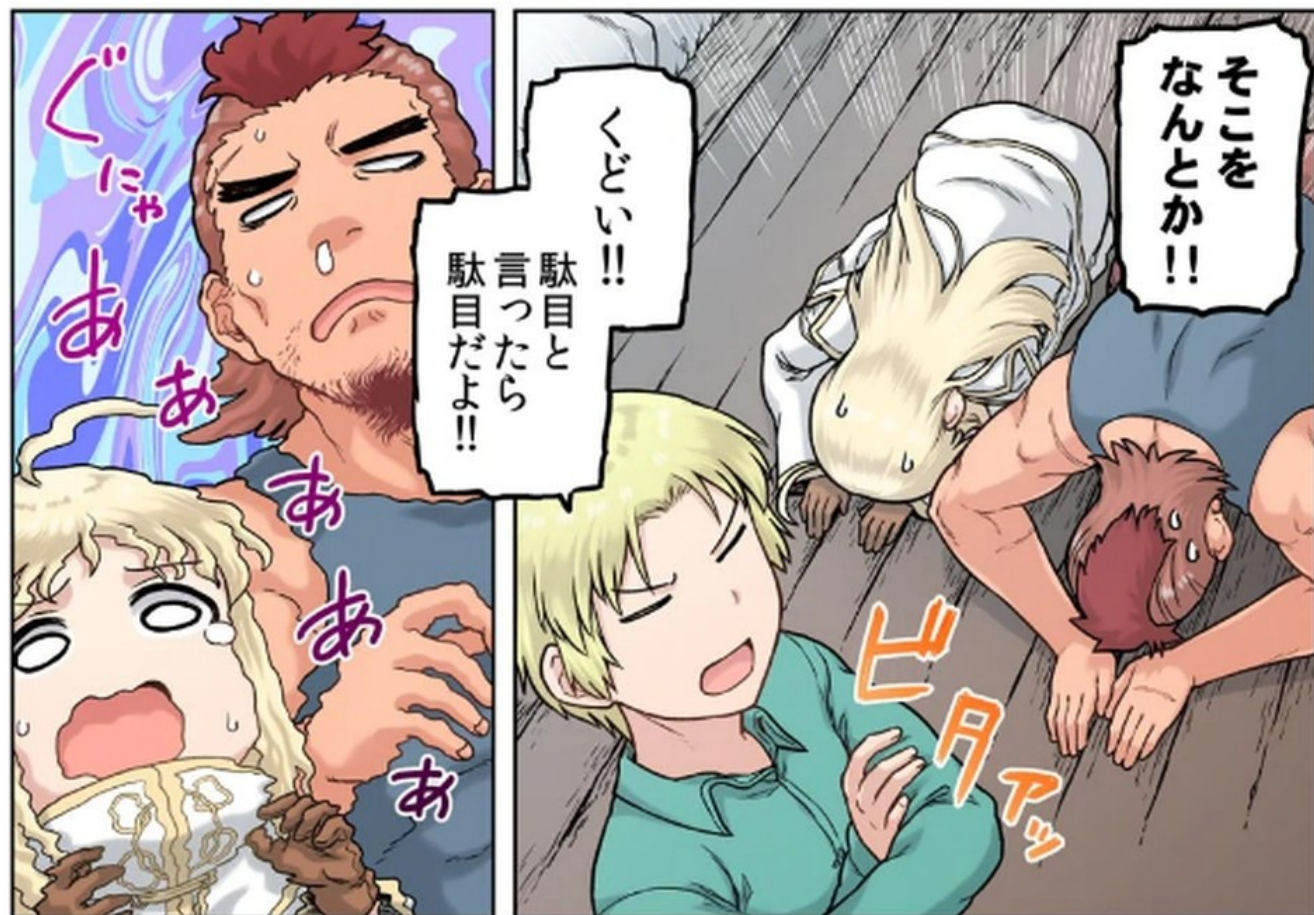
そしてなんと  
大魔王<sup>バカメ</sup>みたいなの  
奴を発見した  
次第です

褒めてください









普通の酒の  
席なら付き  
あうからさ…

少なくとも  
遠征中くらいは  
我慢しなよ

こうなりや  
あの4人娘の  
誰でもいいから  
お酌とかして  
くれんかなあ

それアルト様との  
ノロケ話をたつぷり  
聞かされるのが  
オチだぞフィオ…

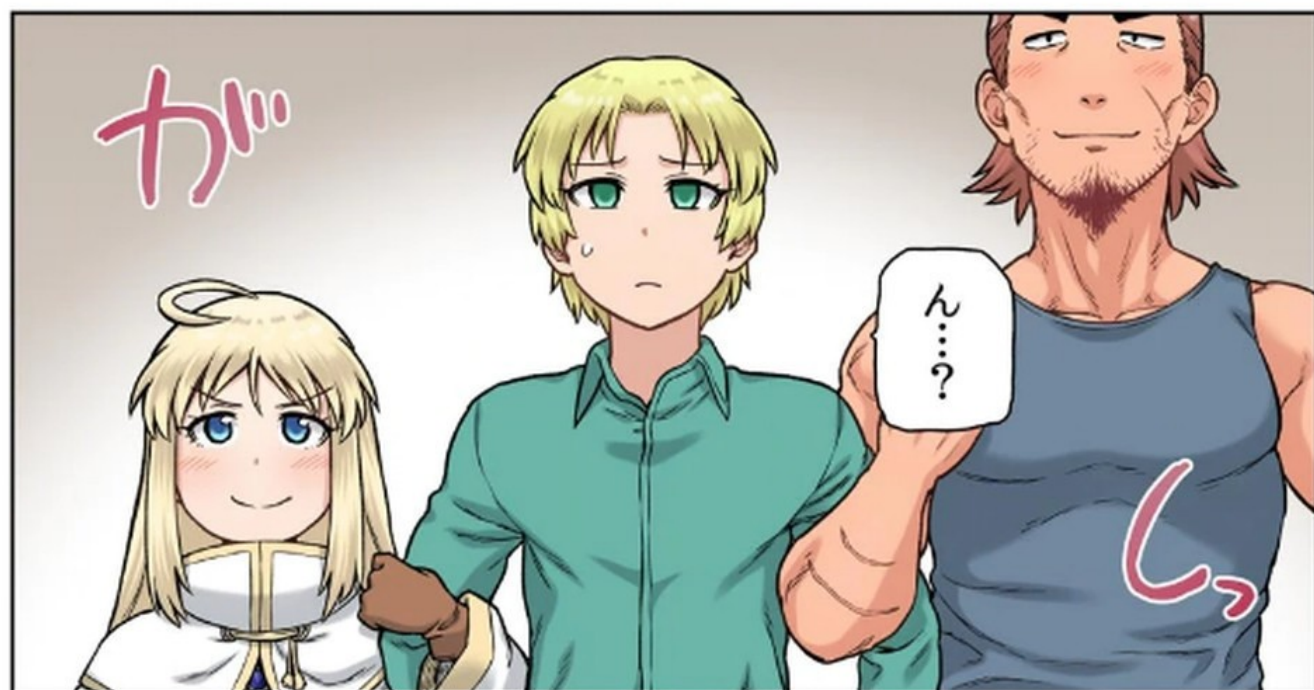
うぐっ!?

はあ…  
オレを甘やかして  
くれる女の子は  
いないのか…

フィオ…

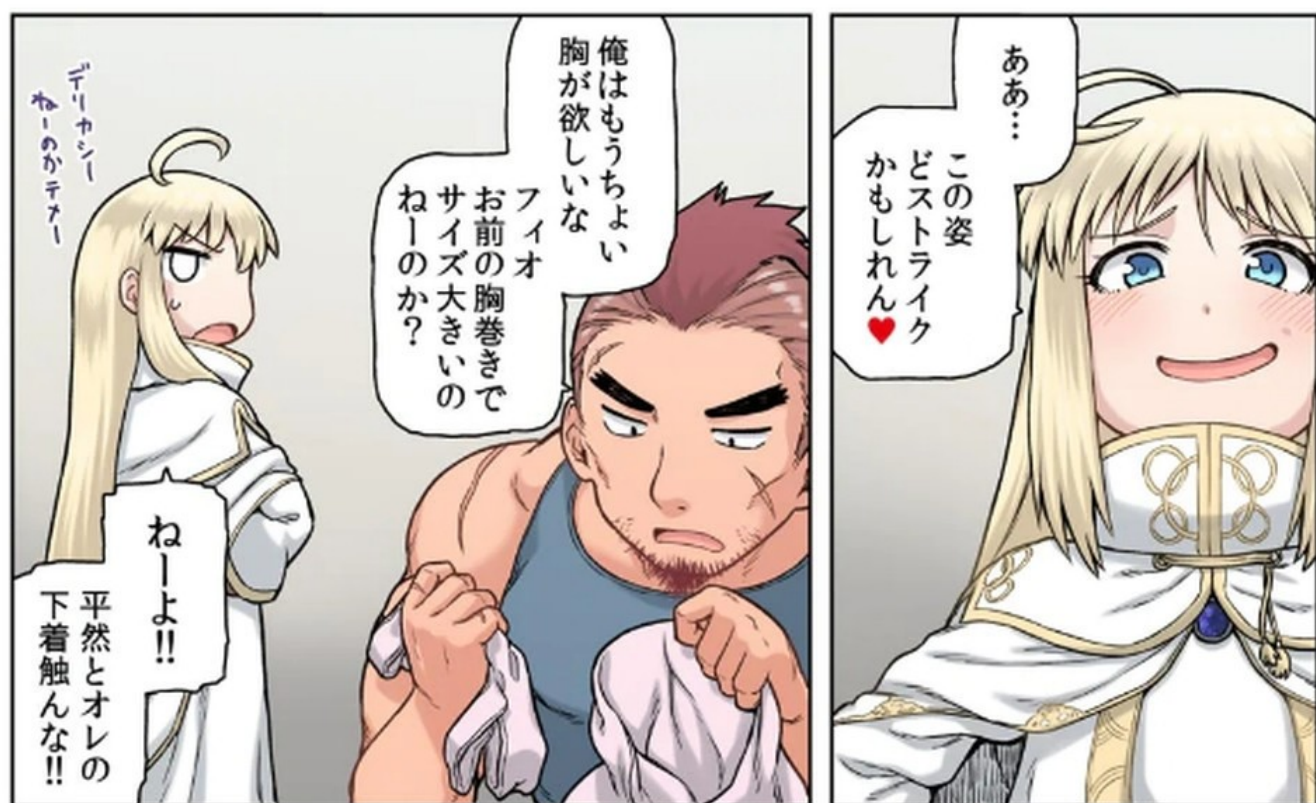
君は自分が  
女だつて時折  
忘れてないかい?

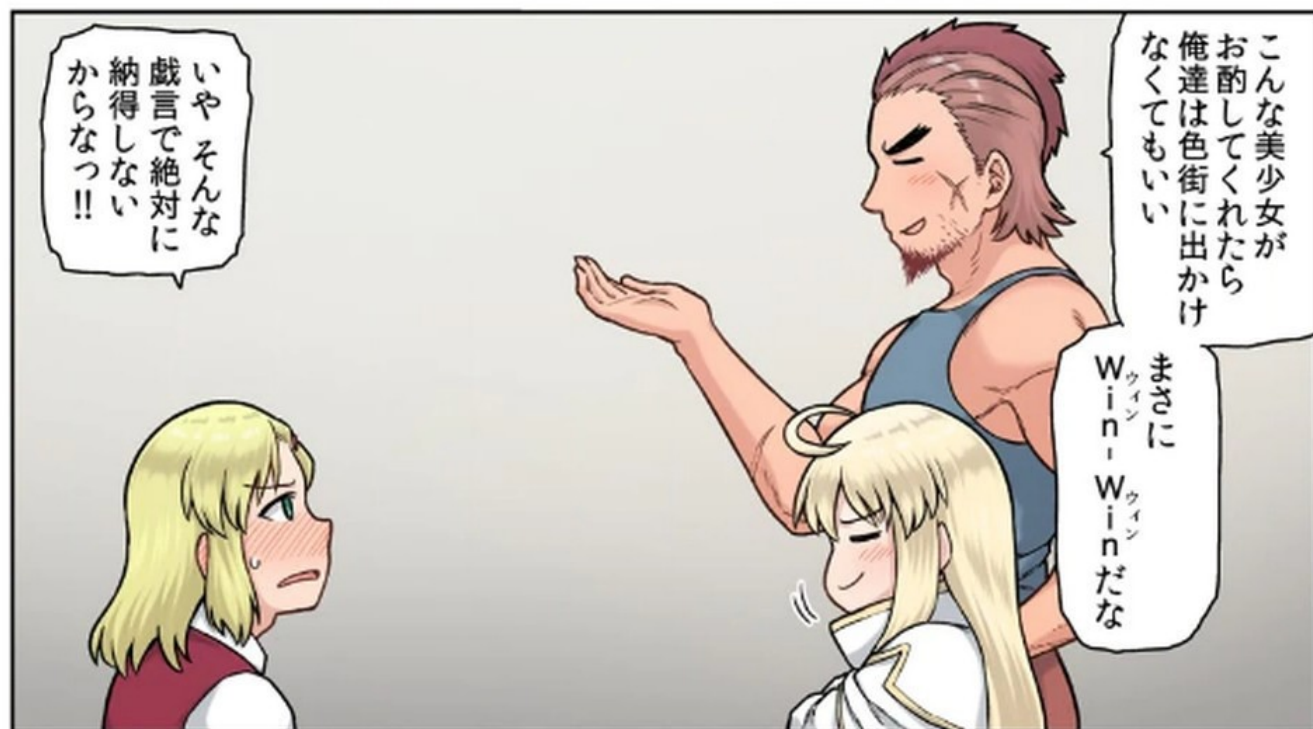
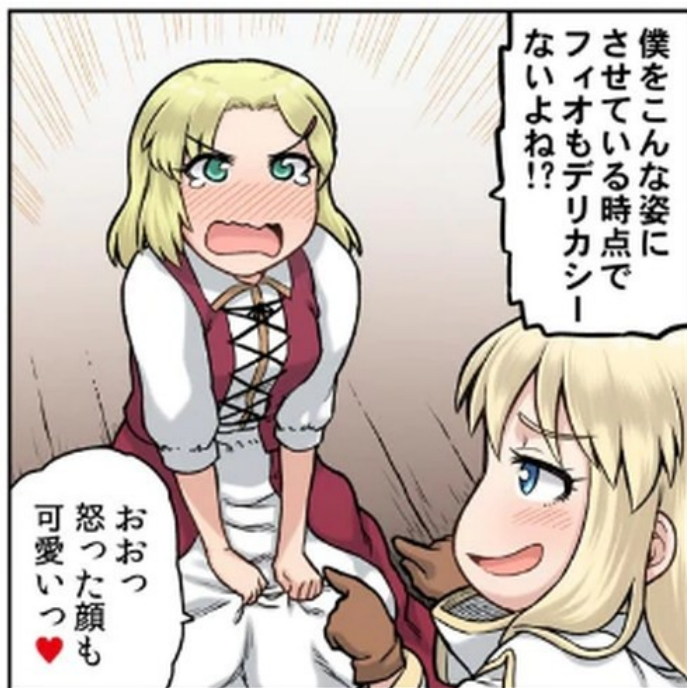


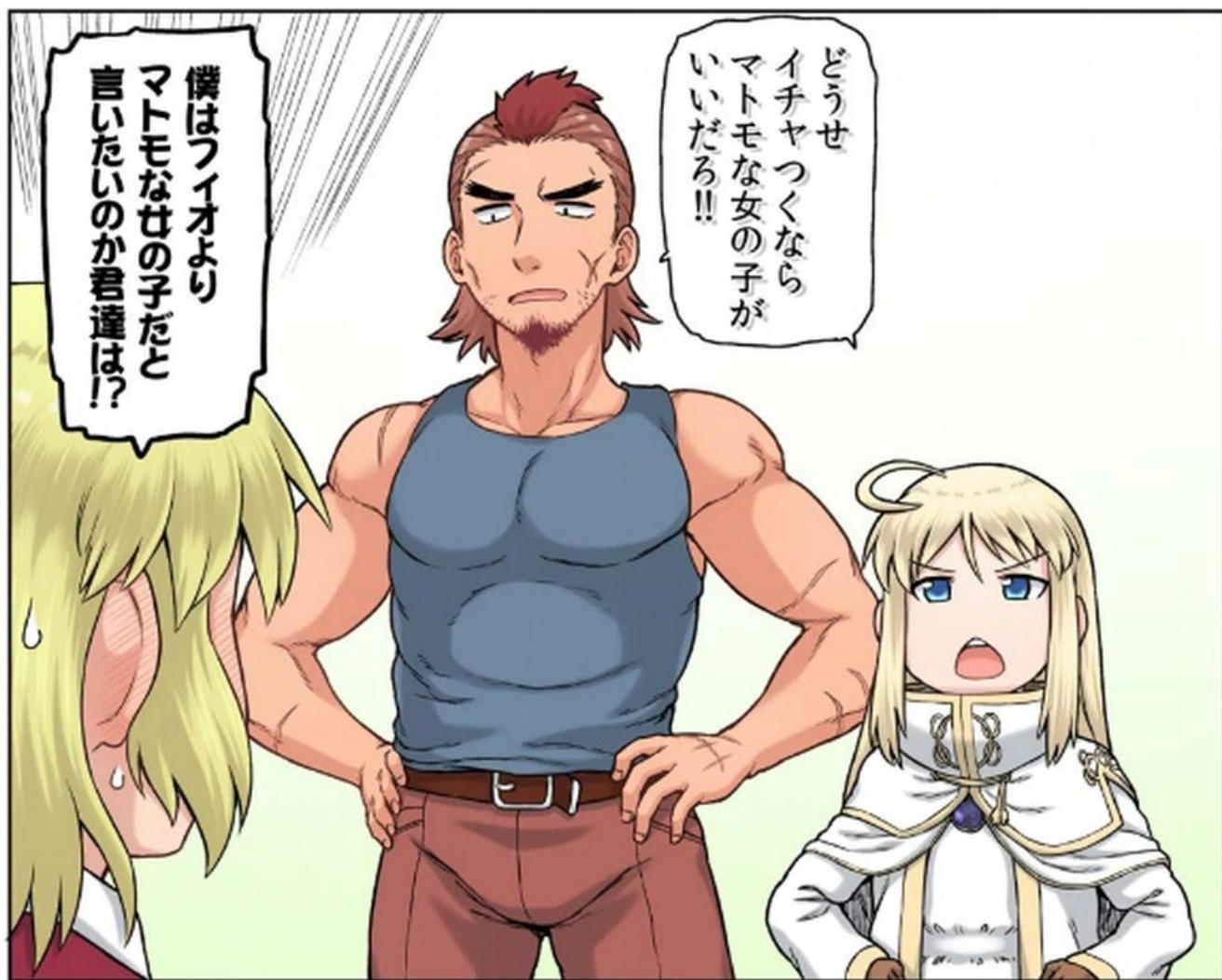
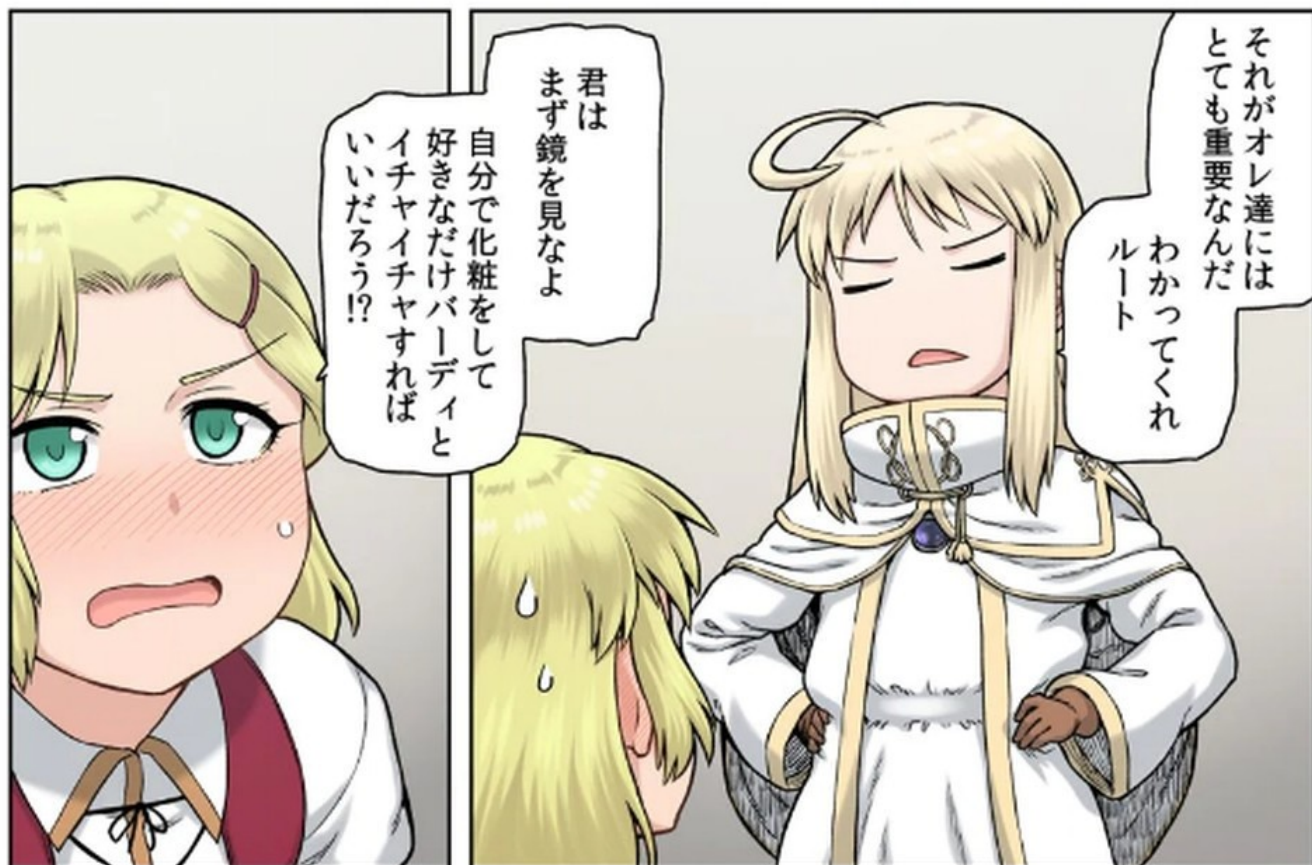




おかしい  
だろおおおつ!?









いいねえ  
なら俺は効果の  
ある5分内で

じゃあオレは  
5分以上だなっ

こいつら本当に  
勇者パーティ  
なのか…？

オラオラ口開ける  
ツンデレルートちゃんに  
してやるよ!!

待て待て俺は弱気な  
ルートちゃんが  
見たいぞ

こつちを飲め  
オラア!!

んんんん!!!

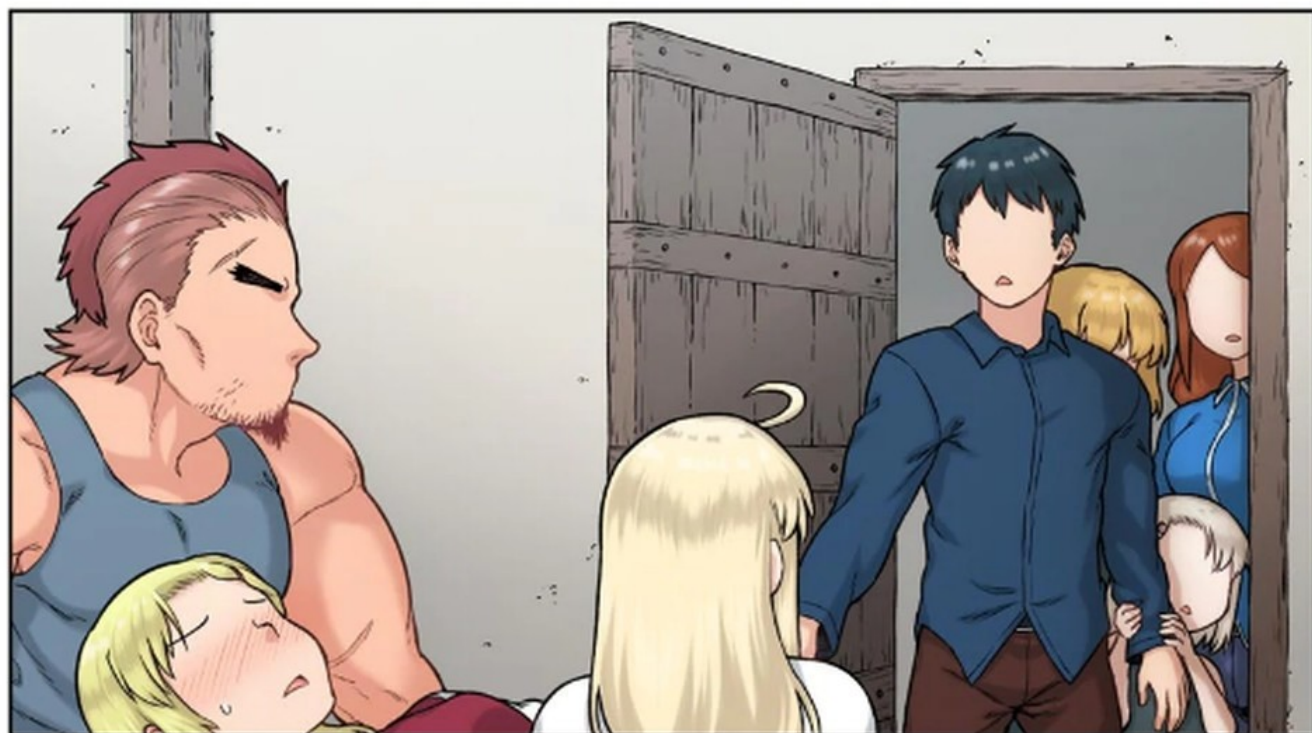
ぎゅ  
むっ

バァ

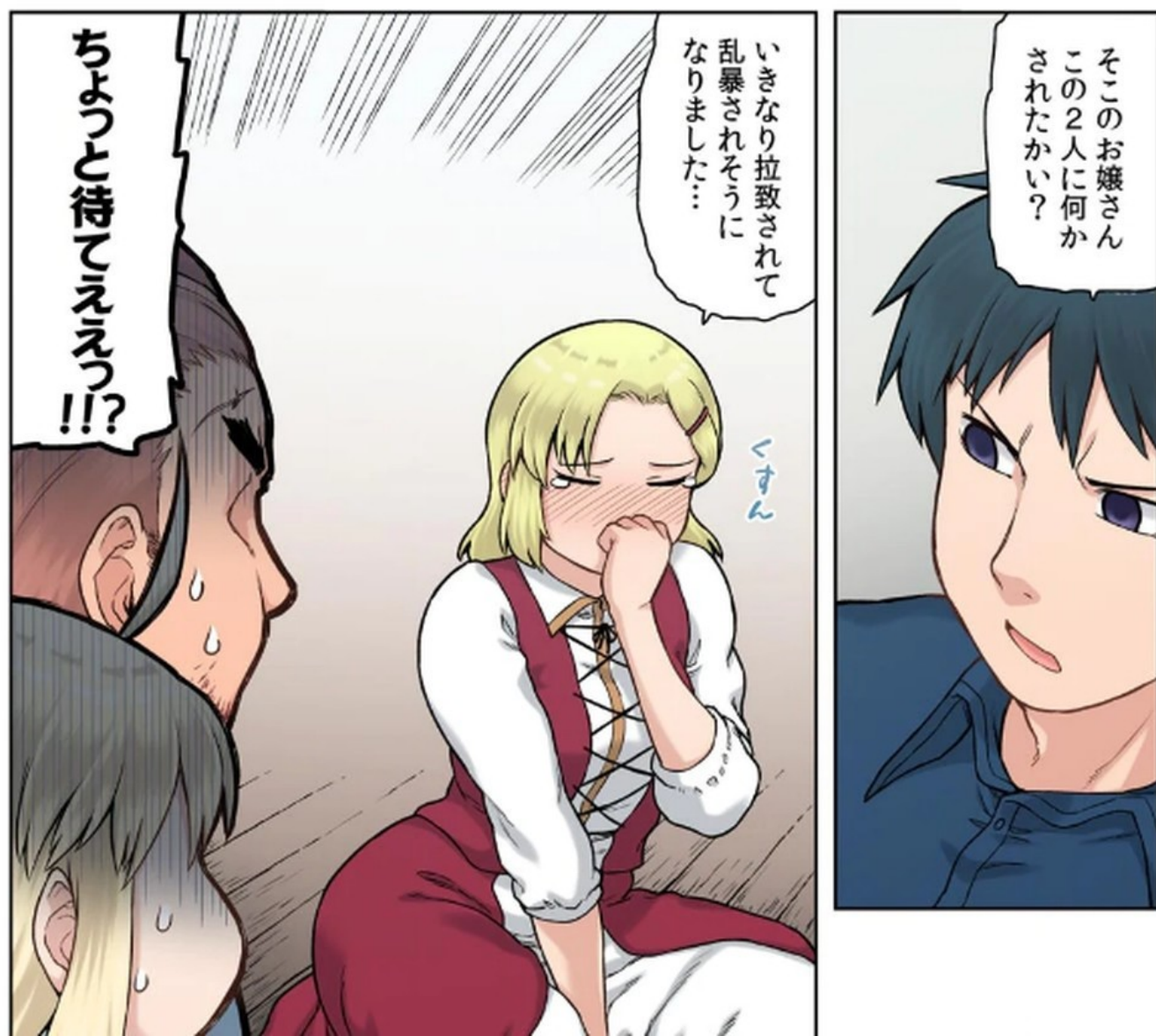
離せーっ  
立派な犯罪だぞ  
コレはーっ!!

お前ら  
さっきから  
何を騒いで…

チャッ







今ふざけるのは  
やめろルート!?

無理矢理  
口に変なモノ  
突っ込まれ  
ました…

それは事実  
だけでも!!

あんなに  
イヤだつて  
言ったのに…

効果  
切れてんだろ!!

にやり

おい今  
笑ったぞ  
コイツ!?

やめろやめろ  
それ前に魔將軍を  
一刀で切り捨てた  
技の構えだろ!?

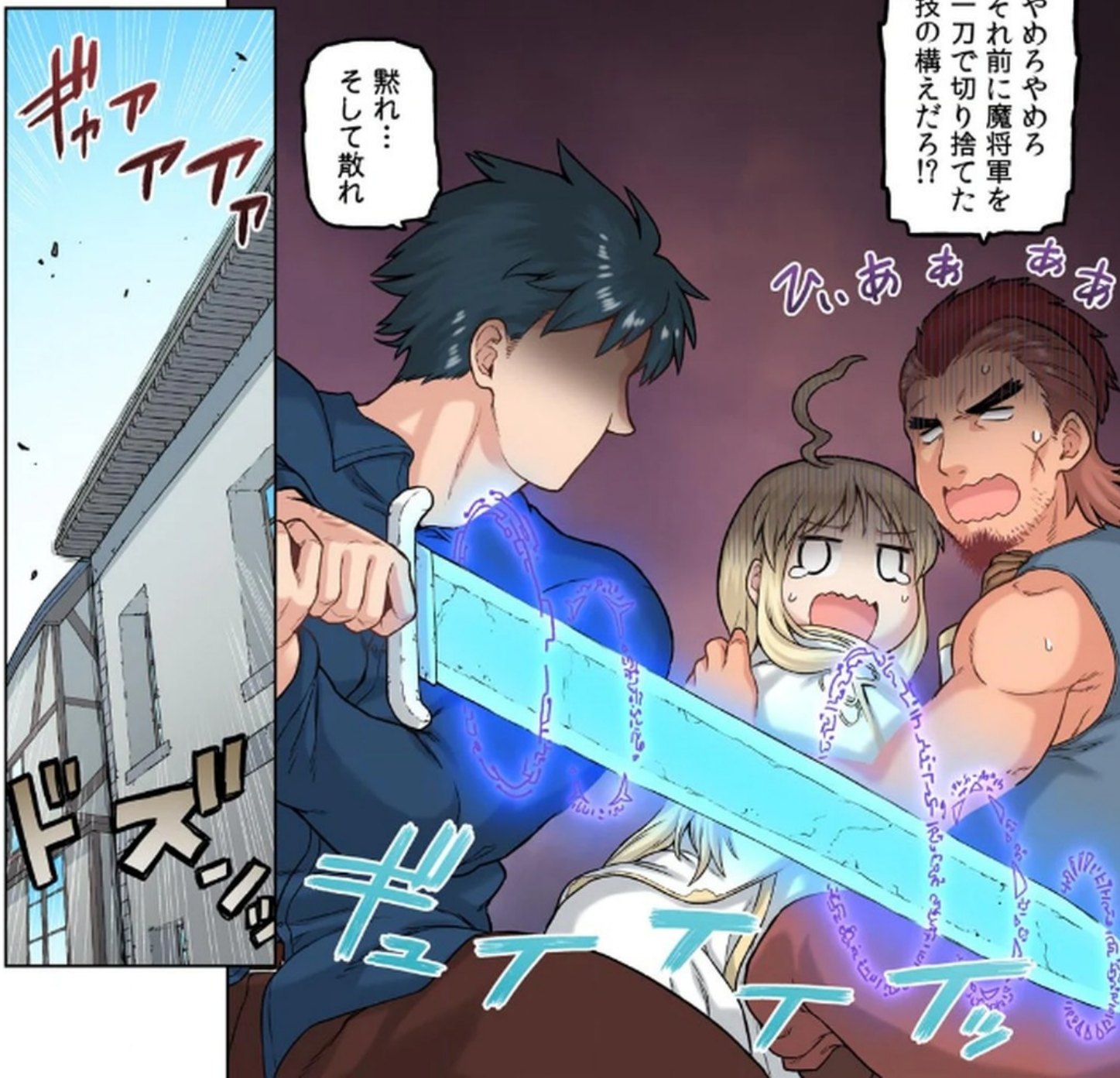
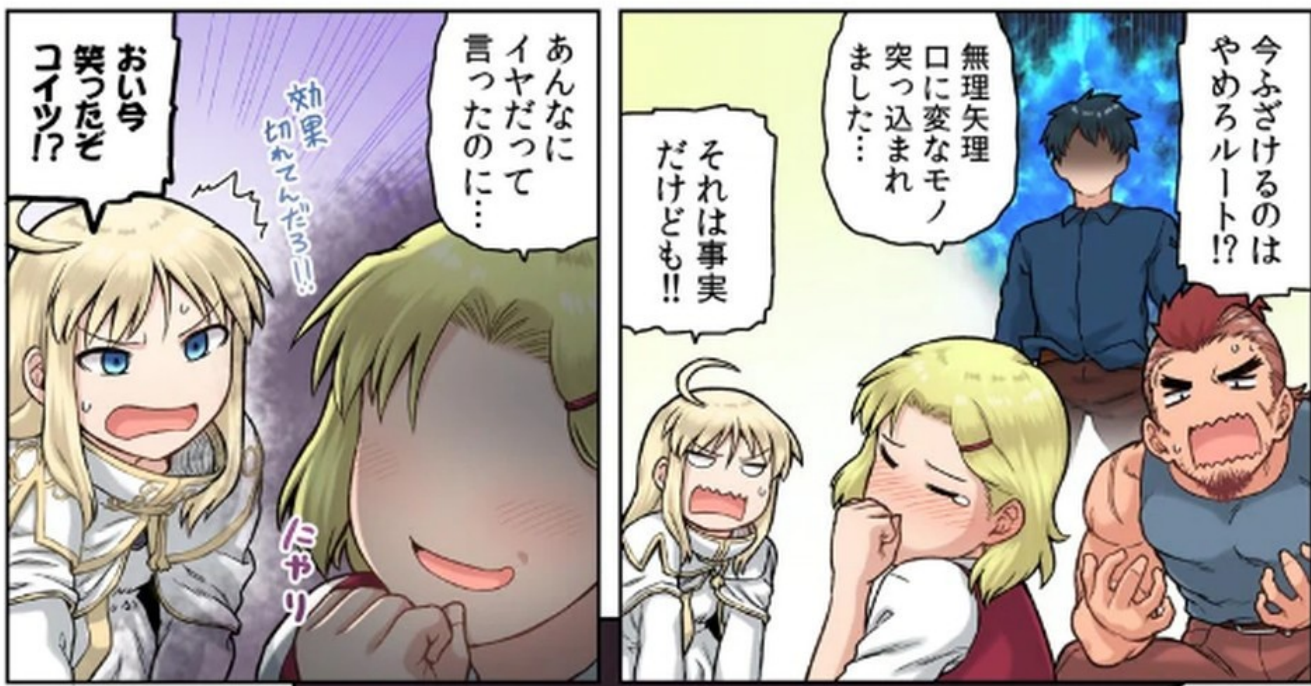
ひ、あお ああ

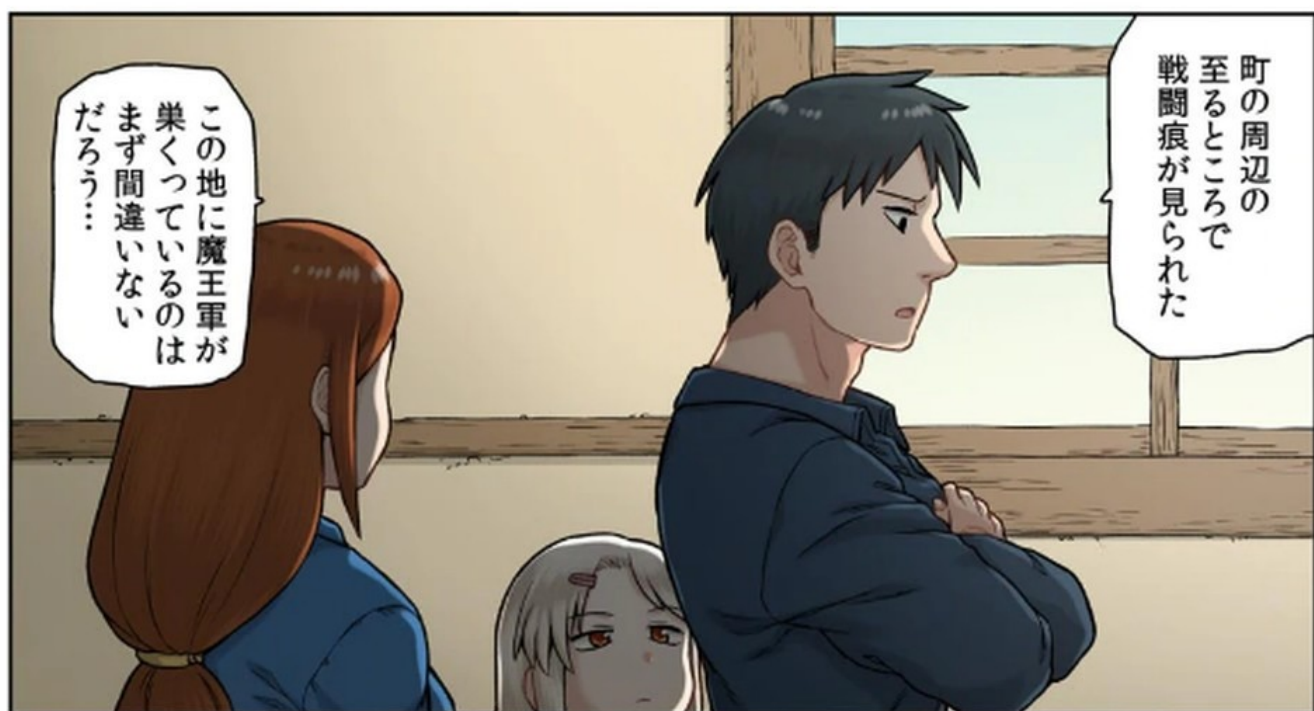
黙れ…  
そして散れ

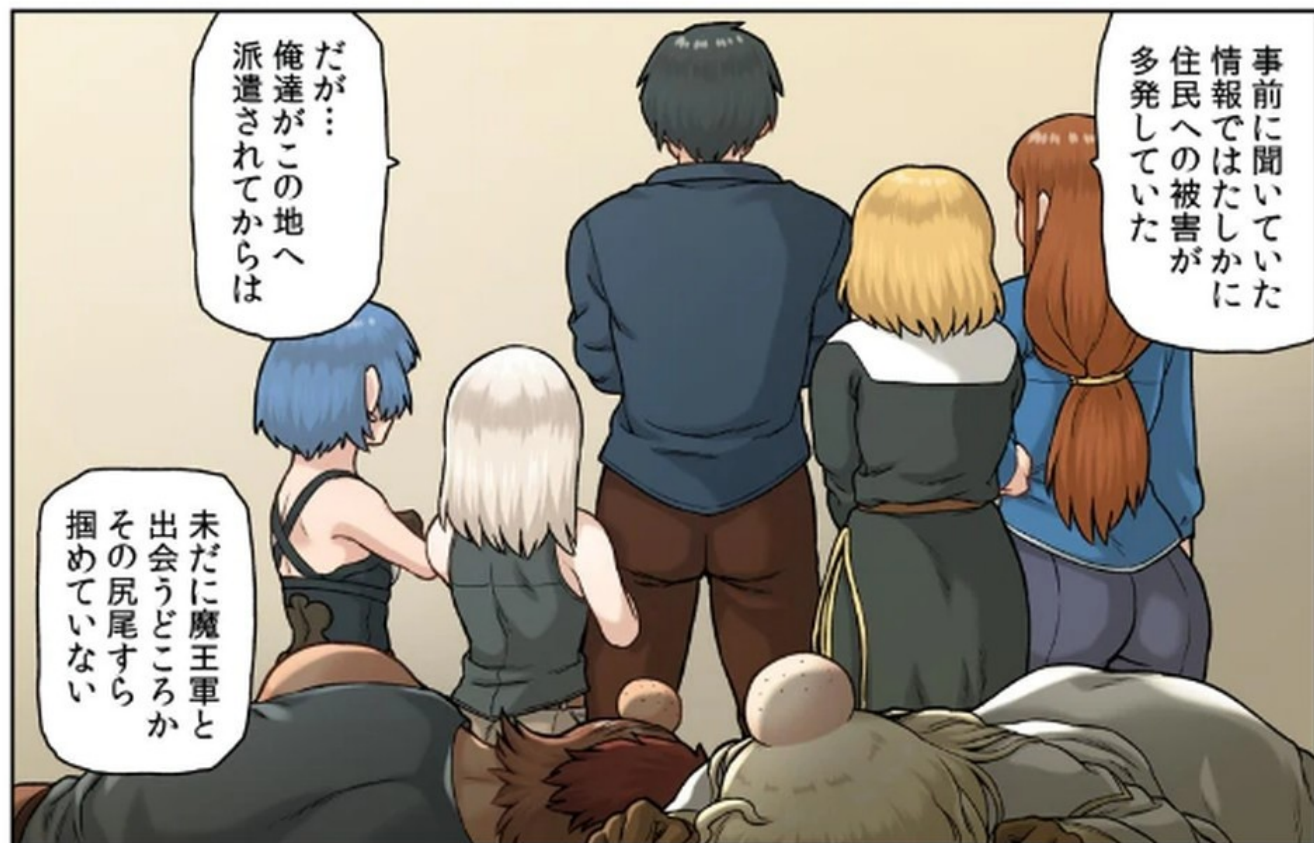
ハ  
ア  
ア  
ア  
ア

ド  
ズ  
ズ

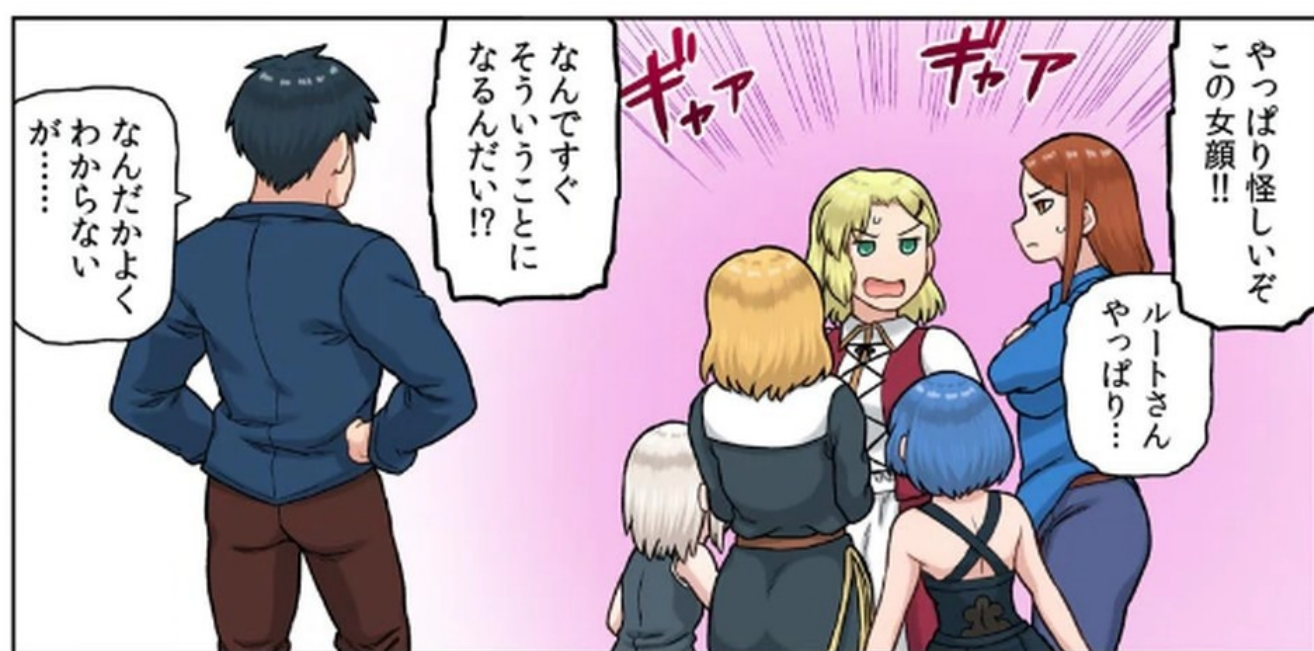
グ  
ッ  
ッ  
ッ  
ッ





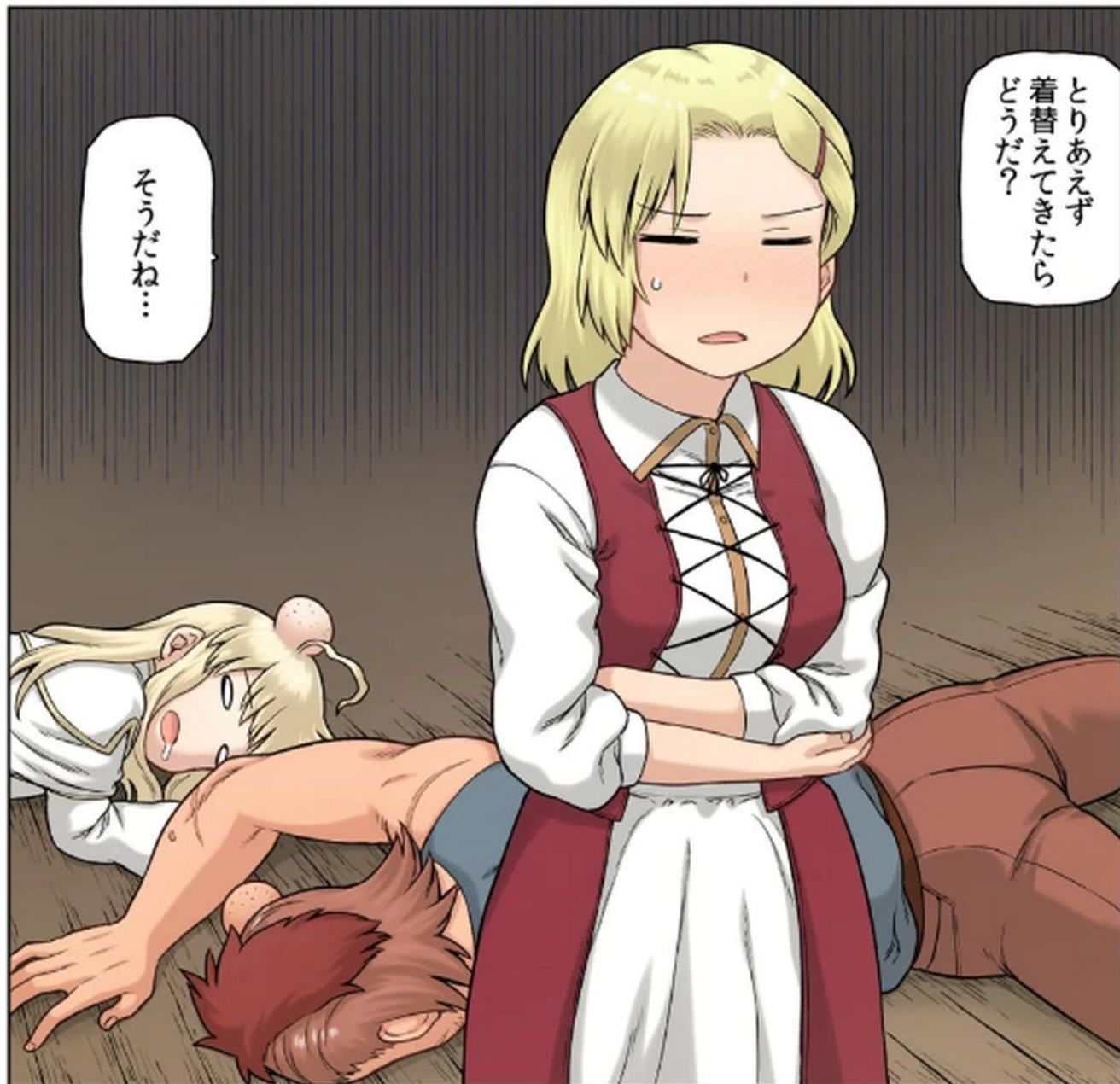






とりあえず  
着替えてきたら  
どうだ？

そうだね…







アルトザイン案  
Ver.1.5

一番下のインナーは  
耐火、耐熱仕様の  
特殊な革製  
素材は高いが  
適宜性は最悪  
とされる

分厚い刃が  
とにかく頑丈

前傾りのボコ  
には止血帯が  
付いた案等

爪先とかかどは  
金属が仕込んで  
ある。  
豪華にもとめて  
いた

後ろのボコには  
アルトザイン類  
弾性の革で  
製作されて  
ある程度は耐え  
られる

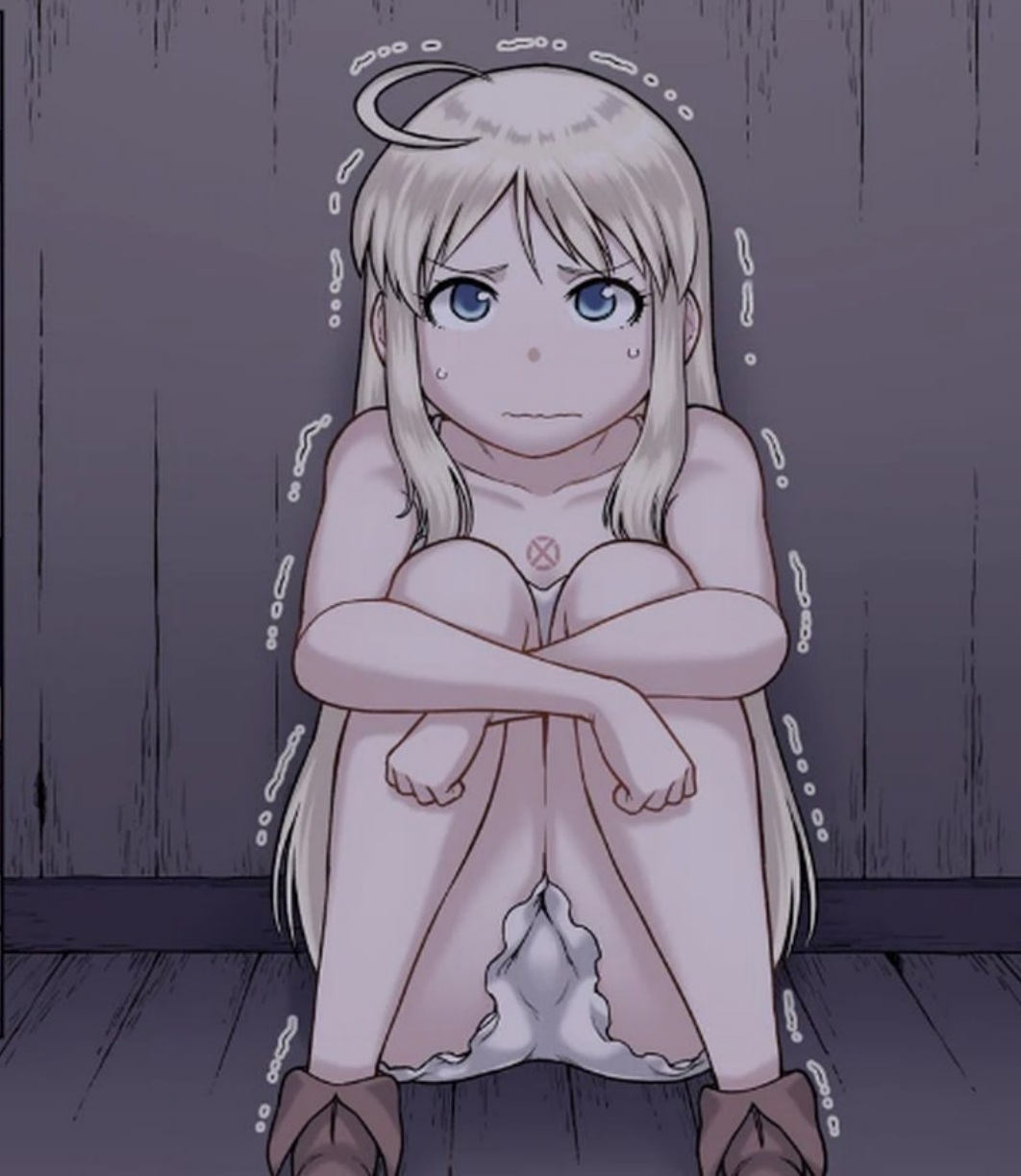
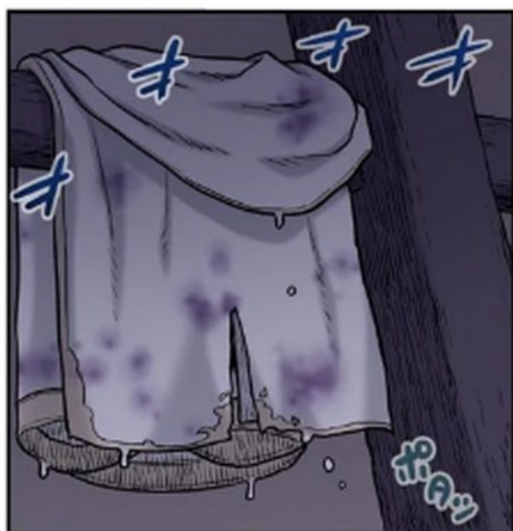
ボコ

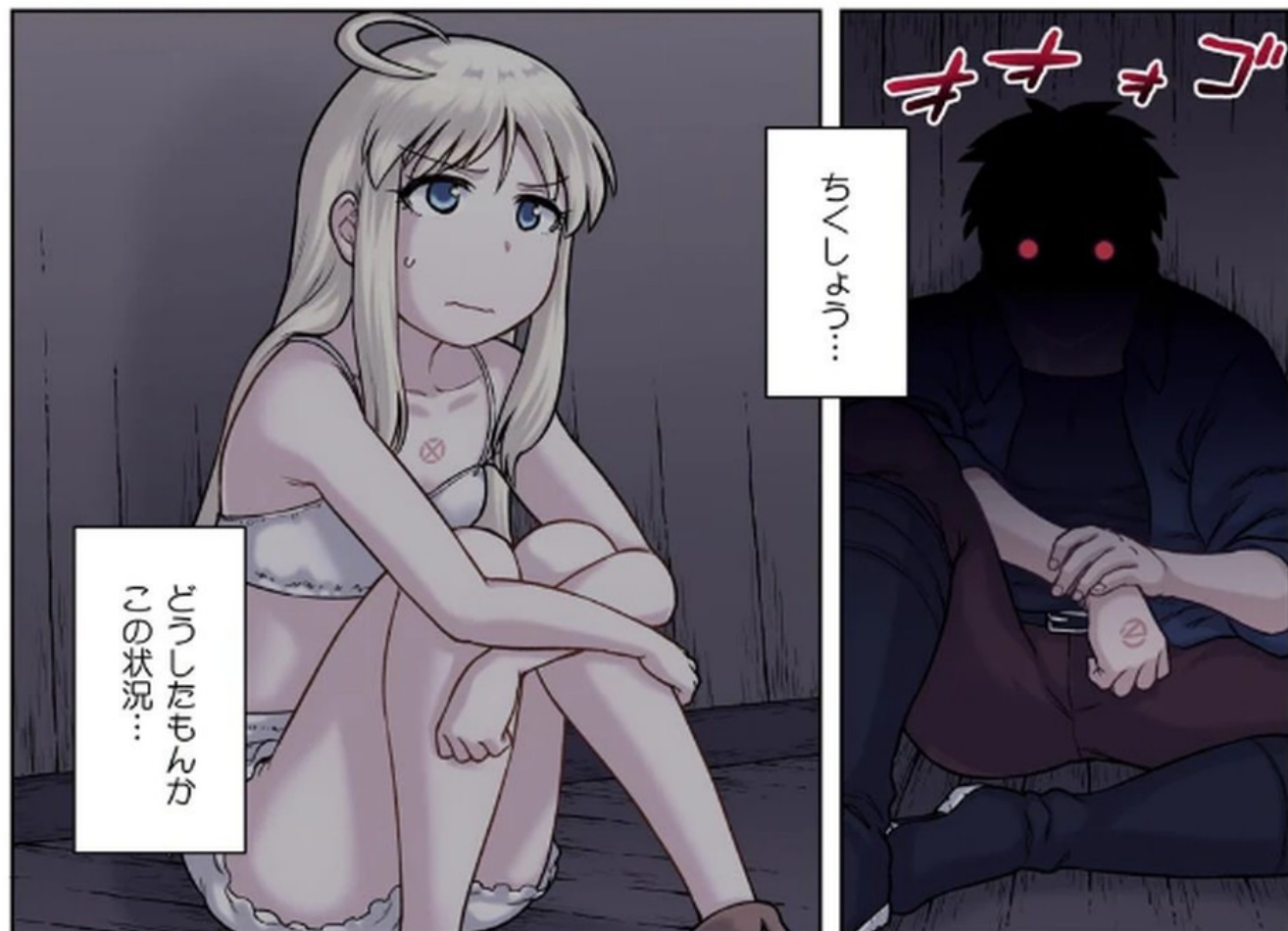
聖痕 右手甲




TS  
転生してまさかの  
サブヒロインに。


TS TENSEI shite  
Masaka no Sub Heroine ni.









王は魔族が  
撤退したと  
判断した



アルトは  
嫌な予感が  
すると  
言っていたが…




久しぶりに  
王都へ帰れると  
オレやバーディは  
大喜びだった



だが…

魔族はオレ達が  
街を離れるこの時を  
狙っていたのだ



火の手が上がる  
街に気付き慌てて  
引き返そうとした  
その時――



オレ達  
勇者パーティ  
御一行だった

次に魔族が  
奇襲を仕掛けた  
のは…



不意を突かれた  
オレ達にいつもの  
陣形をとる  
暇はなく…

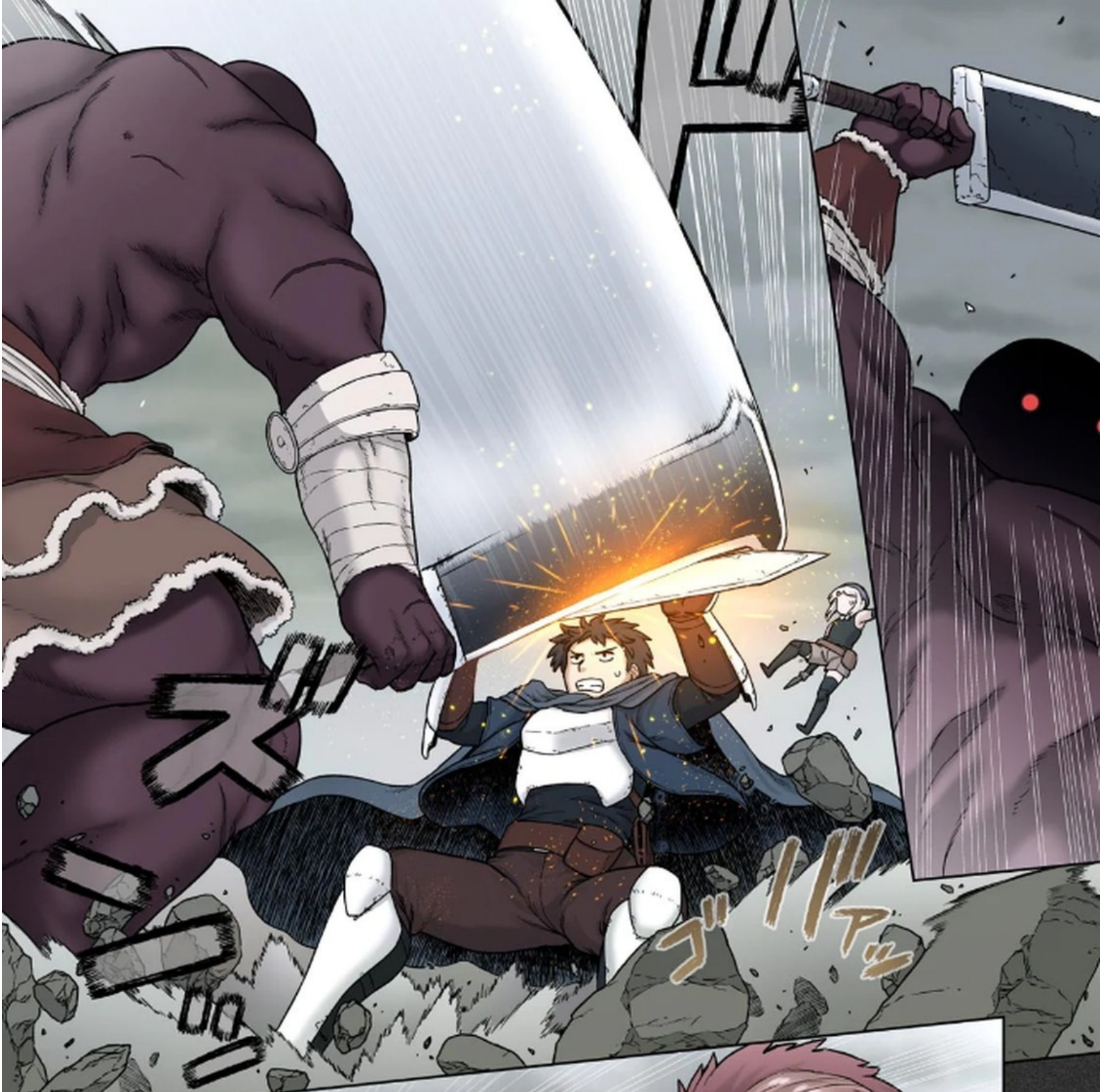
それぞれが個別に  
魔族の対処をするしか  
なかった…



!?

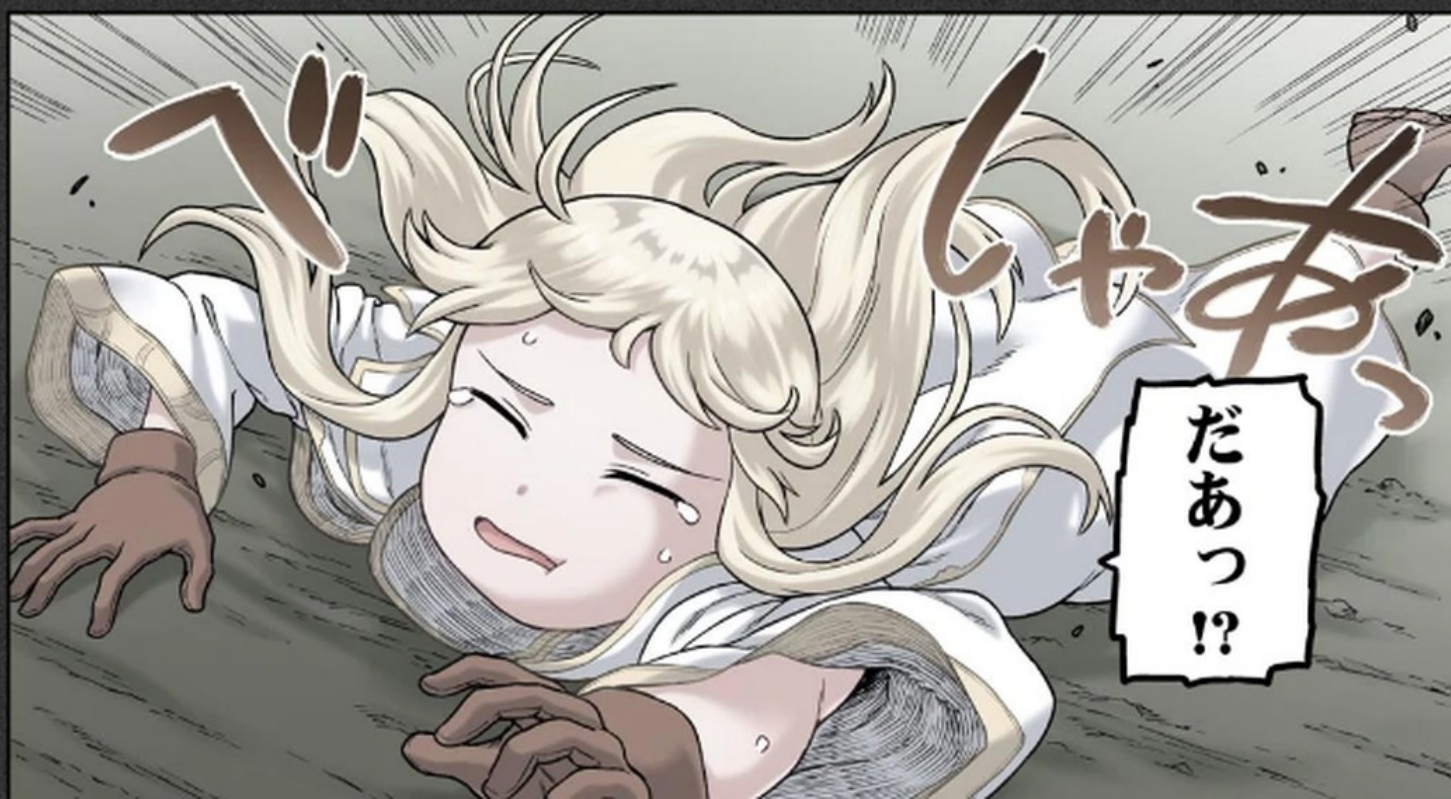
リン  
下がれっ!?

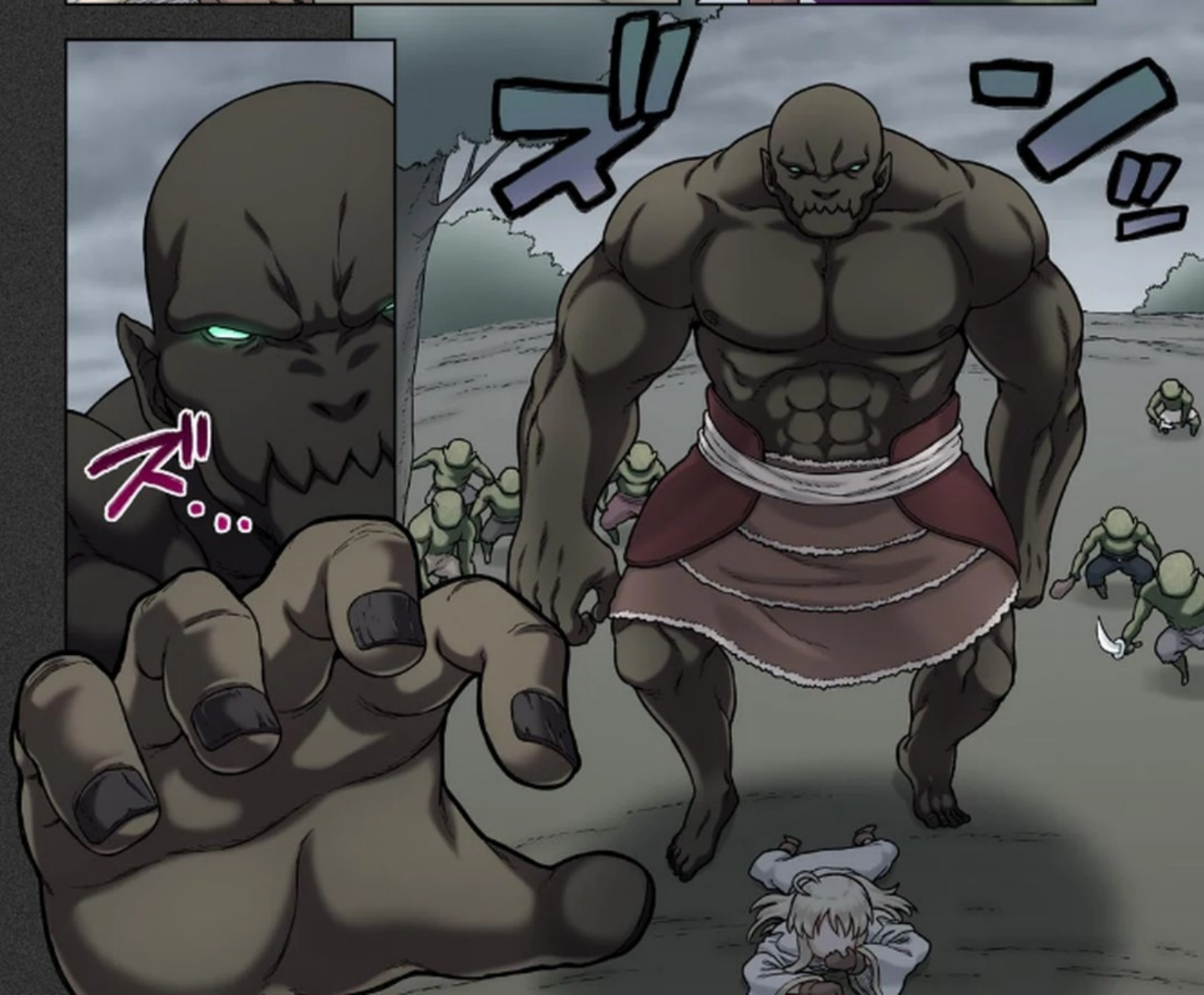




アルトツ!?

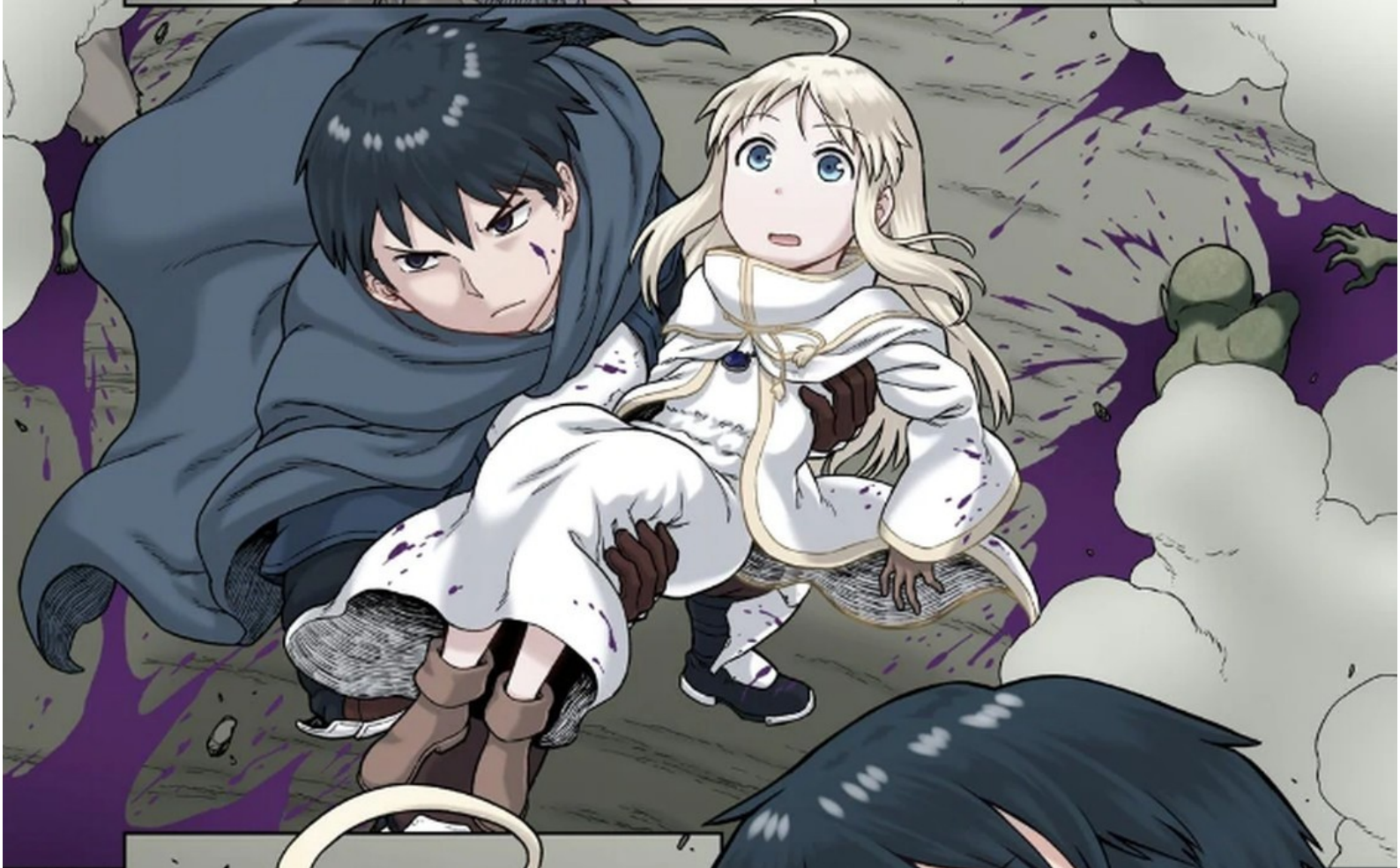












ドドドドド



敵さん全部そっち  
行ってるぞ!!

でも…っ



ナイスだ  
アルト!!



一時散開だ!!

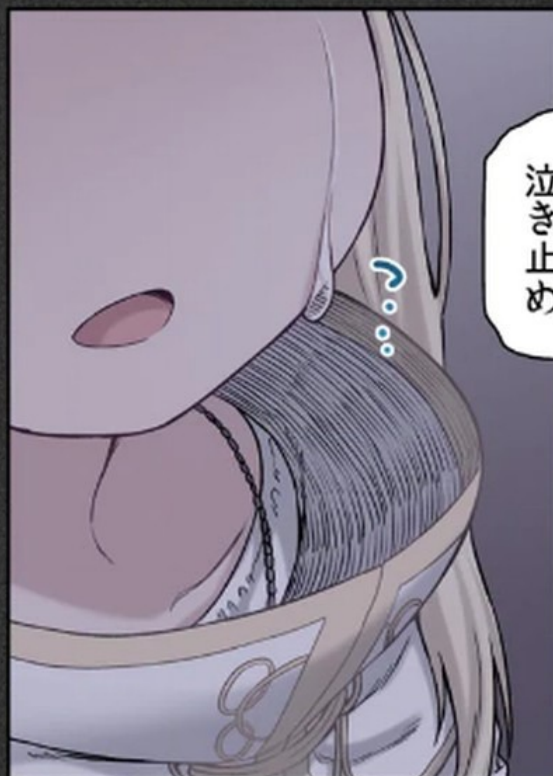
ルート!  
そっちは任せた!!



ガッ  
ア  
マ







だから  
そろそろ  
泣き止め



あれ？  
オレ泣いて  
なんか…

そうか…  
なら俺の  
勘違いだな



そーだぜ  
お前の  
勘違いだっ



…はい？

ぽろ

ぽろ



…ぐっ

ぼっ

ひぐっ

ぼっ

ぼっ



…ぐっ



あっち  
向いてろ…っ

ちよっど…

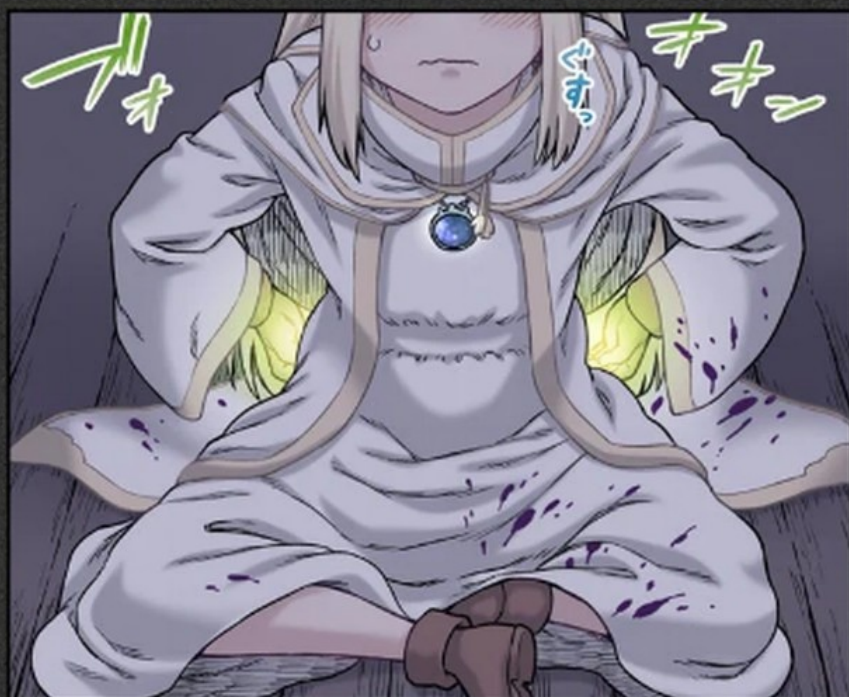
…  
わかった



ぐあ…っ

ああああ…っ

ふぐっ…







アルト…  
お前  
それを…

すまん  
あのオークとは  
ほぼ互角だった

押し切るには  
コレを飲まざるを  
えなかつたんだ…

ガキ

ガキ

いや…  
オレこそ  
すまんっ

そこまでやって  
結局逃げる  
破目になつて…

あのバカでかい  
オークと互角って  
なんだコイツ…

いや  
気づかない  
ようじゃあ…



いやっそれは  
オレを抱えて  
走りまわって  
たからだろ？

こっちこそ  
すまんっ



おいおい…  
それは一日  
一瓶までと  
聞いたぞ？

奴らから  
逃げる際に  
途中で息が  
切れかけてな

俺の未熟ゆえに  
すまない…



確かアツバーは  
二瓶飲んだら  
性欲が暴走するん  
だよな？

そういえば  
さっきから  
目が合わな…



……  
アルト？

……  
走った後  
異様に喉が  
渴いてつい……

ゴゴゴ

トッ



なんでこんな  
劇薬を  
水代わりに  
飲むんだよ!?

言っ  
てくれりゃあ  
水くらい魔法で  
出せるから!!

正直さつきから  
お前の顔がまともに  
見れない……

ずっとお前が  
そっぽ向いてんのは  
そういう理由かよ  
ちくしょう!!



ここに居るのが  
お前で本当に  
良かった……

お前じゃ  
なかったら  
ヤバかった

ルートでも  
ヤバかった……

喧嘩売ってんのか  
このハーレム野郎!!

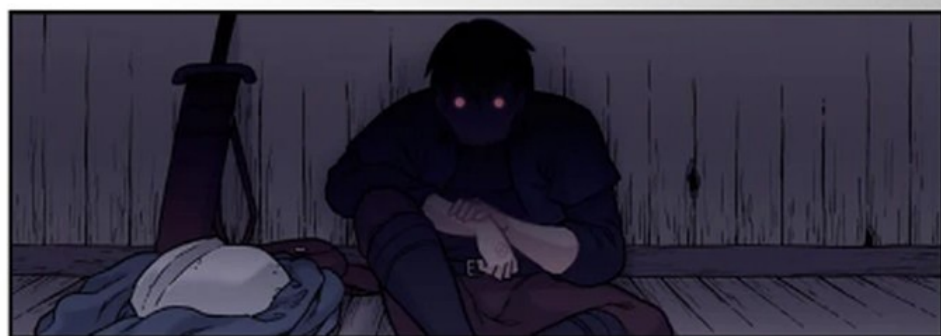


まあ…

非常に  
まずい…



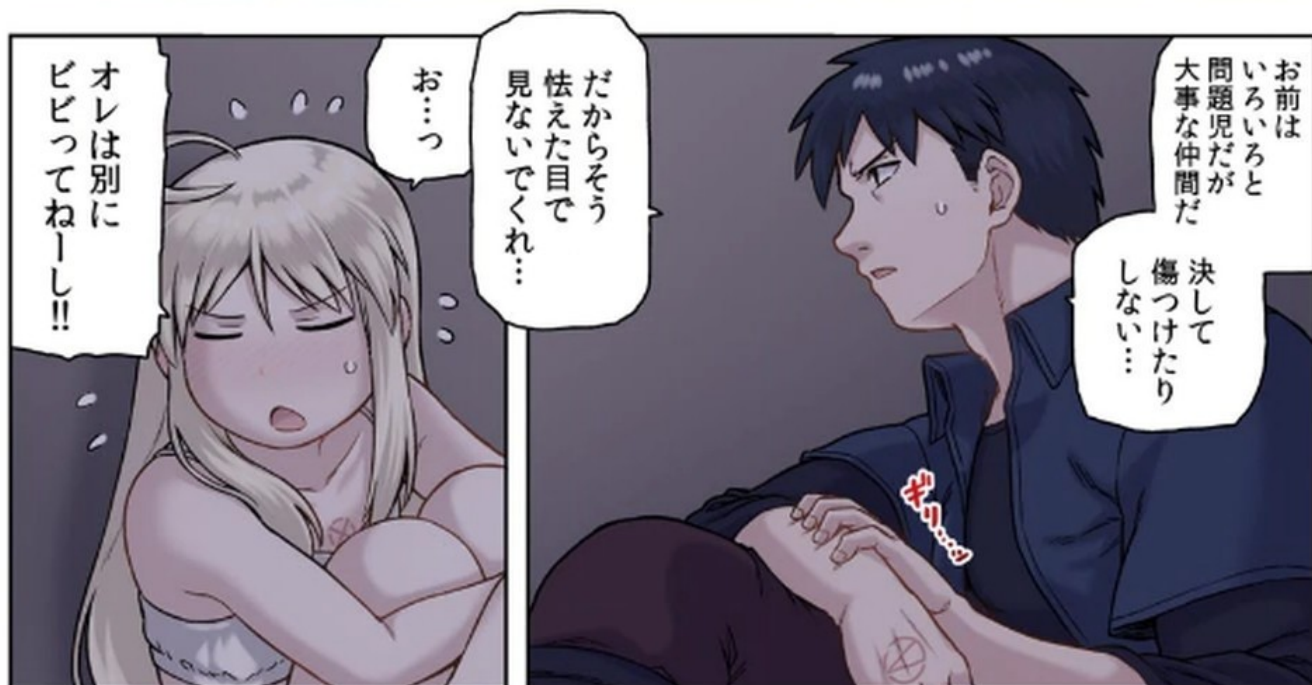
びしょ

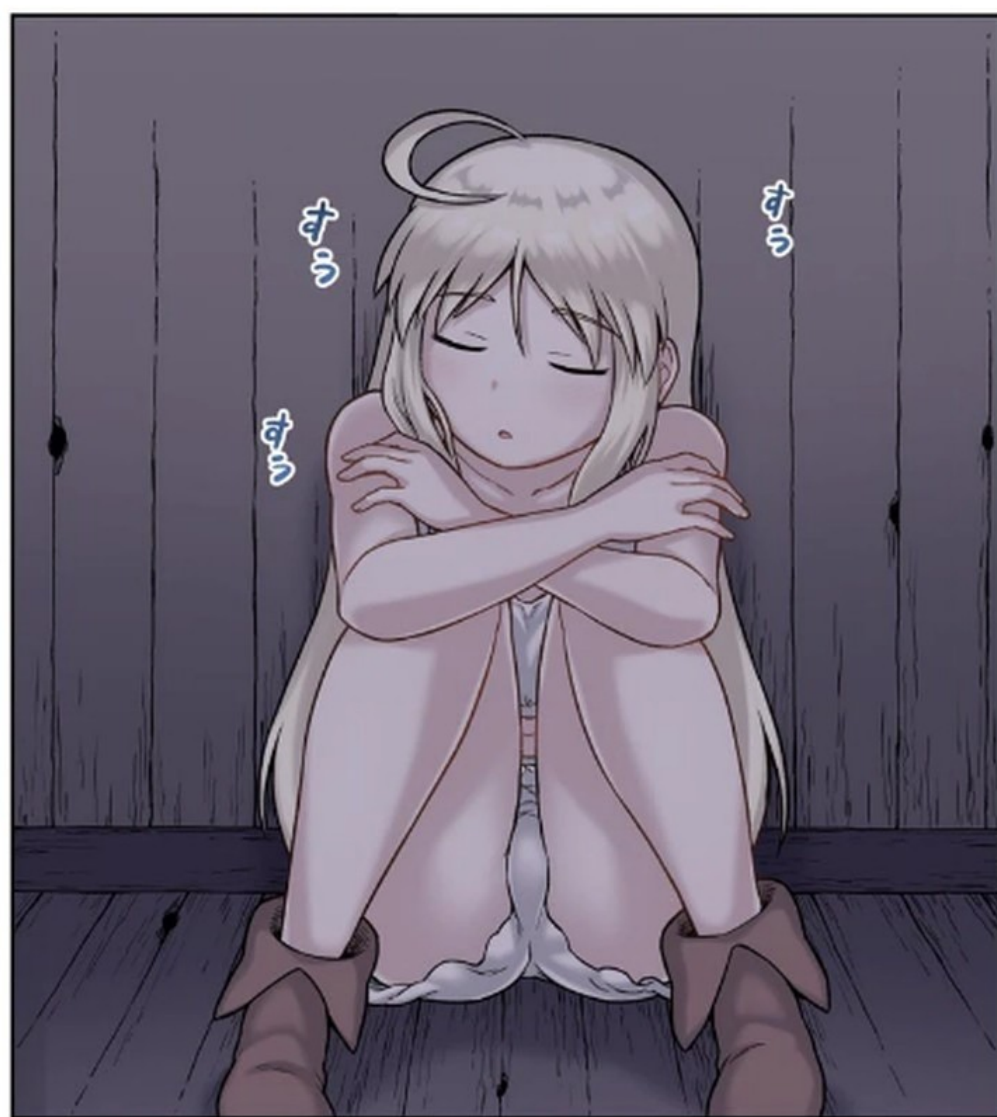


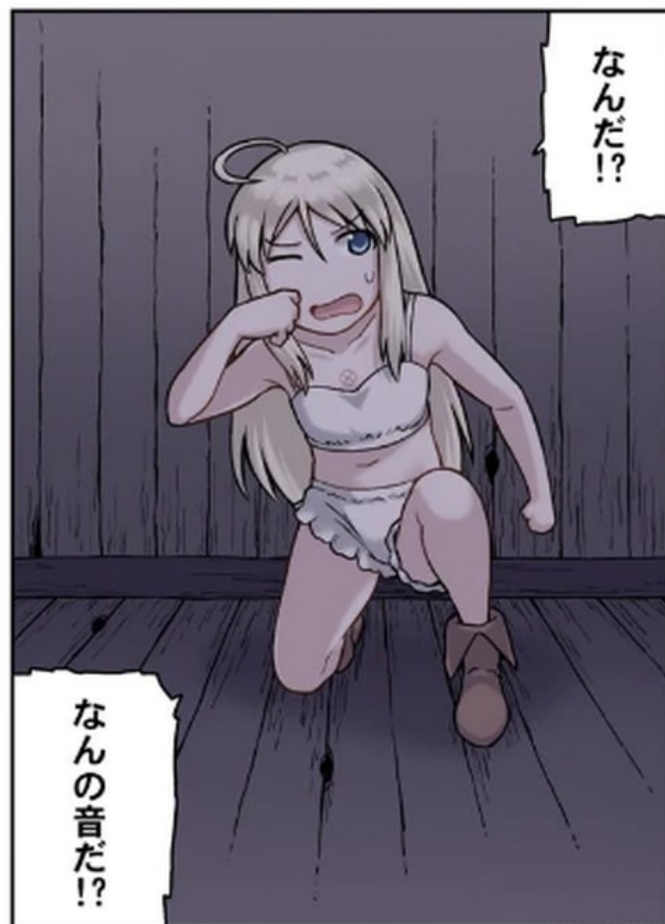
オレはもともと  
前世のこともあって  
裸を晒すことに  
大きな羞恥はない

なかったはず  
なんだが…

こつもガン見されると  
さすがに…







なんだ!?

なんの音だ!?



ふあっ!?



アルト  
何があった!?

寝ぼけて  
倒れたただけだ

うわあああっ!?

嘘だろ  
それだけで  
そんななるか!?



すまない  
俺だ

どろ  
どろ



腕も見せろ…

大した自制心だよ  
お前は…

来ないでくれ…っ

お前に  
近づかれるほうが  
ずっと辛い…っ

そうかい…

アルト…

今ロレンスは  
まのこローだった

仲間の窮地を救い  
危機的状況を  
一人でひっくり返した

それなのに  
こんなに独り  
もがいて…



全部オレの  
せいじゃねーか…っ!!

キリ…ッ



今は俺に  
声を聞かせ  
ないでくれっ

頼むからっ!!

逃げまわってた  
だけのオレですら  
ヘトヘトだ…

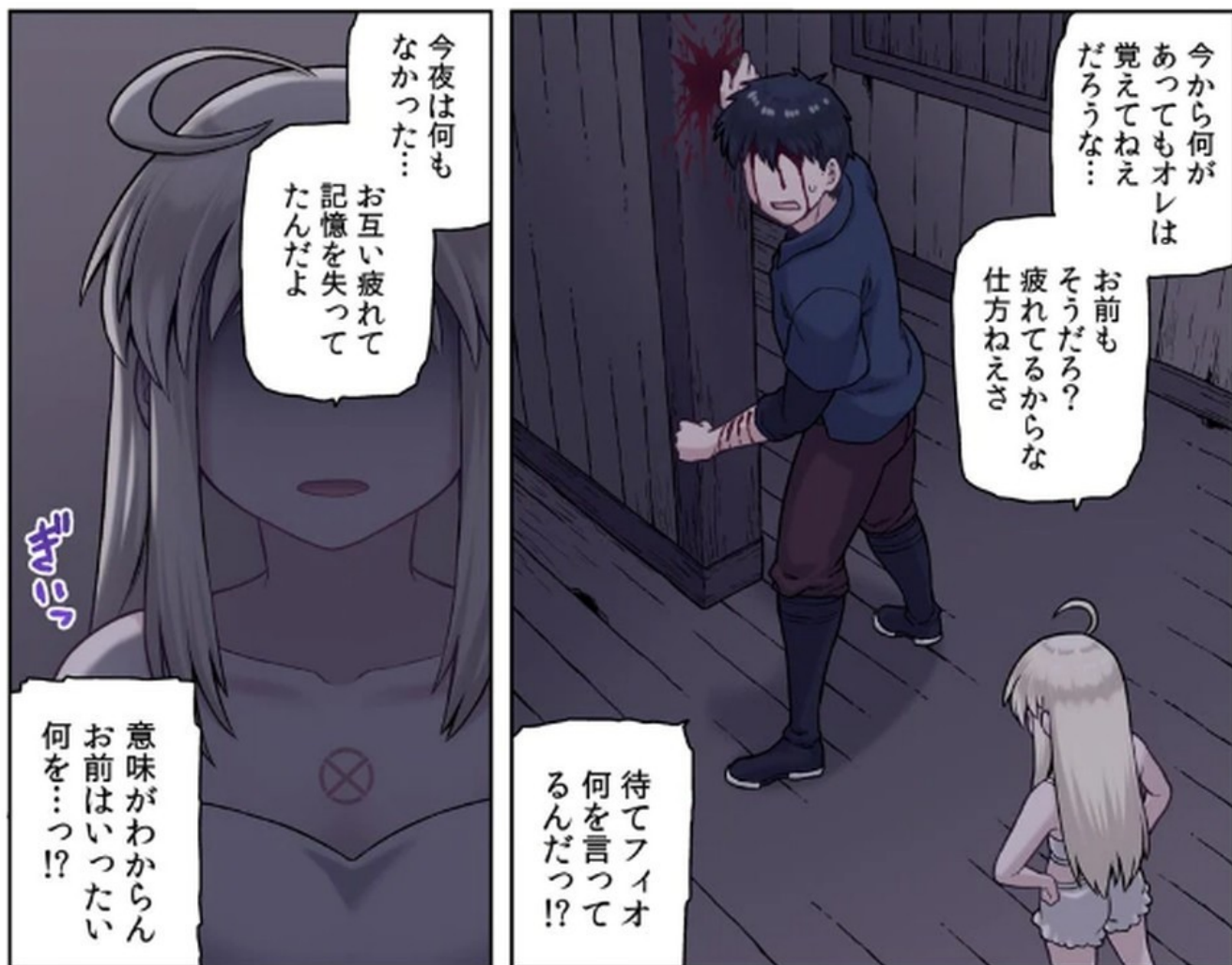
お前は  
言わずもがな  
だよな…




…なあ  
今日はいろいろ  
あったなアルト

頼む…  
今は話しかけ  
ないでくれ…

女のを  
聞くことすら  
辛いんだ





…だから  
忘れてやるって  
言ってたんだよ

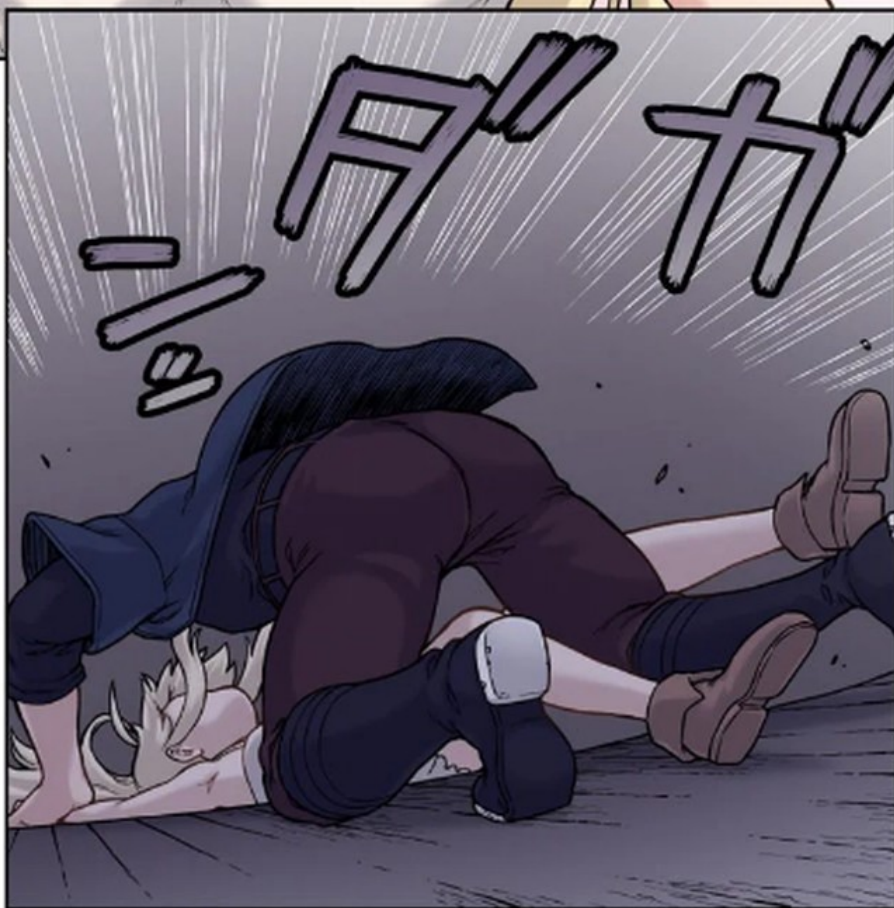
好きにしろ

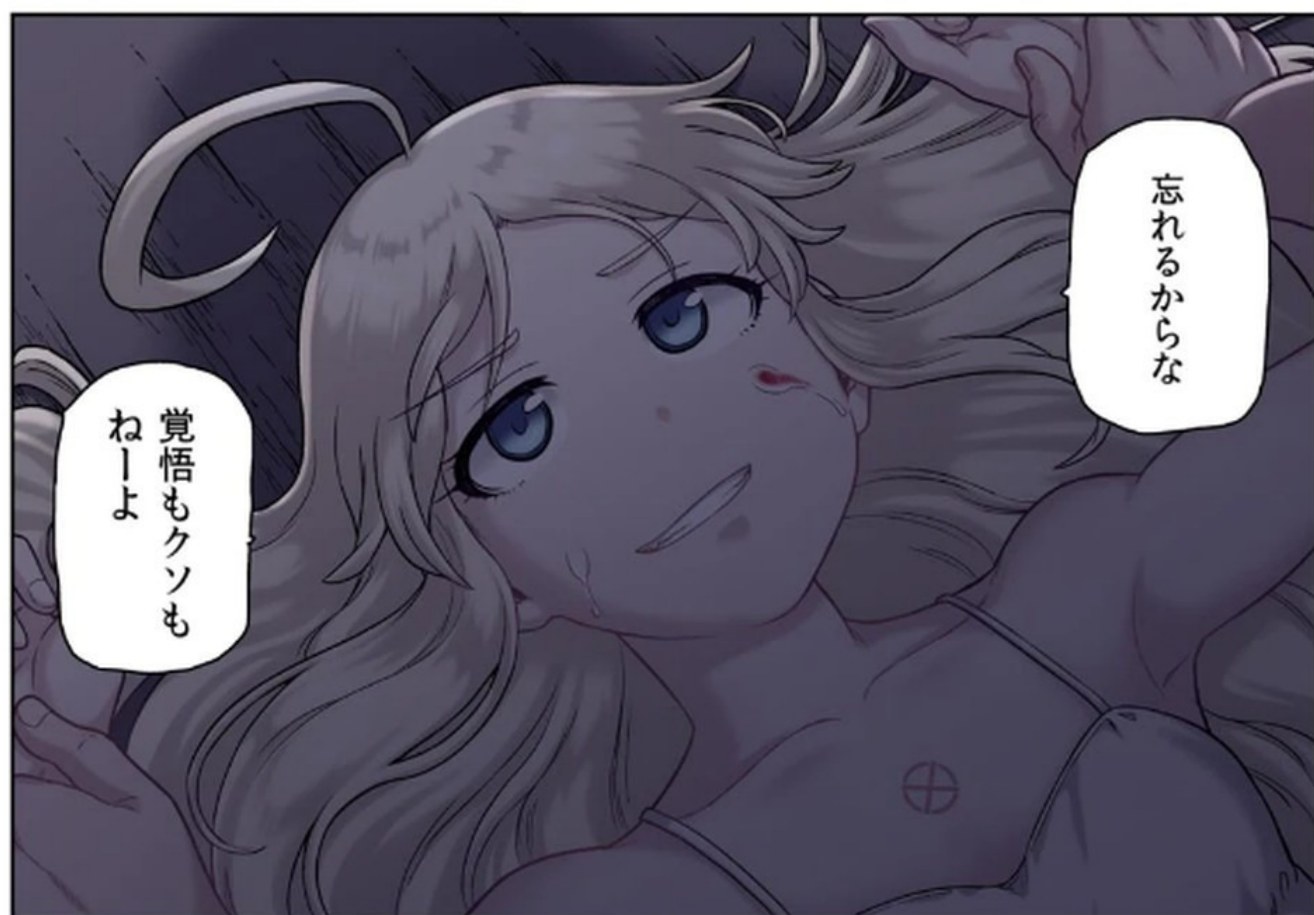


はあ、

は、

はあ、





パーティデザイン案 ver.1.5



1.5に  
に似し

動き易さを重視  
した革鎧

革鎧の下も  
アルトと同様の  
特殊革製

ホークは  
アルトと同様  
前衛向け  
改良ホーク



部屋着



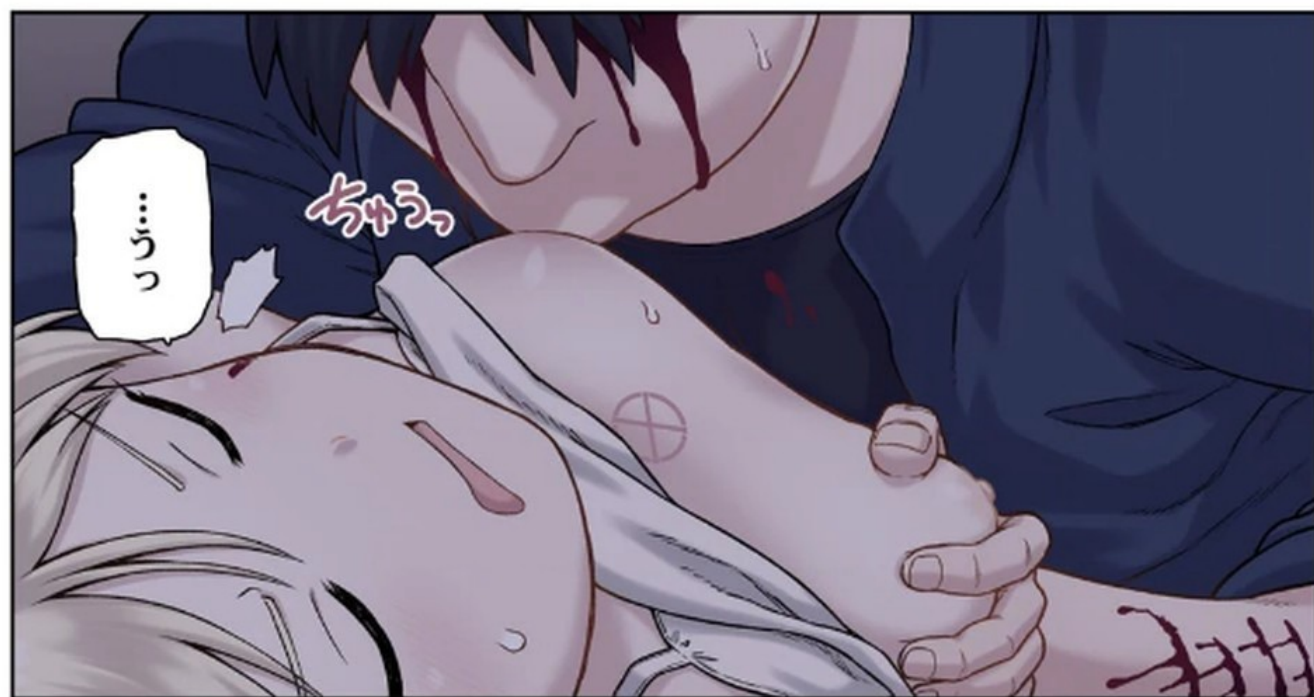
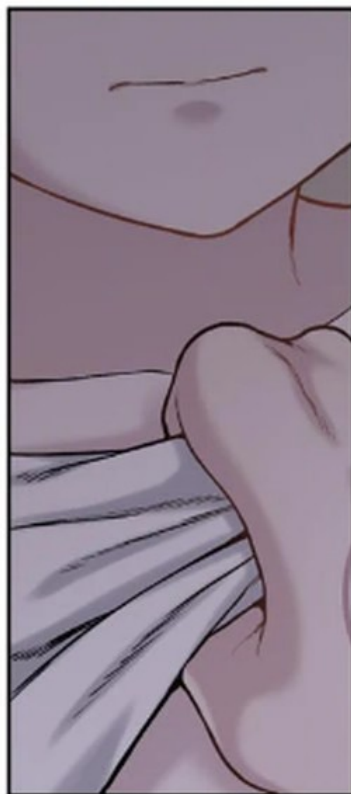
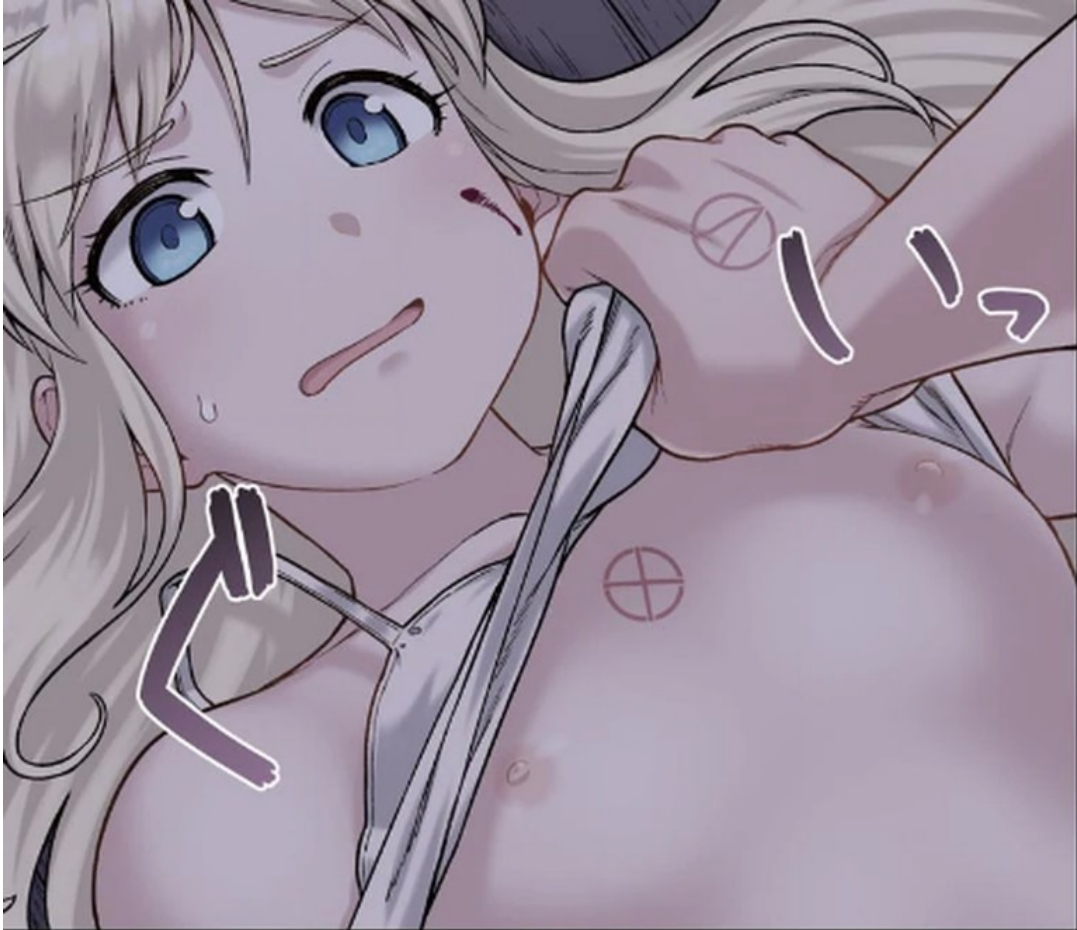
裸  
かみ千  
像設計

聖痕 左尻上

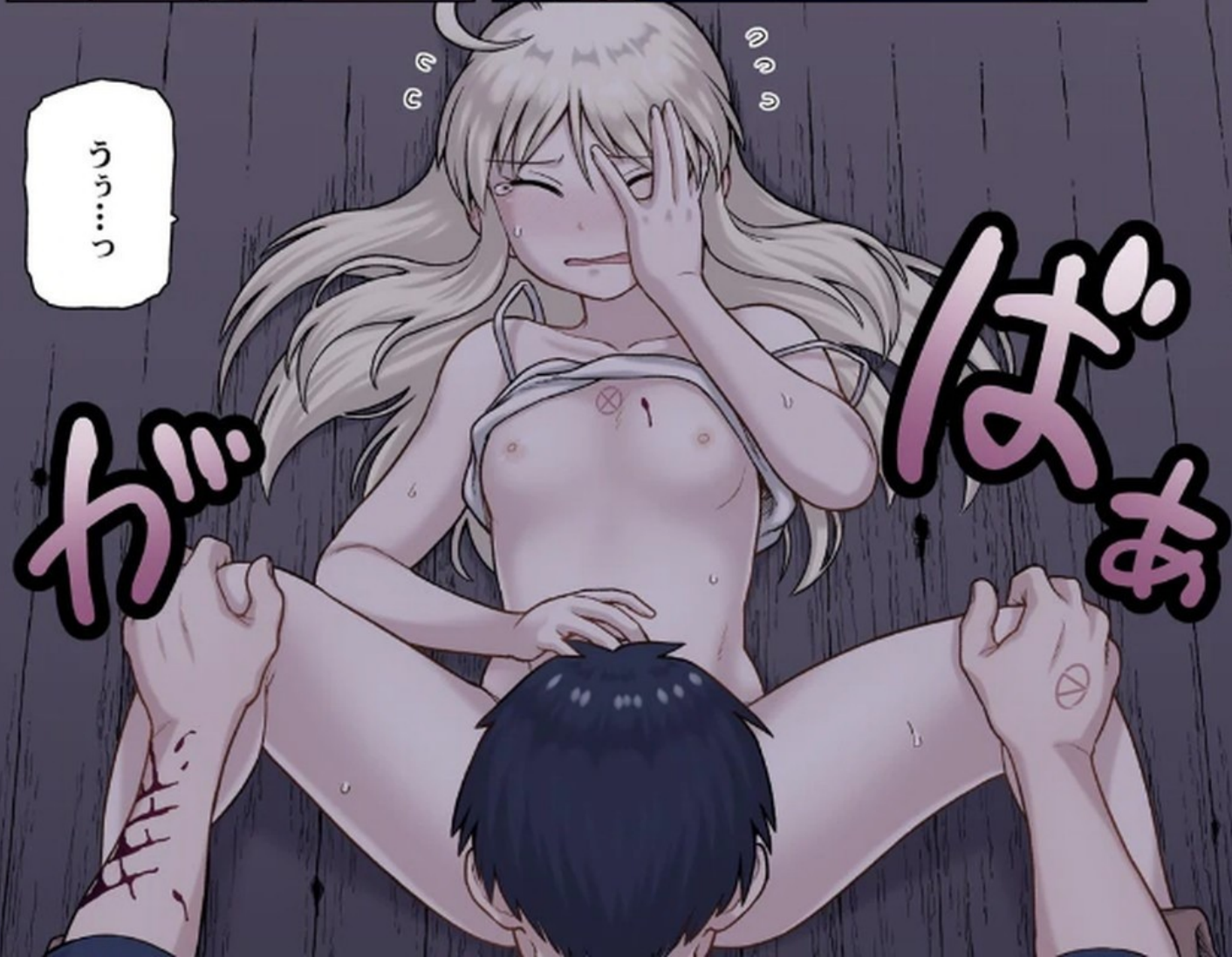
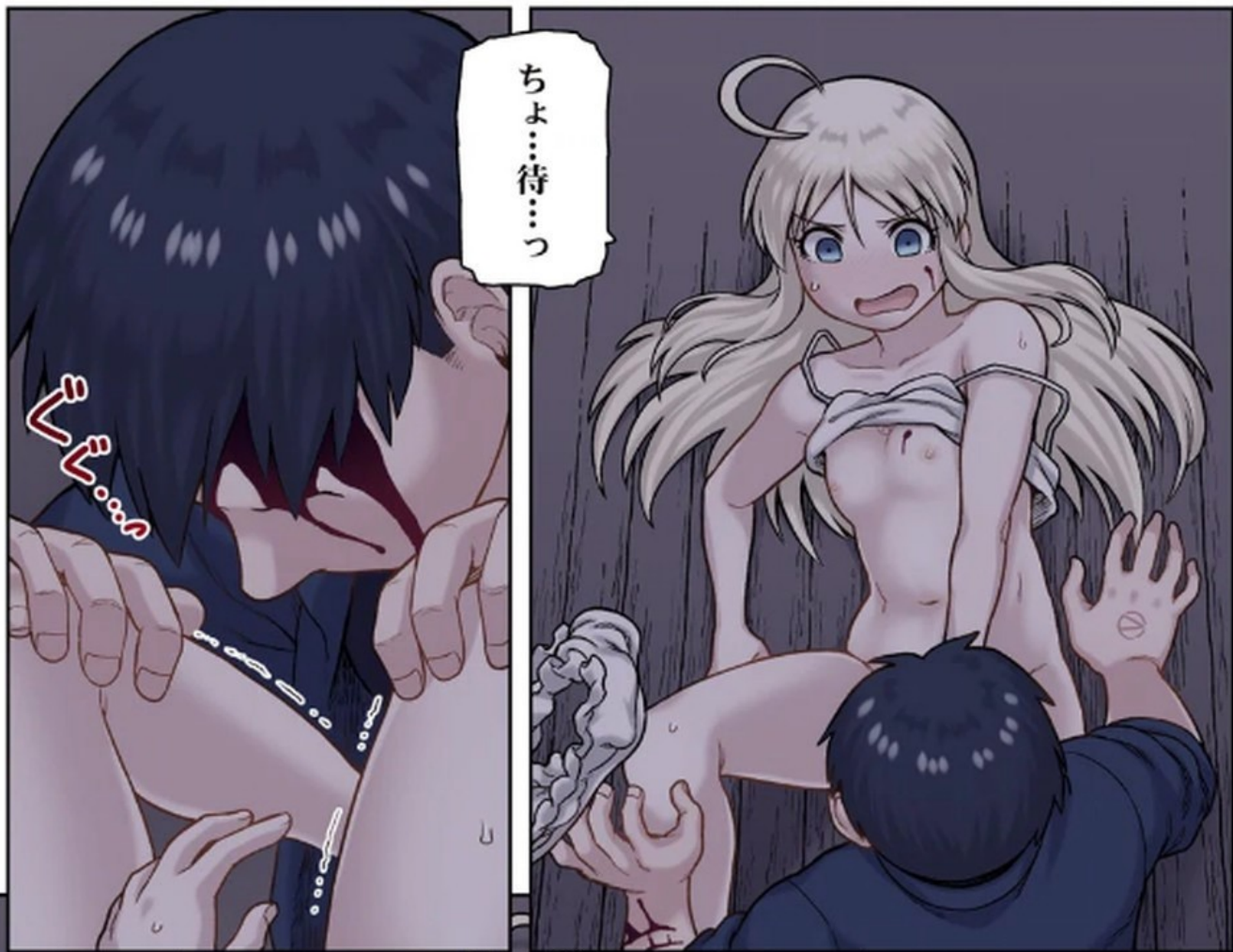


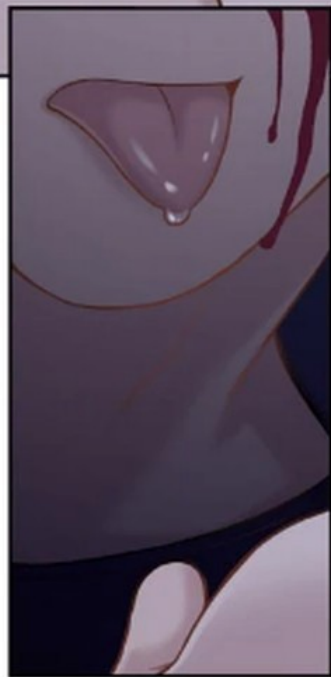
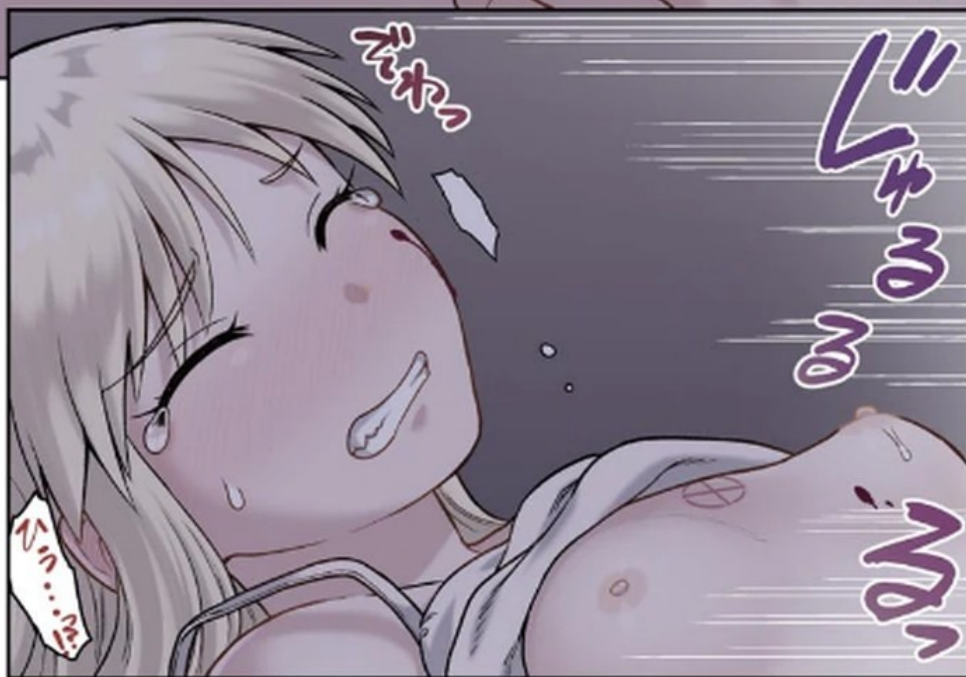
クリムさん捕食された後

TS  
転生してまさかの  
サブヒロインに。  
TS TENSEI shite  
Masaka no Sub Heroine ni.









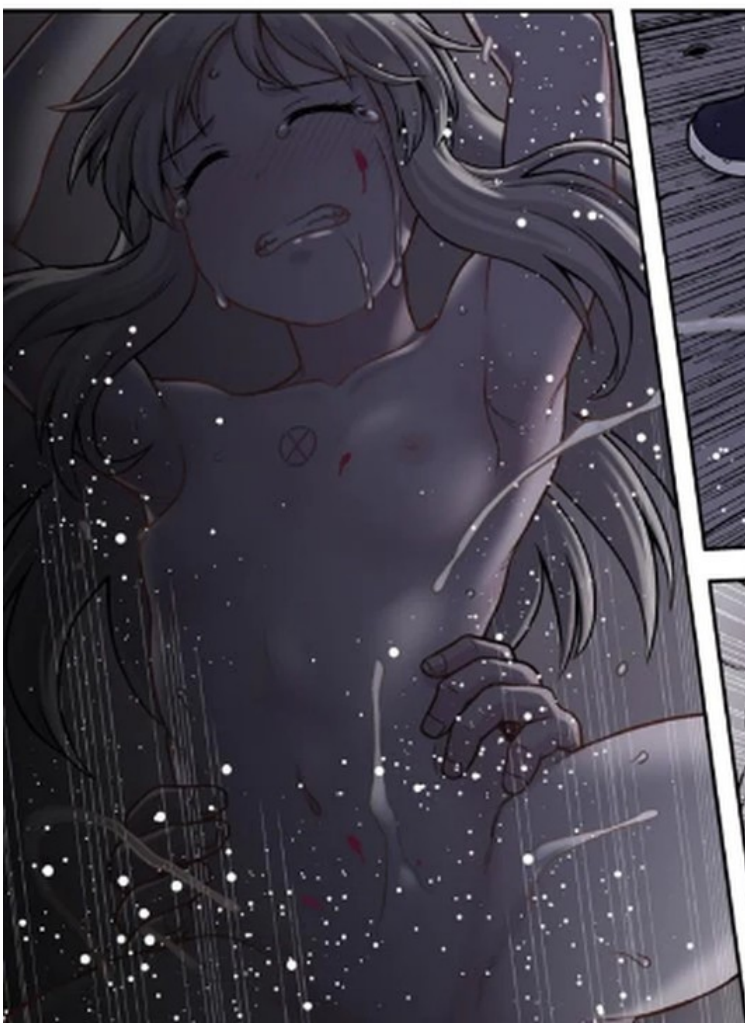
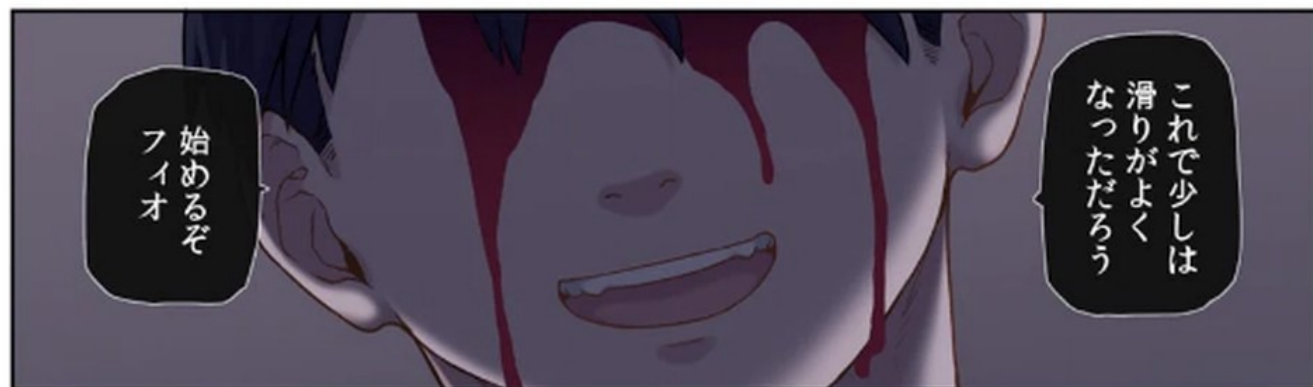


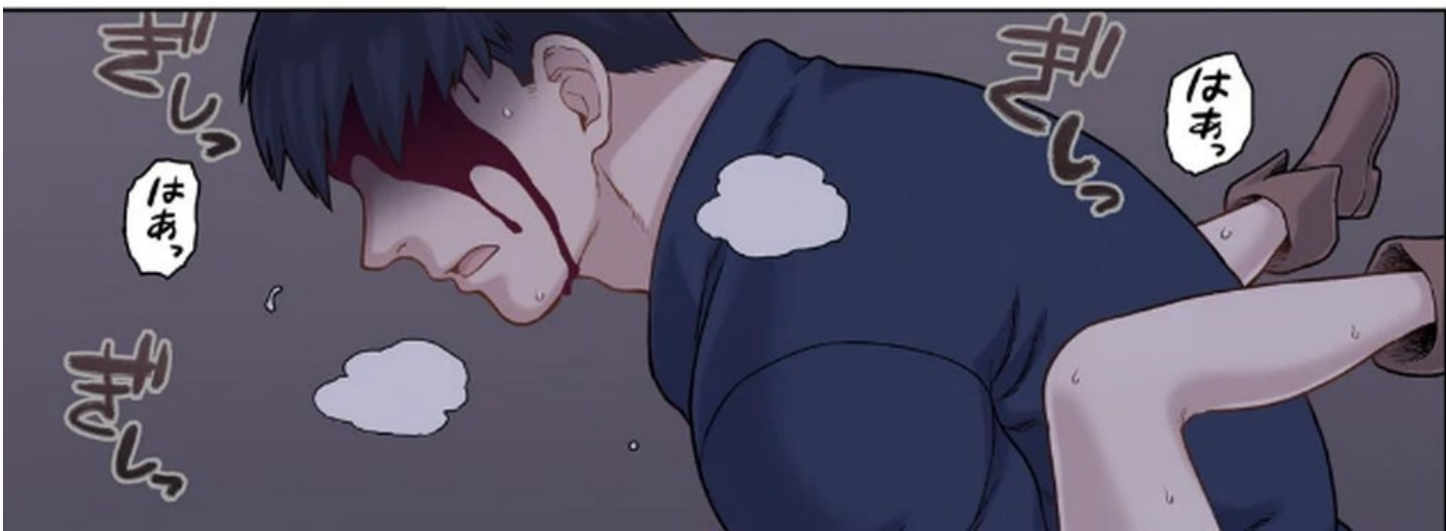












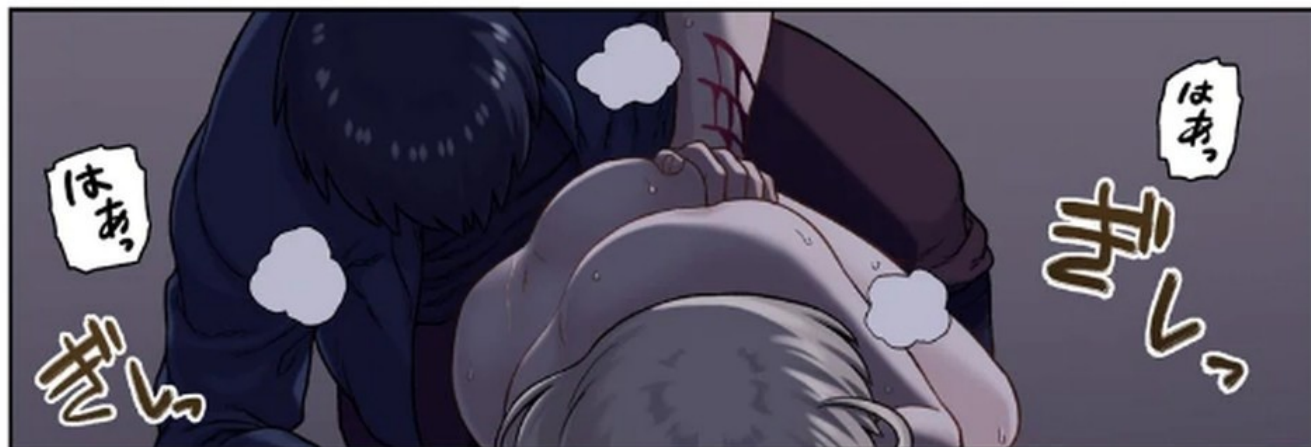


この女は全部  
無駄にしゃがった



仲間を傷つけたく  
なかった…っ!!

だから必死で  
耐えていたのに…



はあ、

ぎい

はあ、

まじっ



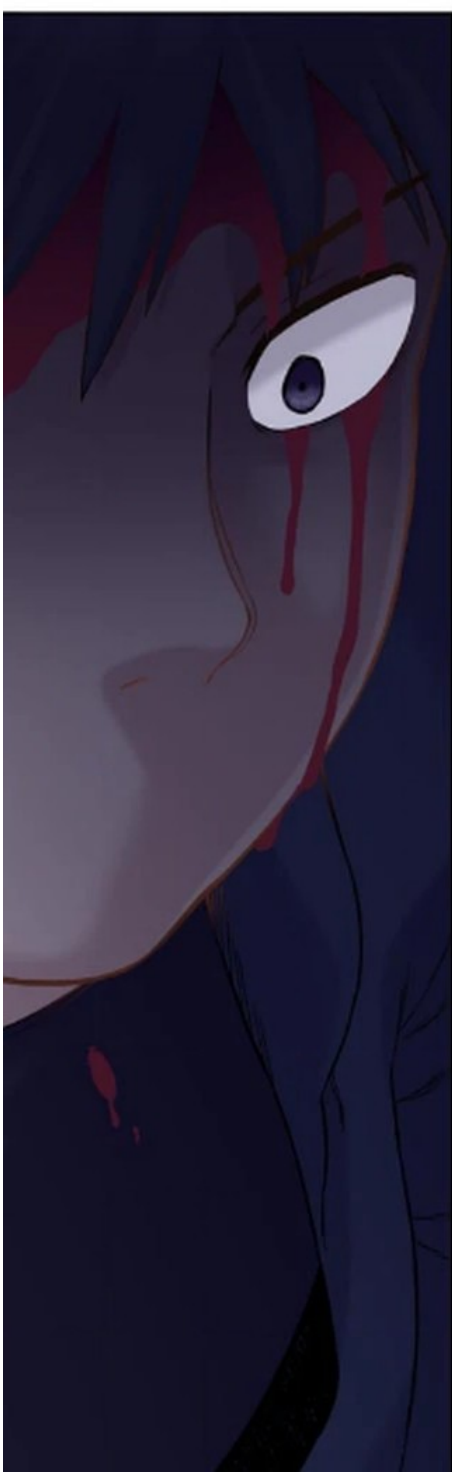
もう経験済みで  
この程度は気にして  
いないのかもしれない

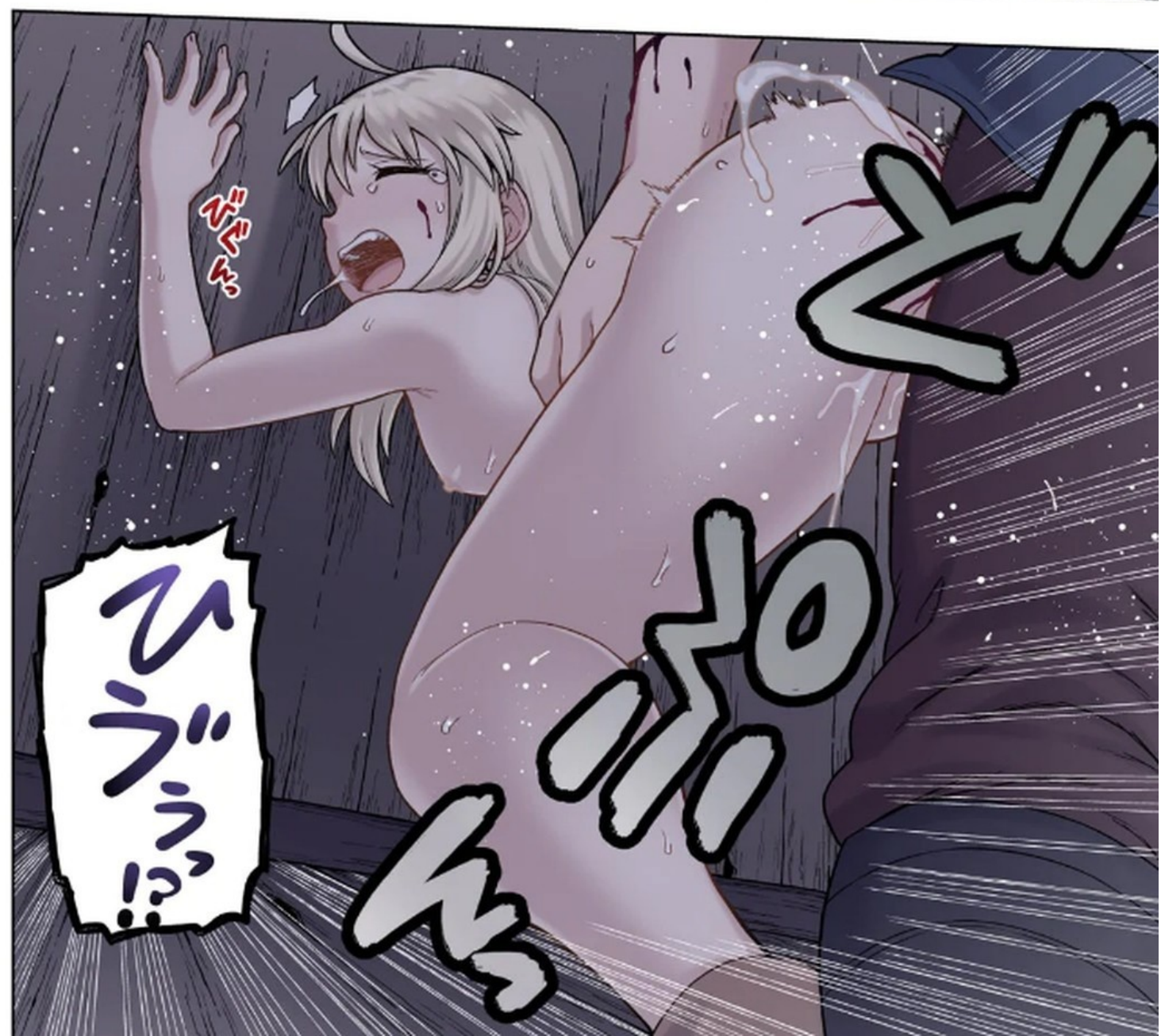
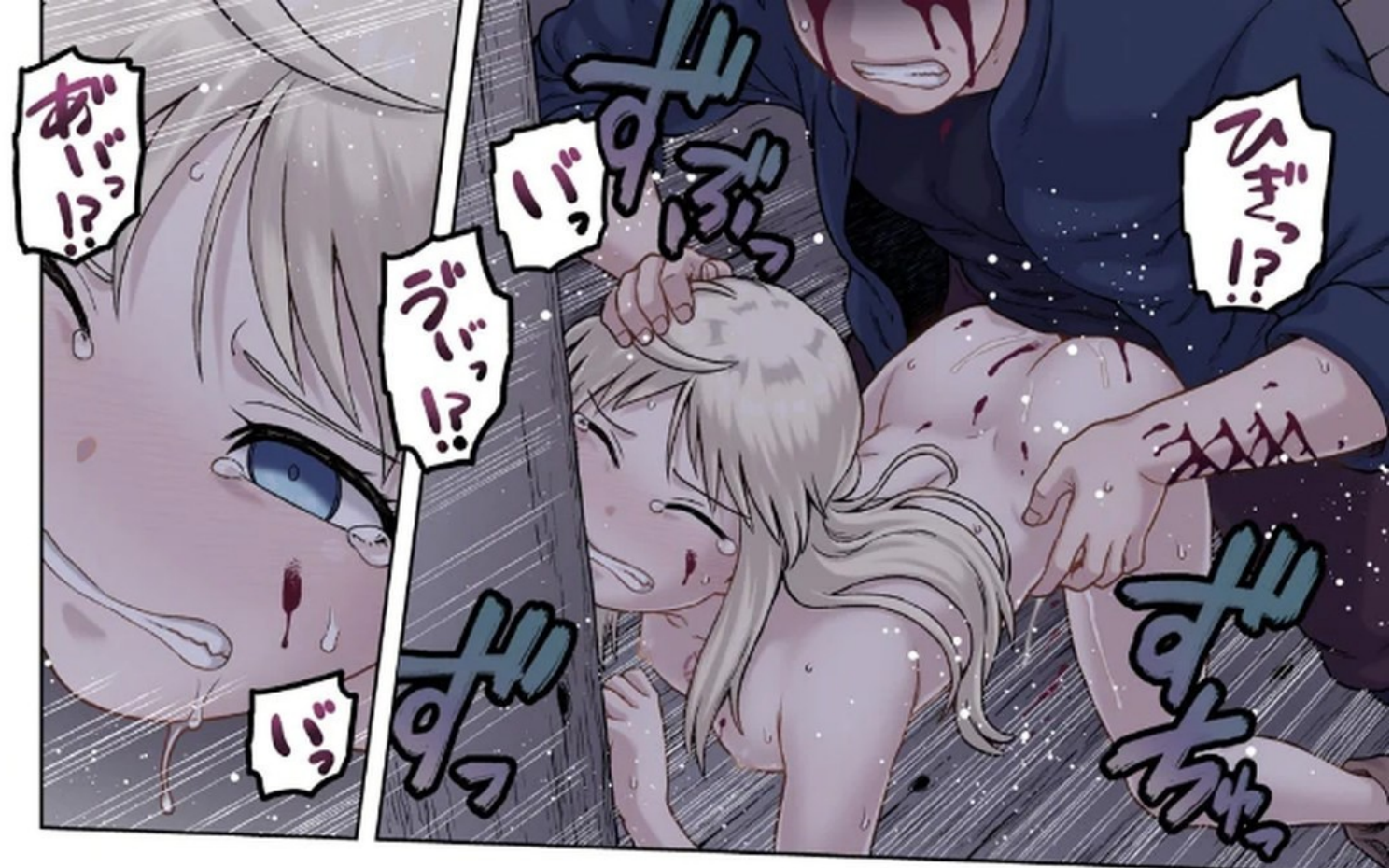
ぼん

ぼん

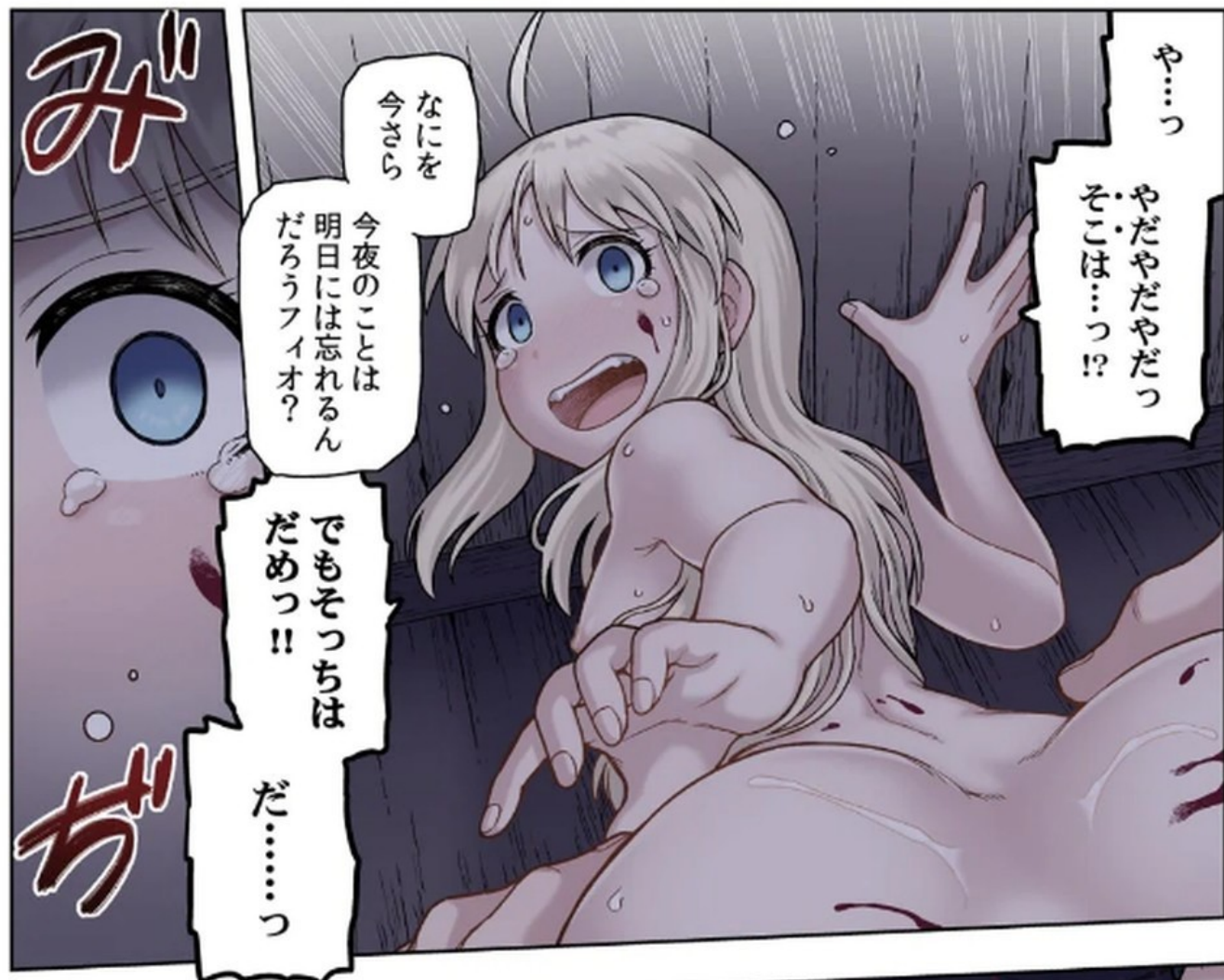
こいつはよく  
パーティと色街へ  
出かけているらしい

ぼん











やだっ

もうやだあああっ

本当に  
最高だ…

ず  
ず  
ず

いつもは男の  
ような言動の  
この女が…

今は年相応の  
少女のように  
泣き喚いて…







がくがく

あ!!?

がく

遠慮なく  
注ぎこんでやる!!!

ぼた

ぼた

ぼた



あ...

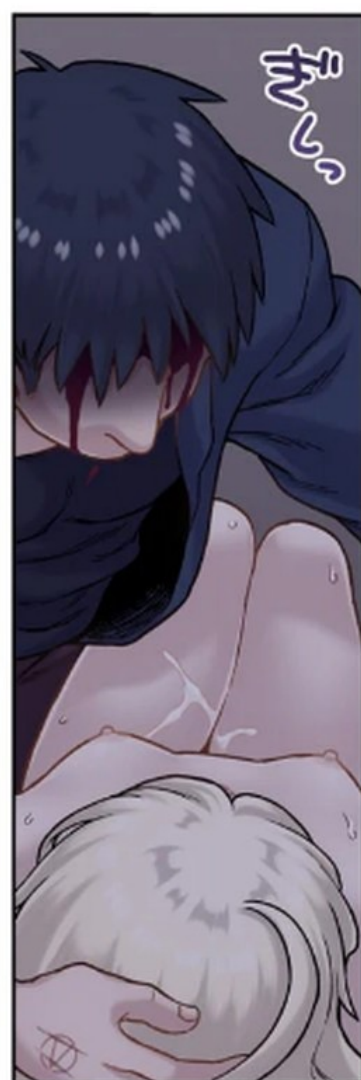
ふっ

は...



気を失ったか...

だが...





ぎ

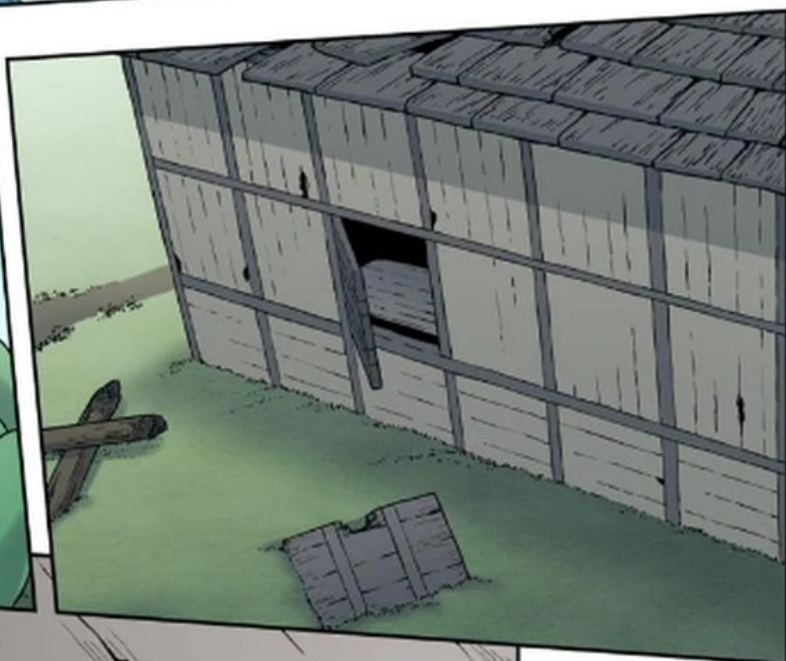
俺はまだまだ  
物足りない



約束どおり  
朝まで付きあって  
もらうぞ



フィオ…





ルートデザイン案



軽装の革鎧  
 ホチには止血帯や  
 ホシノシの  
 基本装備の他  
 地図や様々な情報を

まとめた  
 メモ帳など  
 測量道具  
 とかも  
 世界観に  
 合っている

女装ルート



2話

1  
 胸隠すかです

やや細身  
 胸が全裸では  
 いるか未定で  
 隠蔽として



聖痕



聖痕様

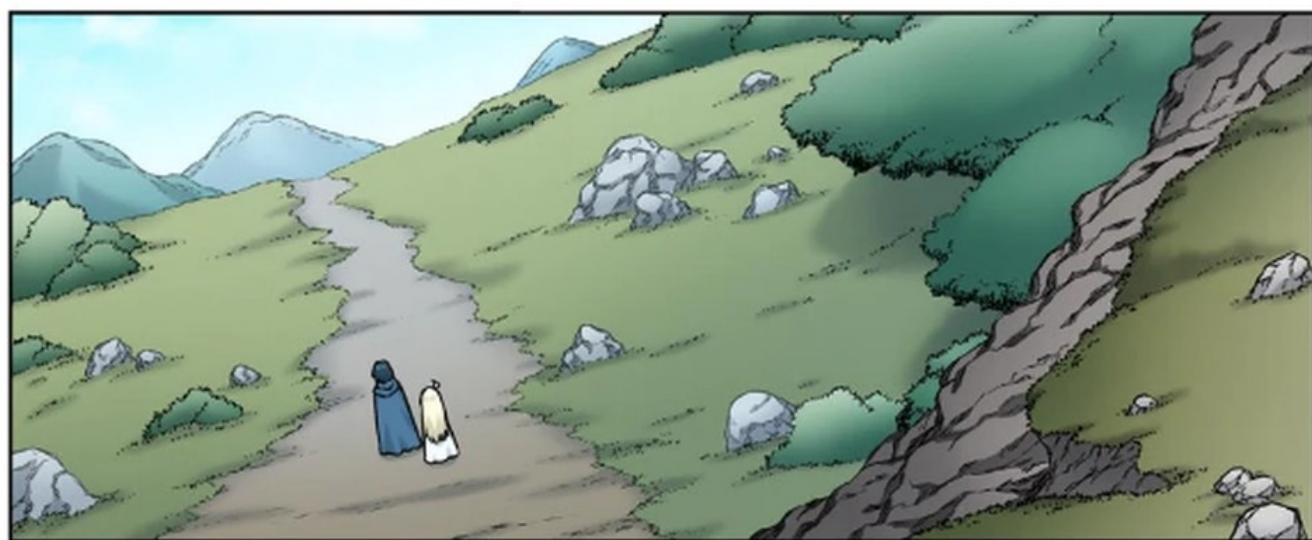
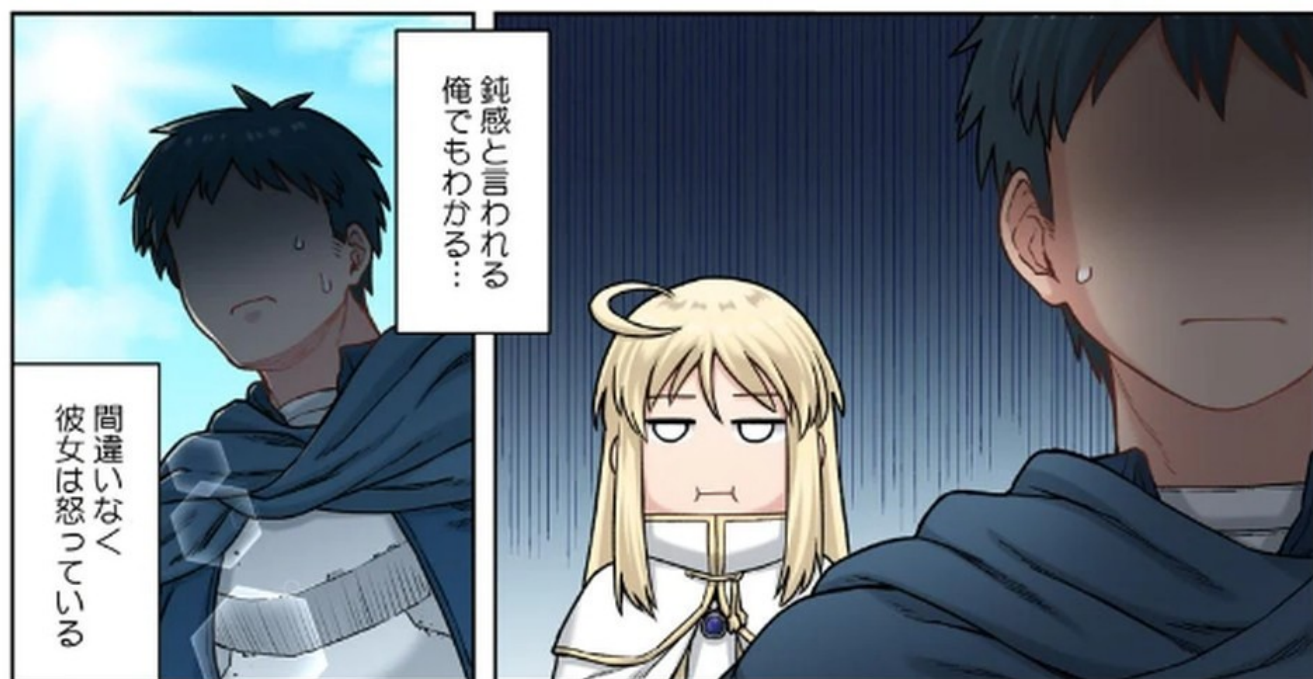
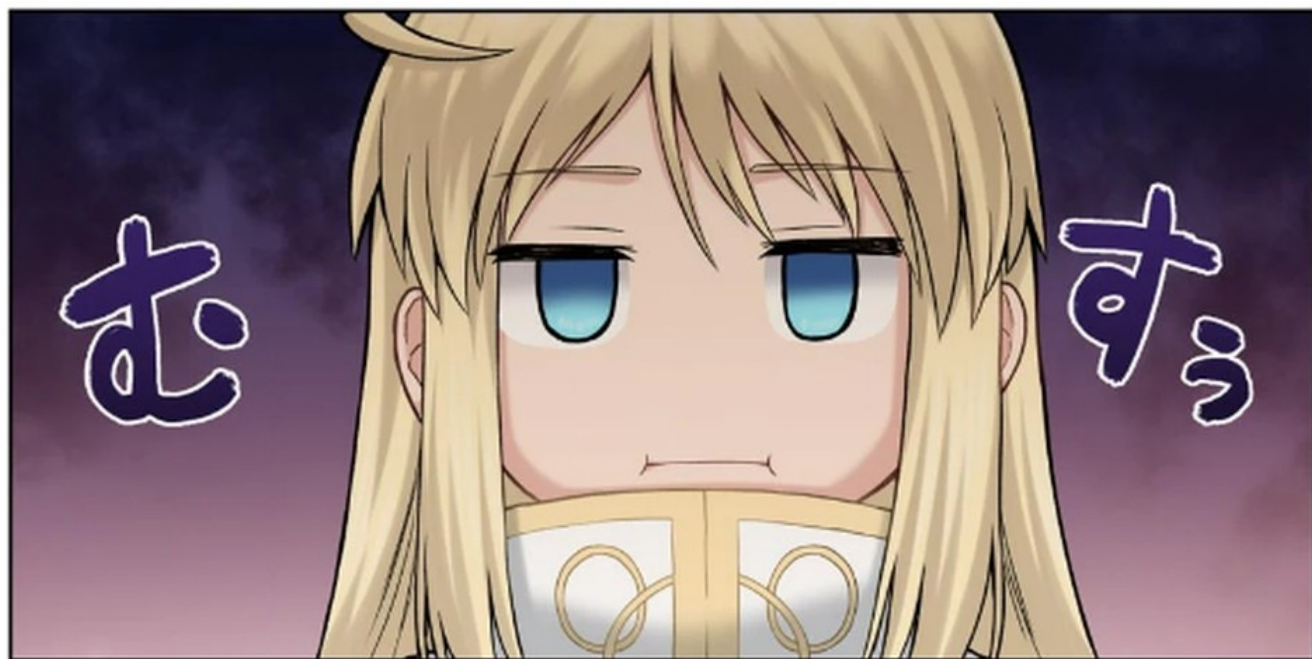


髪色は緑かいた金髪  
 瞳の色も翡翠色  
 少し若草色が  
 混じる  
 風の精霊  
 イメージ



TS  
転生してまさかの  
サブヒロインに。

TS TENSEI shite  
Masaka no Sub Heroine ni.



いや…  
怒るのは  
当然だ…

薬の影響とはいえ  
昨夜の俺は彼女を  
性具扱いしたのだ

彼女はなんにも  
なかったことに  
すると言っが

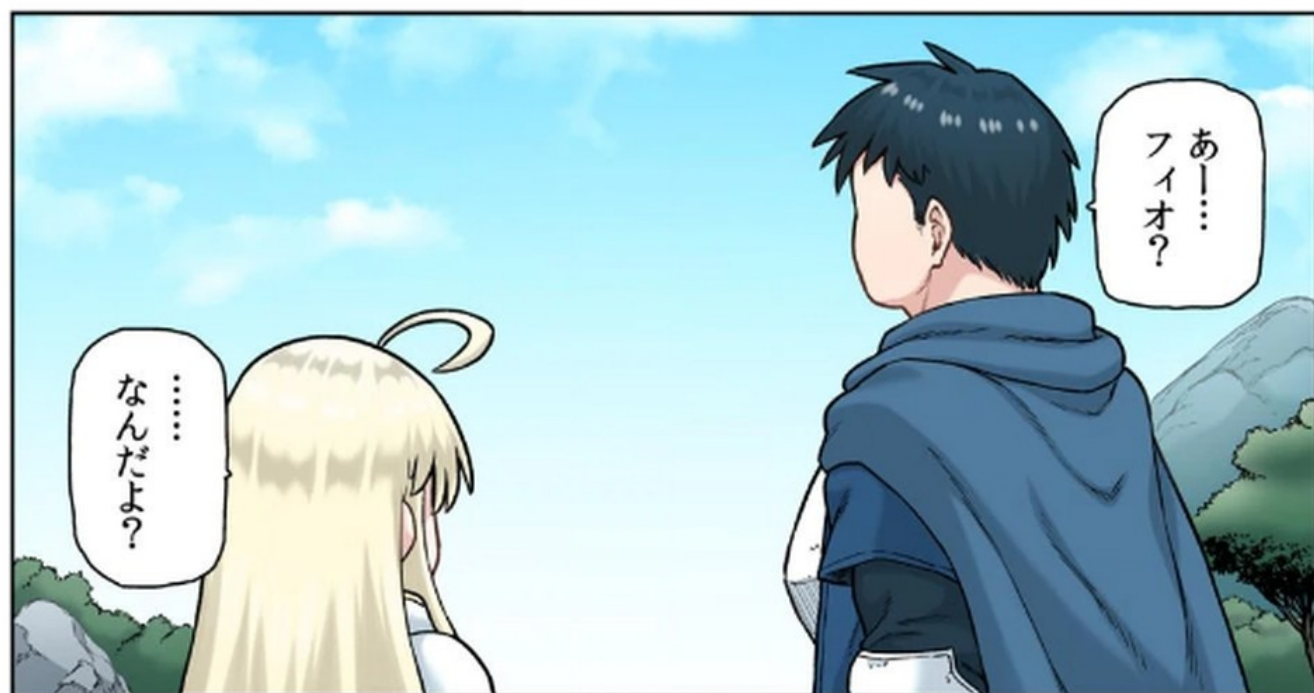
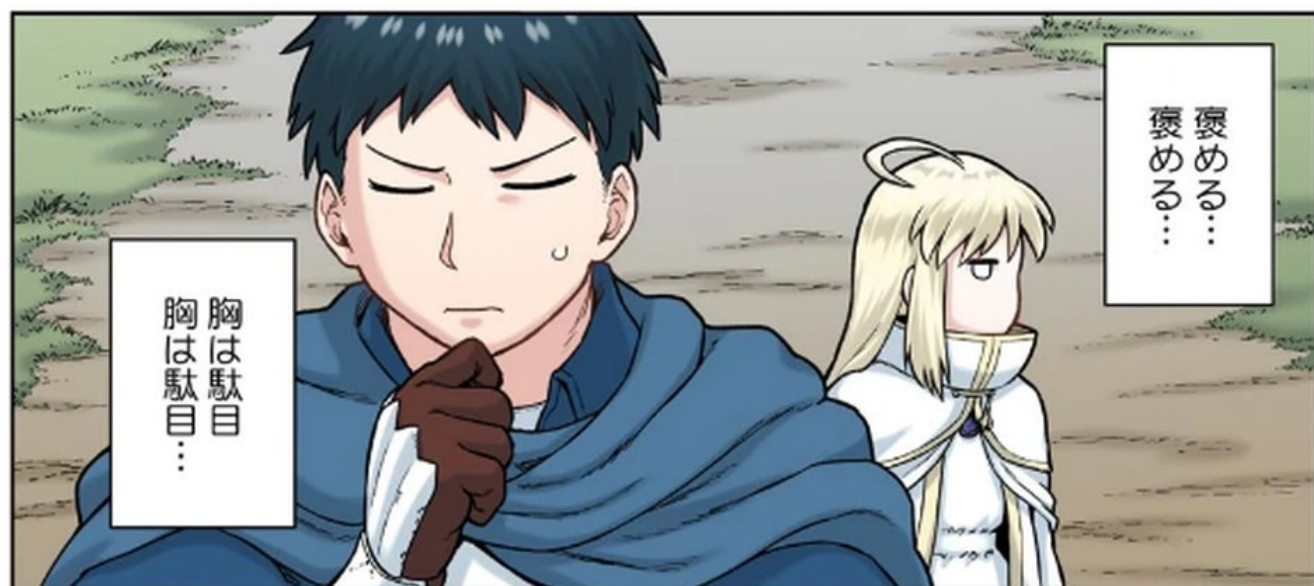
到底許される  
ことではない

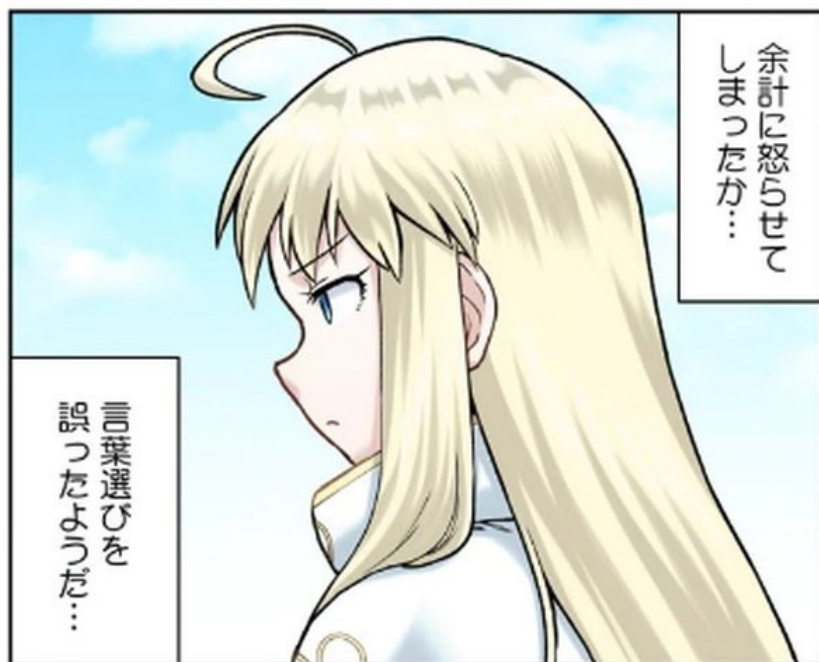
普段がいくら  
エキセントリックな  
フィオとはいえ  
女性だ…

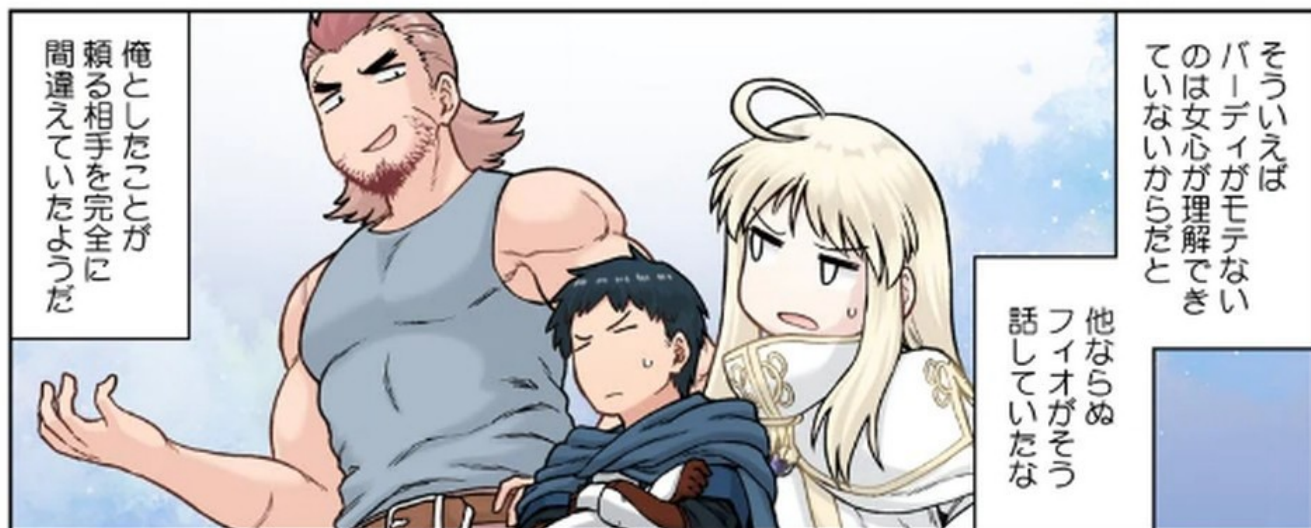
俺は彼女を深く  
傷つけてしまった  
最低野郎だ…

なんとか彼女に  
謝って信頼を  
取り戻さなくては

口下手な  
自分が憎い…







俺としたことが  
頼る相手を完全に  
間違えていたようだ

そういえば  
バーデイがモテない  
のは女心が理解でき  
ていないからだ

他ならぬ  
フィオがそう  
話していたな



愛です  
アルト様



いや…まだ  
諦めるには早い

俺には他にも  
頼るべき  
仲間達がいる



人との間に  
愛があるならば  
きっと心が通じます

貴方がその人を  
愛していれば  
何をすべきかが  
わかるはず

敬虔な修道女の  
ユリイなら……っ

彼女の言葉なら  
バーディよりきつと  
役に立つだろう

だが彼女に何を  
すべきか俺には  
わからない

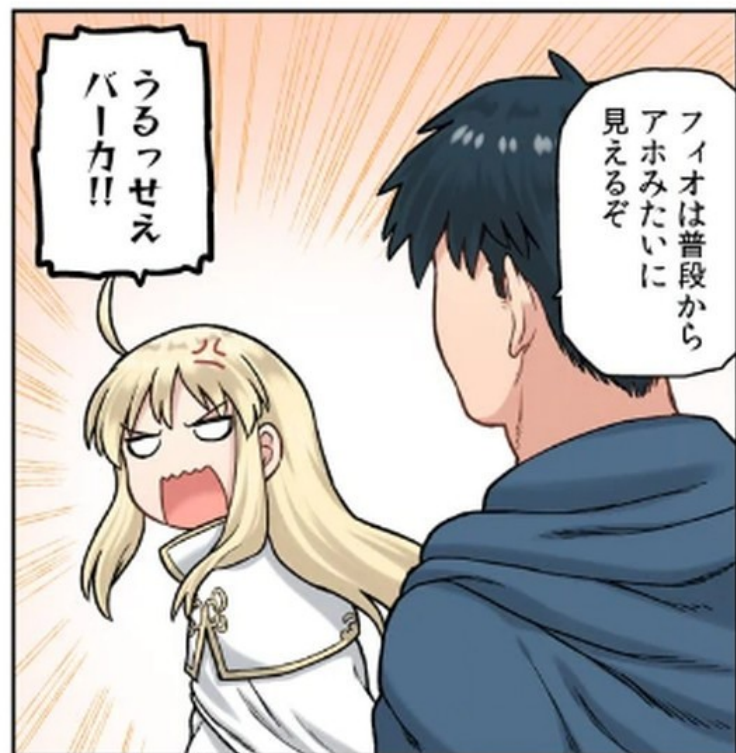
ということは  
俺はフィオを  
愛していないと  
いうことか？

…フィオ

お前は俺を  
愛しているか？

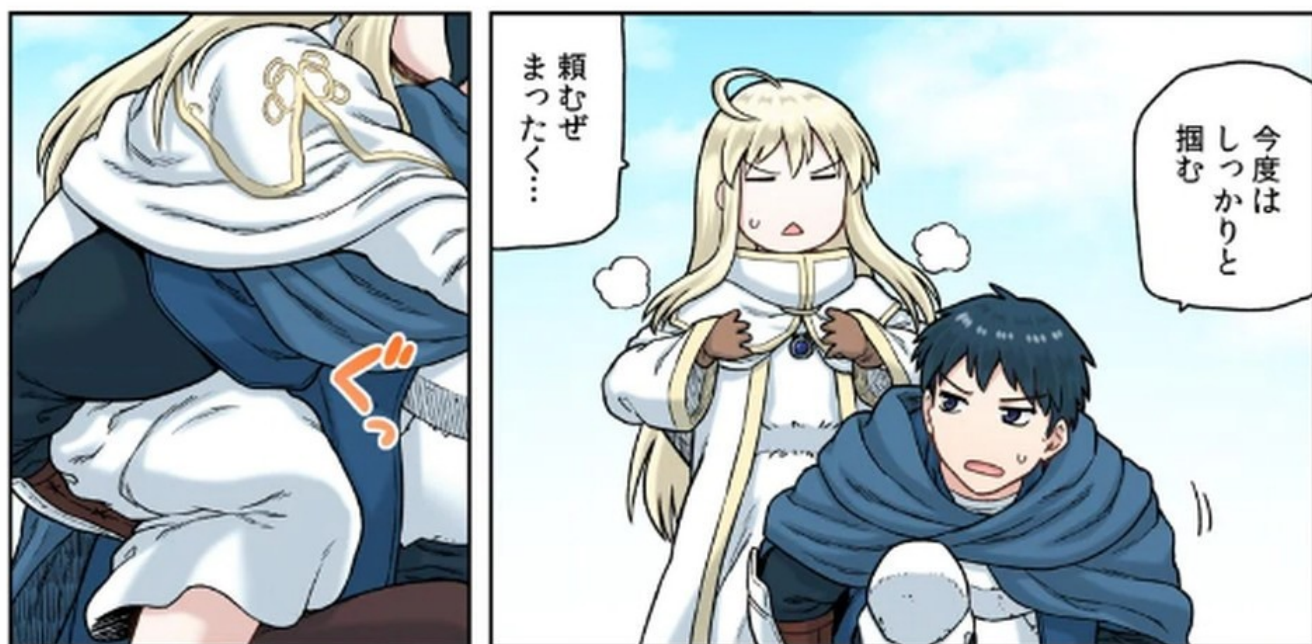
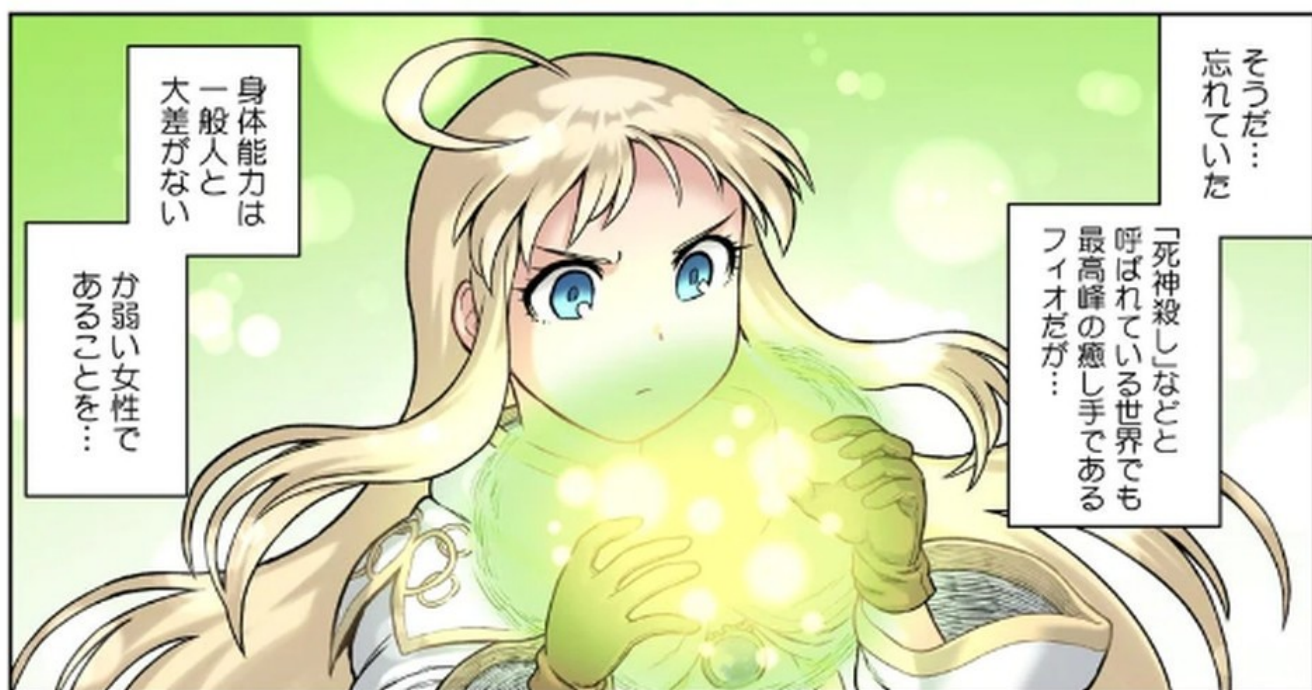




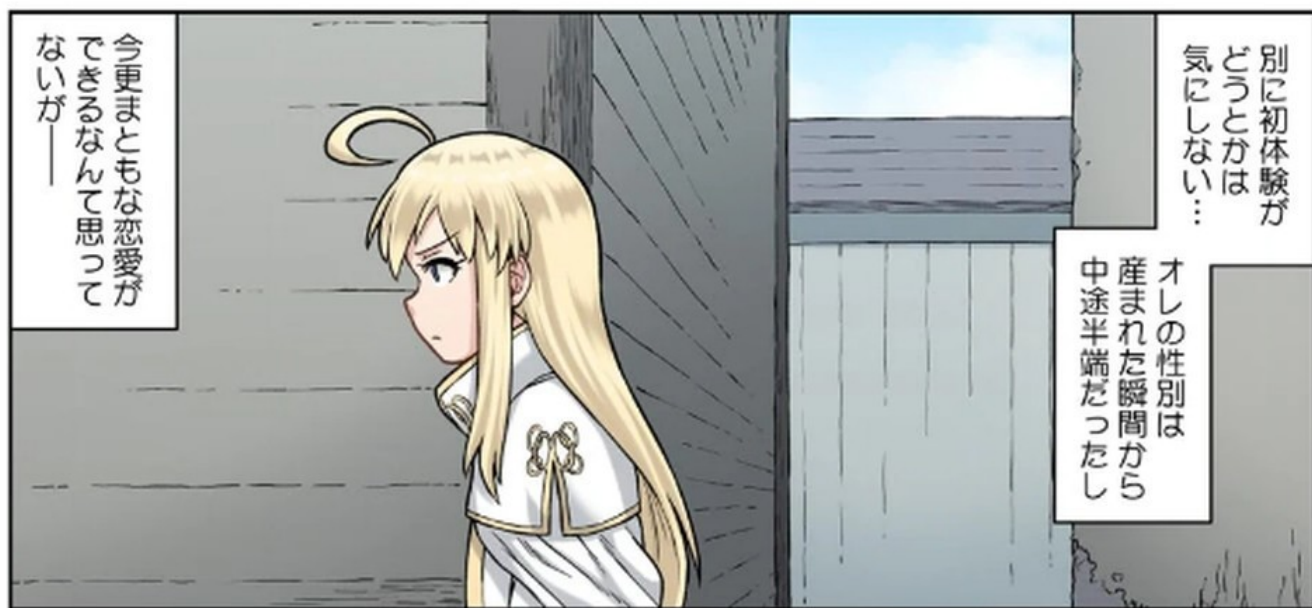












命を助けてもらった  
恩は昨晩でほしい  
返しただろう



むか  
むか  
むか

というかあんなに  
酷い目に遭わされた  
オレの過払いだろ

せめてちゃんとして  
女性として  
扱ってほしかった



「むかむか」!?

ズザザザ!

ど……っ

どうした  
フィオっ!?

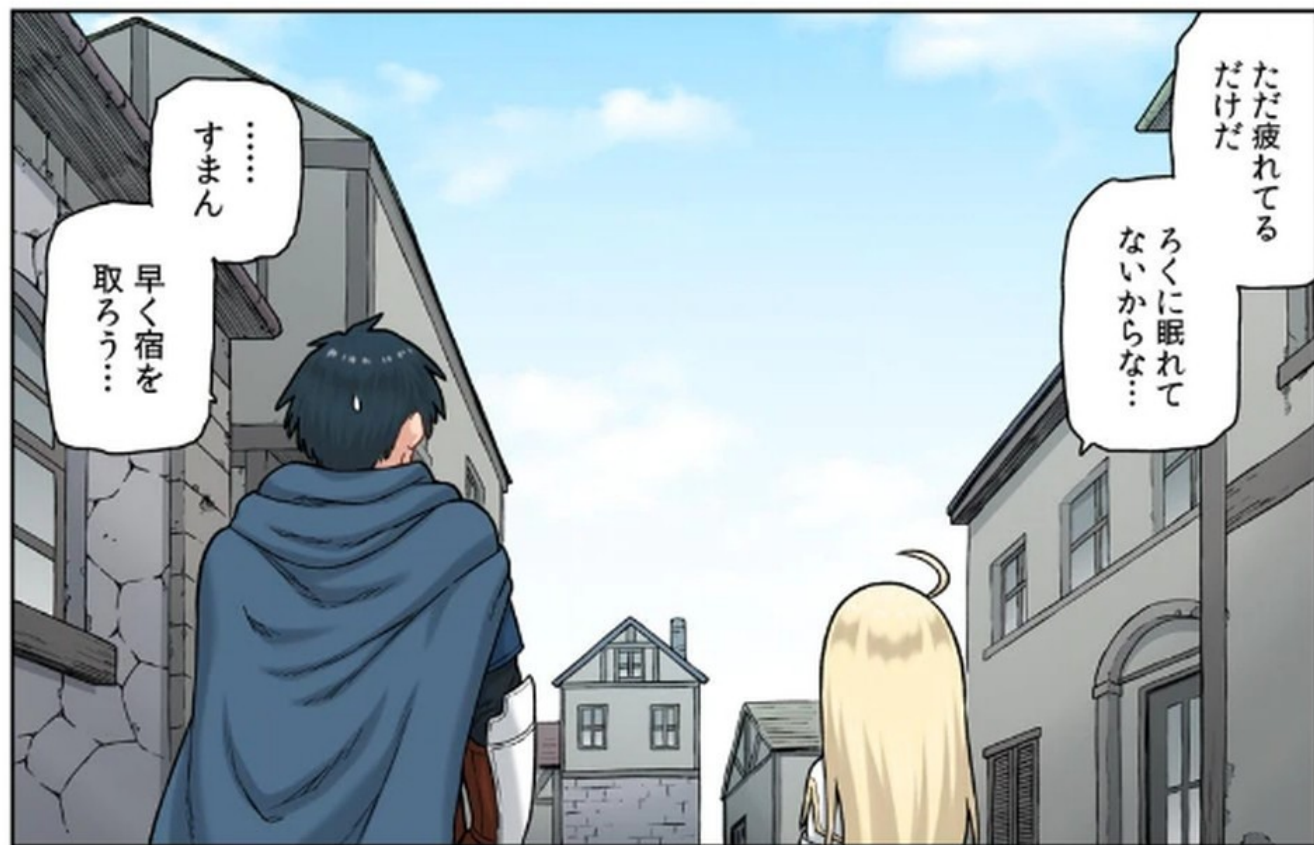


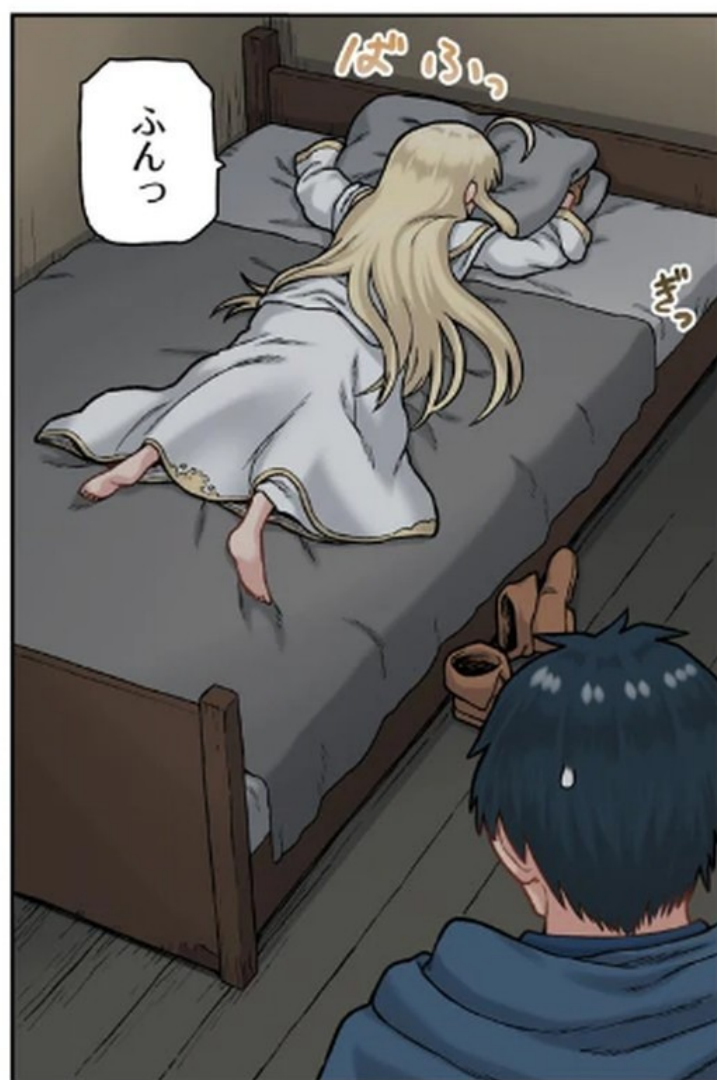
い……いや  
なんでもないっ

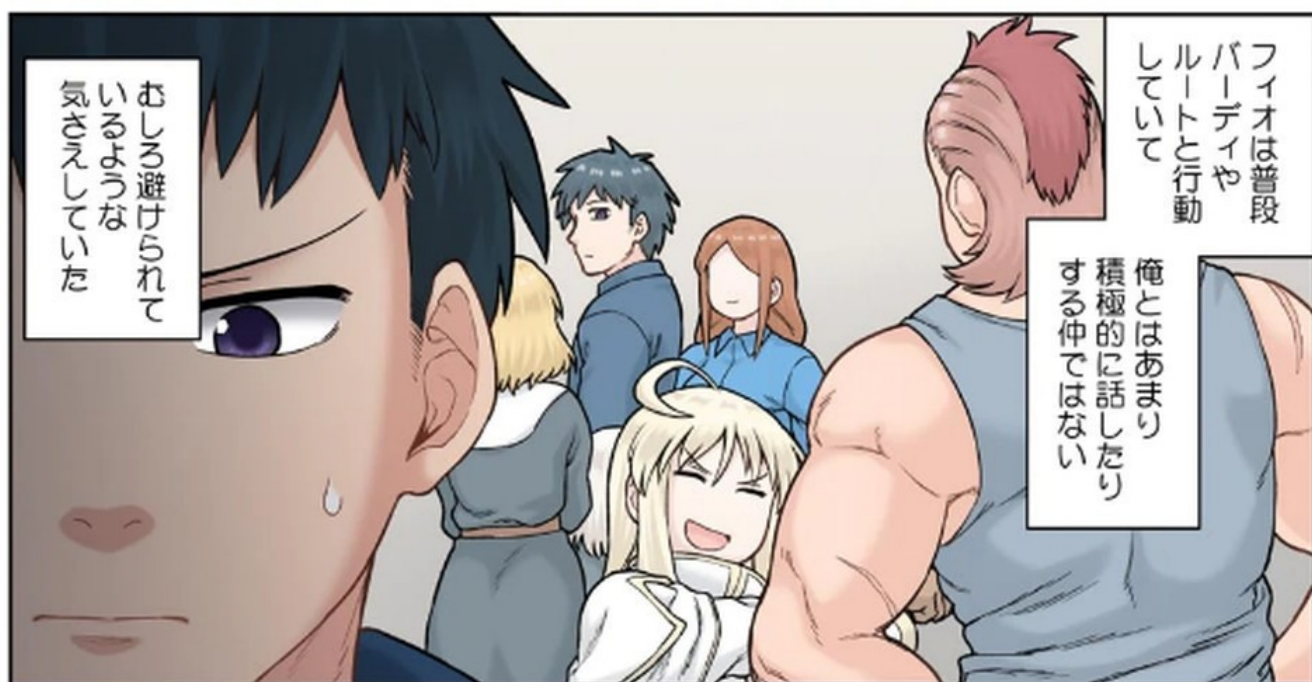
まずいな……  
昨夜のアシガ  
トラウマに  
なってるやがる

自分より強く  
大きい男に組み  
伏せられる屈辱  
恐怖に激痛が……











小さい集落だが  
フィオに似合う  
装飾品が見つかる  
かもしれない!!



この集落は  
旅人向けの  
宿場のようだ

数少ない商店には  
携帯食などの  
実用品しか見つけ  
られなかった…

これではフィオへの  
贈り物を見つけれ  
るのは難しいか…

ありがとう  
アルト!!

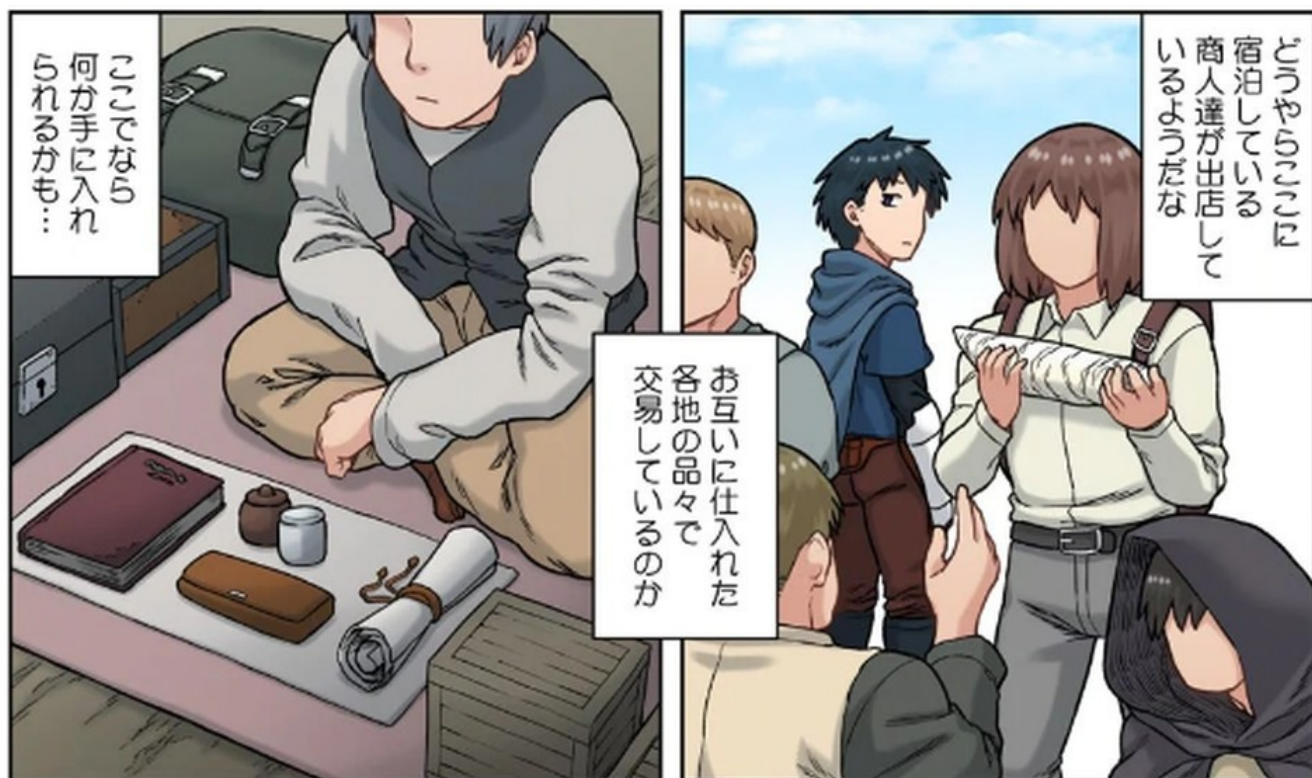
これをオレに?

もが  
もが


むむ…

王都へ戻る  
道中でなんとか  
なるだろうか…


おおっ








仲間達が  
いなくなった  
途端これだ




やはり俺は  
一人じゃ何も  
できない存在  
なのか…

前世の  
ように…




前世の俺は  
仕事のできない  
サラリーマンだった

同期が出世して  
いく中で…  
要領の悪い  
俺は雑用しか  
できなかつた



だからせめて  
真面目で  
あろうとした

体が不調を  
訴えようと  
無視して  
働き続けた



結局はそれが  
原因で命を  
落として  
しまったが…

落ちつけ…  
今世の俺は  
もう無能なんか  
じゃない…っ



必死で難解な  
魔法体系を  
勉強し…



時間の限り  
肉体を鍛え  
あげたんだ



この世界の  
俺は…

魔法剣士  
アルトは

きっと誰かに  
頼られる存在に  
なれているはずだ



とはいえ昨夜の  
仕出かしは  
取り返しが  
つかない

俺にできることは  
誠心誠意謝ること  
だけだ

フィオを  
元気づける  
手段も考え  
ないと…

手甲を売って  
金に換えようか…

だからお前は  
いつまで経っても  
女ができないんだよ

でもよお  
兄貴

オレはブサイクで  
口下手だし…

ばーか  
顔も口も  
関係ねえよ

要は女の  
悦ばせ方を  
知ってるか  
どうかだ

俺ら従業員  
相手だとな

向こうさんも  
後腐れがないから  
イイとこまで  
いけるんだぜ

コツさえ掴めば  
女と仲良くなる  
なんて簡単よ

兄貴はやっぱ  
すげえな  
一生ついて  
いきますぜ!!

その若者

どうか未熟な  
俺に教えてほしい

うおっなんだ  
アンタ!?

女の「言はせ方」

俺に必要なのは  
この男の持つ  
情報ではないのか?





なんとしても  
フィオとの関係を  
修復せねば  
ならない！

彼女を笑顔に  
せねばならない

フィオを元気に  
できるなら  
俺はなんだって  
しよう！

そのために俺は  
今夜彼女を…

もう一度  
抱いてみせる！！

パルメ デザイン案

ボディが連れてくると  
いうことはそれなりに  
巨乳なはず!!

胸元強調

脚のラインが  
出る聚りかめの  
スカート

背中が  
開いてます



脱ぐと  
ムクムク



はか  
りゃ

3人の身長比

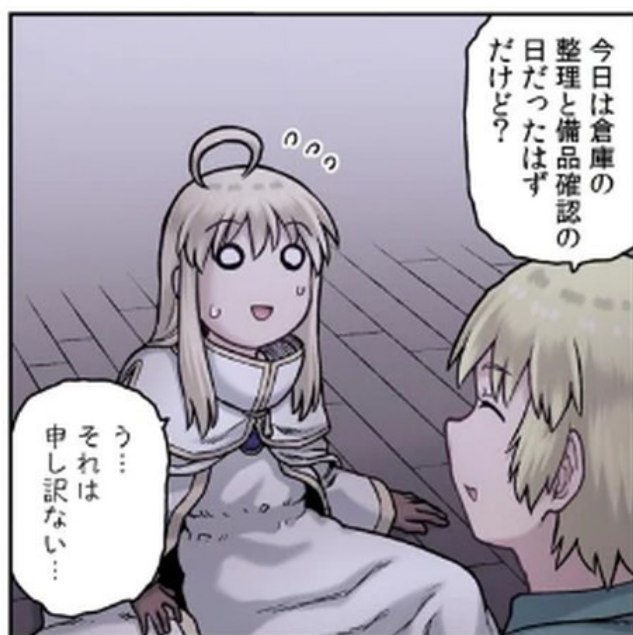


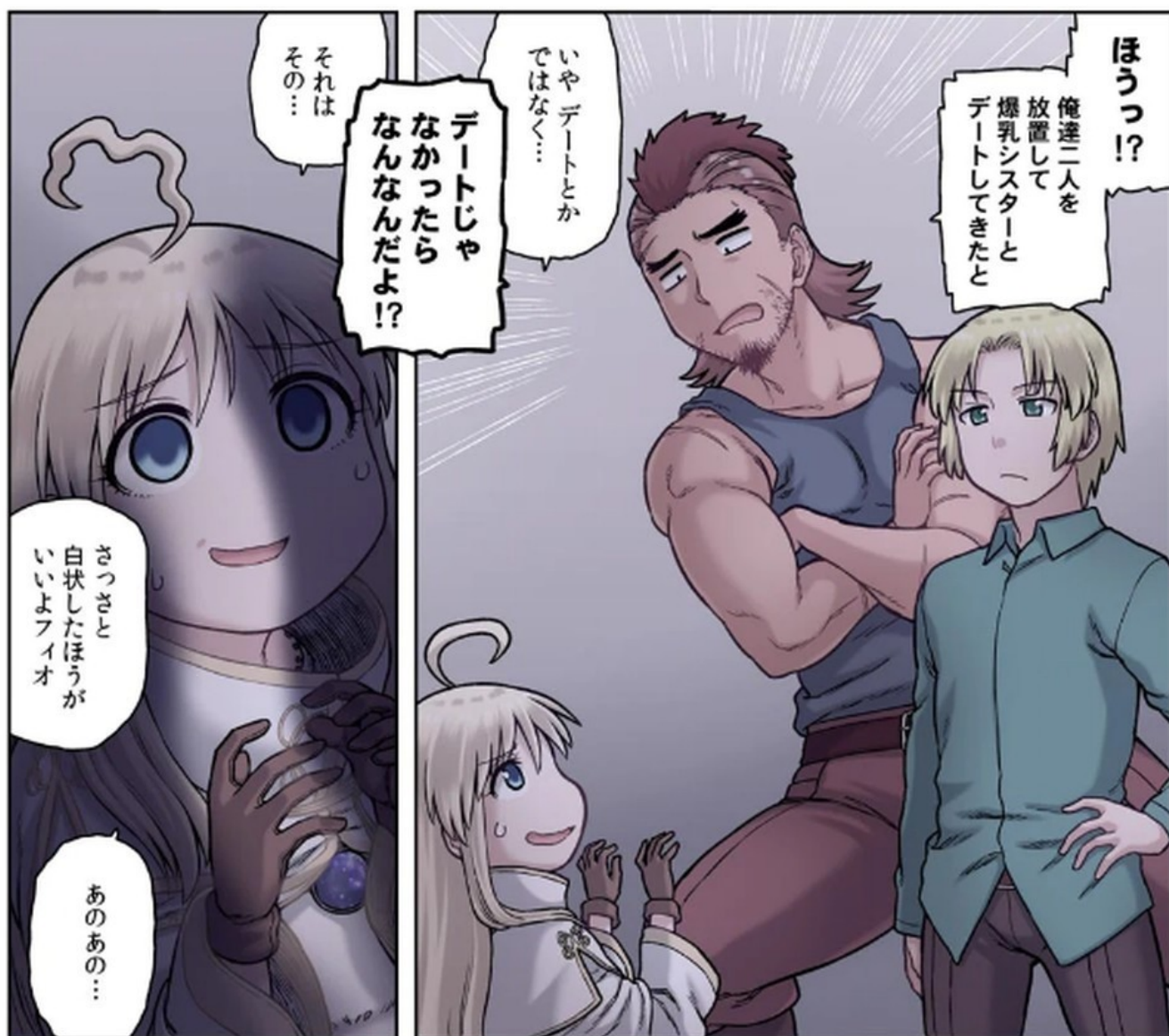
スッキ  
ン♡

TS  
転生してまさかの  
サブヒロインに。

TS TENSEI shite  
Masaka no Sub Heroine ni.







今日はその…  
ユリイと二人で

王都甘味処  
巡りの日  
だったんだよ

デートじゃ  
ねえか!!

いいご身分だなあ  
スイーツって柄か  
 temeエが!?

なんだと  
甘味は貴重  
なんだよ!!

甘いものが  
好きだったのか

フィオにも  
女の子らしい  
ところが  
あるんだな

うるせえーッ  
このハーレム野郎!!

うがーッ

おしまい

オーク ver.1.5

隊長のオークは特殊個体  
皮膚は、ぼく赤黒く変異している



隊長用



死つは宮殿の  
麻壁



通常オーク



一般オーク用



ゴブリン ver.1.5

実際の原稿では  
汚なめの肌  
チクチク入水て  
ください

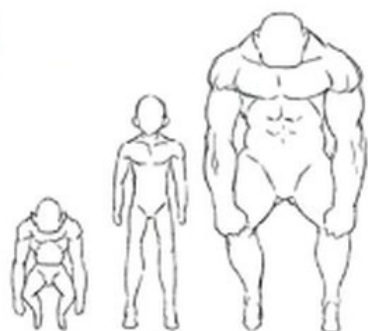


冒険者から来た装備

手入れが頭などないのぞ  
ボロボロ



服も強奪品



ゴブリン 人間 オーク

だいたいの身長比

TS  
転生してまさかの  
サブヒロインに。

TS TENSEI shite  
Masaka no Sub Heroine ni.

「あー、その。すまないんだが」

売春街の片隅で。

私は二人組のお客に、声を掛けられた。

「複数プレイは遠慮しててね。お兄さんだけならいいよ」

「えええええ……」

「そっちの娘は帰してきな」

その相手は珍しく、男女二人組だった。

小柄ではあるが可愛らしい金髪の少女と、人相の悪い反社会的な顔立ちの男である。

「多人数ダメなら、コイツだけってのは？」

「……どうということ？ そいつ、女の子だよね？」

「ああ、女好きの女なんだ。お前さんに惚れこんで、猛烈に押ししてるのはコッチ」

悪いが複数人を相手にする気はない。

そう告げると、小柄な金髪女のほうがすり寄ってきた。

「お姉さん凄く可愛いね！ ぜひ、今夜はオレと……」

「ごめん、同性も断ってる」

「そんなああああ」

二人の風貌を見て、てつきり人相の悪い男はもう一人の女を買っているものと思っただが、どうやら二人はそういう関係ではなく、単なる友人らしい。



「ツンとした雰囲気と、いい感じのお胸と、スラッとした身体が、ドンピシャでオレ好みなんだ。お金は惜しまないから、どうか」

「う、うーん。ごめんな、やっぱ無理」

「ちくしよおおおおお」

「諦めろ、ファイオ。しつこくすると嫌われるぞ」

まさか女の側に求められているとは思わなかった。

お金は惜しまない、という言葉に心は揺れたが……。

必死過ぎてちよつと怖かったので、断ることにした。

「たしか……、ここから二つ曲がった通りに同性愛の区画があった。女同士をお望みなら、そこで探すといいかもね」

「情報サンキュ。ほら行くぞファイオ」

「……ぐすん。運命の出会いだと思ったのに」

金髪の少女は、名残惜しそうに私のほうを何度も振り返る。

私は苦笑いして、その二人を見送った。

本当にそれなりの額が貰えるなら、相手をしてもらったかも。

ほんのり、そんなことを考えた。

……そして今夜も、結局私が買われることはなかった。何度か声を掛けられたが、条件が合わなかったので断ってしまった。これでもう、三日も路上で立ちんぼをしているが、収入はゼロ。これじゃあ、半裸で路上に立っているだけの痴女である。

——私は今日も、お金を稼ぐ勇気を出せなかった。

「帰ったぞ」

「おかえりなさい」

空っぽの財布をカバンに入れて、着崩した服を正し。夜遅くに帰宅した私を、可愛らしい声が出迎えてくれた。

「今日もご苦労様、お姉ちゃん」

「……ああ」

弟は朝と同じ場所、同じ体勢で。

皺だらけの固いベッドの上に横たわっていた。

「ほら、ゆっくり飲み込め」

「うん」

弟は数年前から、重い病に侵されていた。

それは街のヒーラーでは治せない、難しい病気だった。

全身の力が入らなくなり、ピクリとも動くことができなくなる。

やがて呼吸する筋肉も動かさなくなったその時、弟は窒息死してしまうのだとか。

かつて元気に、公園を駆け回っていたころの面影はない。

今や弟の体軀は痩せ細り、頬もこけ、私の介助なしでは食事もとれないほどである。

「いつもありがとう、お姉ちゃん」

母親は私達を見捨て、どこぞへ蒸発してしまった。

父親はいない。おそらく、母親の客だった誰かだろう。

私と弟はあばら家で二人きり、手を取り合って生きてきた。

「気にするな。さあ、今日も一緒に寝よう」

「うん、お姉ちゃん」

弟はいつ死ぬか、分からない。

今日にも、寝ているうちに窒息してしまいかもしれない。

だけど、私にはどうすることもできない。

「おやすみ」

王都で高名なヒーラーに診てもらえれば、弟を救えるかもしれない。

しかし王都まで行く旅費も、治療を受ける費用もない。

ゴミ拾いで日銭を稼いで、日々を食いつなぐのが精一杯だった。

……ここ数カ月で、弟はいよいよ弱ってきたように思う。腕を動かせなくなり、食事時に咳込むことが増えてきた。きつと、病が進行しているのだ。

「なあお前、次の休みに何かしたいことはあるか」

「……んー、そうだなあ」

弟の寿命は、すぐそこに迫ってきている。

私は弟に、最期まで幸せでいて欲しい。

だから弟のワガママを、できるだけ聞いてやりたかった。

「たしか隣の町に、美術館があったよね」

「ああ」

「そこに行ってみたい」

そんな弟が、珍しく漏らしたワガママ。

それは、美術館に行ってみたいというものだった。

「僕はもう動けないじゃないか」

「……そうだな」

「だけど美術館なら楽しめる。綺麗な絵が、いっぱいあるんでしょ？」

「たぶんな」

私は、弟のそのおねだりに、苦笑いして頷いた。

この町の美術館は、貴族向けの施設だ。

貧乏人が入ってこないよう、高い入館料が設定されている。

日々のゴミ拾いで得られる収入は僅かなもの。

気軽に、払える額ではなかった。

「……」

だけど、払うことができる仕事も知っていた。

この町は色街だ。若い女である私には、お金を稼ぐとっておきの手段があった。

私の処女を、売り飛ばす。

そうすればきっと、弟の希望を叶えてやれるだろう。

葛藤はあった。

でも、弟が死ぬ前に少しでも幸せな時間を作ってやりたい。

そう思っ、服をはだけて路上に立っていた。

だけど。

いざ男を相手にしようとする、なかなか踏ん切りがつかなかった。

どこにでも居そうな、しよぼくれたおっさん。

既に女を侍らしている、悪人面のブサイク。

若干ナルシストが入っている、悪人面のブサイク。高圧的な成金貴族。

……そんな相手に、初めてを捧げるのはどうしても躊躇ちゆうちよした。

「おかえり。今日も遅かったね、お姉ちゃん」

結局、三日間ほど路上に立って見たものの、私は春を売れなかった。

弟の望みを叶えてやりたいのに、一步を踏み出せなかった。

いつ死ぬか分からない肉親の、些さ細さいなおねだりすら叶えてやることができない。

細くなつた弟の腕を抱きしめて、共に並んで眠りながら。

私は、自己嫌悪で頭が変になりそうだった。

「ごめんな」

美術館に連れていくには、凄くお金がかかる。

だから諦めてくれと、私は弟に詫わびた。

「ううん、僕こそごめん。そんなに高いなんて思わなかったんだ」

「お前は悪くない」

その代わり、私は弟を抱いて公園に連れて行った。

まだ弟が元気だったころ、よく一緒に遊んだ思い出の公園だ。

「本当は最近、お姉ちゃんがずっと仕事に行ってて寂しかったの」

「……」

「だからお姉ちゃんと一緒になら、どこでも楽しいよ」

弟はそう言って、私の腕の中で、公園を楽しそうに見回した。

その体は軽く、脆く。

そのまま手折れてしまいそうな、儚さがあった。

「今日は、一緒にお出かけできてうれしいな」

そんな弟の言葉を聞いて、いつのまにか涙が零れた。

この三日間、私は何もしていない。

処女を売り飛ばす踏ん切りがつかず、ただボーっと立っていただけだ。

私は何をしていたんだ。

どうして、弟に寂しい思いをさせてまで、踏ん切りがつかなかったんだ。

貞操くらい売り飛ばしてでも、弟を美術館に連れて行ってやればよかったじゃないか。情けなくて、悔しくて、いろんな感情が渦巻いた。

「ねえ、お姉ちゃん。また、ここに連れてきてくれる？」

「ああ、また来よう」

今度こそ、決心がついた。

次は、ちゃんと春を売る。

「あと、なんとかお金を貯める。美術館にも行こう」

「え？ いや、いいよお姉ちゃん。それは、高すぎる」

「なんとかする」

もう弟に、寂しい思いはさせない。

どんな客でも春を売り、さっさと帰宅して弟の世話をする。

躊躇ためらったり、モヤモヤとして、時間を無駄にしない。

「私にとっておきの作戦があるんだ」

私は自信満々な顔で、弟にそう言つてのけた。

「……あ」

そんな、弟との大切なひと時に。

「アンタ、たしかあの時のカワイイお姉さん！」

「げっ！」

悪人面と金髪小柄女という、いつしかの二人組に出会ってしまった。

どうやらこの二人は、公園で酒盛りをしていたらしい。

キテレツな出会い方だったので、その顔もよく覚えていた。

「お、おい。いつかのお姉さんだよな」

「……」

「奇遇だなー、よっす」

私に『惚れこんでいる』とホザいていた女が、ズケズケ近づいてきた。

後ろで悪人面の男が、頭を抱えているようだ。

「お姉ちゃん、知り合い？」

「……いや、知らない人だ」

女に近づかれて、イヤな汗が噴き出した。

弟には、私がそういう仕事を始めたことを伝えていない。

体を売ろうとしているなんて、知られたくない。

「あ、いや、その」

「アンタたち、悪いがこっちにこないでくれ」

「あー……」

「しつこいなら——警備《ガード》を呼ぶぞ」

私は弟を庇いながら、威嚇するように目を怒らせた。

この人達は、流儀というものがなっていない。

そういう商売をしている女が家族と過ごしている時は、話しかけないのが「マナー」だろう。

そんな意味も込めて、強く睨みつけてやった。

「……」

すると小柄女は、困ったように悪人面と顔を見合わせた。

そして、頭を掻きながら、

「悪い悪い。まあ、そう警戒しないでくれ」

「悪いと思うなら、これ以上絡むな」

「んー、だけどさ」

突然に、ふと真面目な顔になって。

「その子、放っておいたら今夜にも死ぬぞ？」

「……っ!!」

金髪の女は、私を真つすぐ見つめてそう言った。

「えっ」

その直後。

私は思いつきり、その女の頬を張り飛ばした。

「帰れ！ 帰ってくれ!!」

「ちよつと、お姉ちゃん!？」

「いきなりなんてことを言い出すんだ、お前エ！」

女は私のピンタを避ける様子もなく、吹っ飛んで地面に倒れた。

結構な青あざが、彼女の顔面にできている。1週間は、痕が残るだろう。それでもなお、私の怒りは収まらなかった。

「消えろ、消え失せろ！」

「お、おいフィオ。お前さあ、デリカシー……」

「わーってる、わーってるって」

しかし女は、まだヘラヘラとした態度を崩そうとせず。瞼を青く腫らしたまま、不気味な笑顔で立ち上がった。

「おい、お姉さん」

「……私たちに、関わるなっ！」

「これ、見てみ」

その様が気持ち悪くて、一步引いた私に。

小柄な女は、見せつけるように。

「——快気一杯《ハイヒール》」

一言、魔法を唱えただけで。

……彼女の顔の痣は、きれいさっぱりなくなってしまった。

「えっ」

「実はオレ、ちよいと優秀な——癒者《ヒーラー》なんだ」

女はパンパンと、ロープを叩いて砂を払い。

自信満々な顔で、グツと親指を突き立てて。

「オレならその子、治せる。つつつたら、どうする？」

そんなことを、言つてのけた。

弟の顔が、驚愕に染まる。

私は声を震わせて、その女に食つて掛かった。

「そ、そんなワケないだろ！ だって宮廷癒術師クラスに診てもらわないと治らないって」

「そのゲスロリ、この国で一番の癒者だぜ。マジで」

悪人面の男も、同じようにニヤニヤと笑っている。

その言葉がどこまで本当なのか。からかっているだけか、それとも――

「お、お姉ちゃん？」

「……くっ」

そんなに都合の良い話が転がっているとは思えない。

適当な嘘八百を並べ、私を好きにしたいだけなのかもしれない。

だけど私は、その言葉が本当だと縋りたくて堪らなかつた。

「じゃ、じゃあ。仮に、治療を、依頼したとして」

「おう」

「私は、何を支払えばいい？」

この二人組が、本当に弟を治せるのであればなんだったってやってやる。

私には、宮廷癒術師クラスの治療代を支払えるだけの財産はない。

お金がないとすれば、私は何を要求されるのだろうか。

「え、支払い？ いいよ別に、そんなの」

「は？」

「オレじゃないと治せない子がいたから、声かけただけ。ラッキー、とでも思っておけばいいさ」

そういつてズカズカと、金髪女は弟の傍に歩いて行った。

そしてクシャクシャと、弟の髪を撫でて。

「かなり状態が悪いな。スゲー辛かっただろ、お前さん」

「あ、あの」

「今まで、よく頑張ったな」

慈母のような顔で、弟の身体を労わった。

「……本当に？」

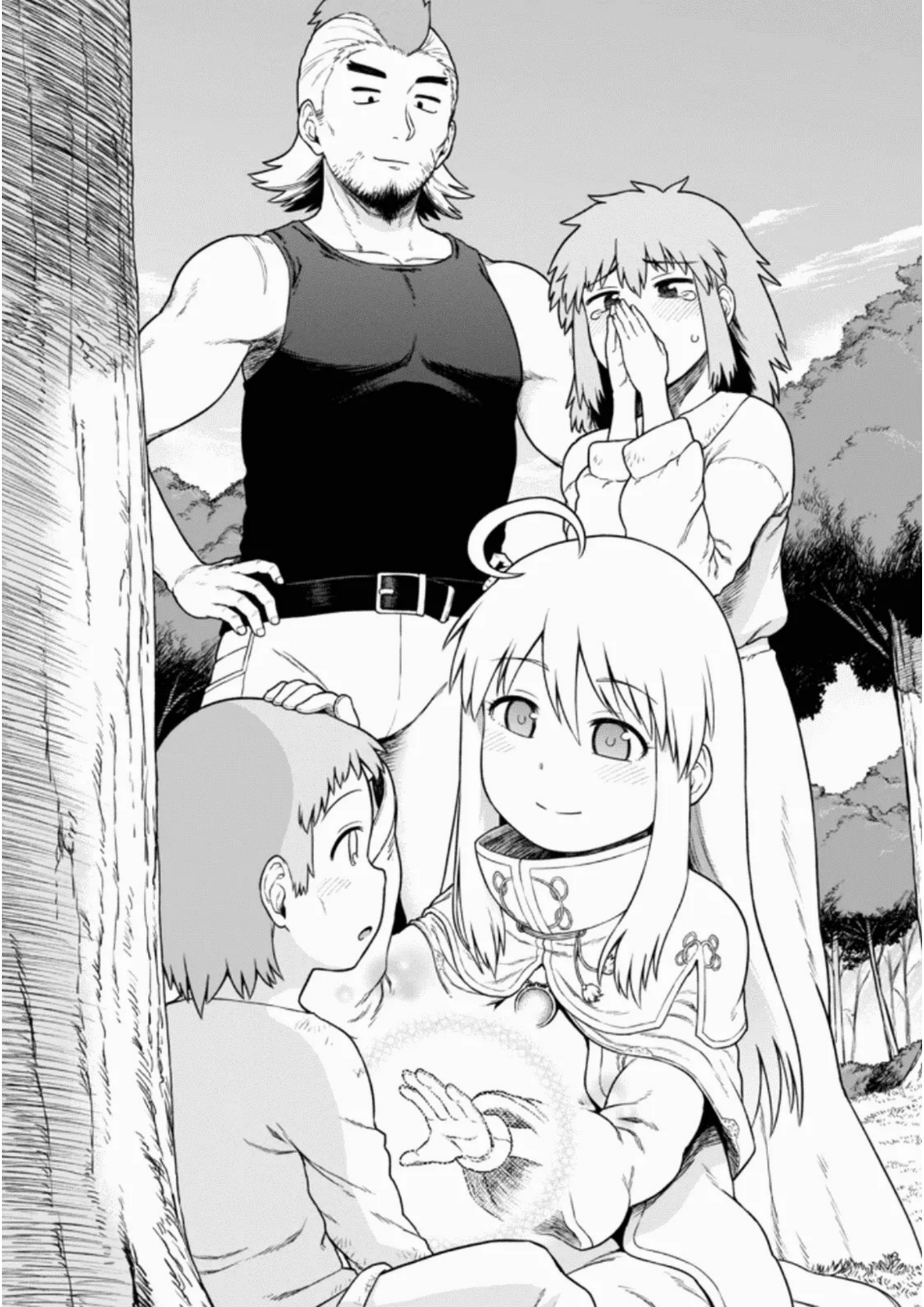
「おう」

「本当に、治せるのか」

私の、その不安げな声に。

その金髪女は、自信満々に返答した。

「三十分もありゃあ、治せるよ」



「まったく君達は！　すぐそういう店に入り浸って!!」

「別にいーじゃんかよー」

「ブーブー」

「町に着いたらまず領主に挨拶に行くのが普通だろう！　どうしても色街を優先するんだ！」

「そこにえっちなお姉さんがいるからさ」

次の日。

歩けるようになった弟の手を引いて、大通りを歩いていると。

「しかも手持ちのお金、ゼーんぶ貢ぐなんて！」

「悪い悪い、というわけで」

「ちよつとお給金、前借りさせろ」

「ふざけんな馬鹿ども！」

男だか女だかよく分からない人に、昨日の二人組がお説教されていた。

「ちよつとルートは厳しすぎるよなー」

「別に犯罪行為をしてるわけじゃないんだしさー」

「犯罪行為なんてしてたらぶつ殺すからね」

「おお、怖い怖い」

その光景にびっくりして凝視していたら、視線に気がついたのか。

二人は私のほうを見て、小さく笑って手を振った。

私は慌てて、『フィオ』さんと『バーデイ』さんに頭を下げ、挨拶を返した。

「ど、どうも。あ、ありがとうございます！」

「おう、綺麗なお姉さん。元気でな！」

フィオさん達はそのまま、豪勢な馬車に揺られて大通りを進む。

その馬車には『勇者様ご一行』という旗が立てられ、これから領主様の下に向かう予定なのだという。

……この国一番の癒者、という話にも納得だ。彼女は、勇者パーティの一人だったのだ。

「本当に、本当に。ありがとうございます！」

昨晚。

フィオさんは結局、私に何も要求することなく弟を治してくれた。

数年ぶりに自分の力で立った弟を見て、私は感涙に咽び泣いた。

そんな私たちを見て、その二人は「よかったな！」と喜んでくれた後――

「知り合いかい、フィオ？」

「ああ。昨日貢いだ女の子だ」

快気祝いだと言って、美術館に入れるほどの貨幣を袋に入れ。

私の手に押しつけて、どこぞへ立ち去ったのだった。



TS  
転生してまさかの  
サブヒロインに。  
TS TENSEI shite  
Masaka no Sub Heroine ni.

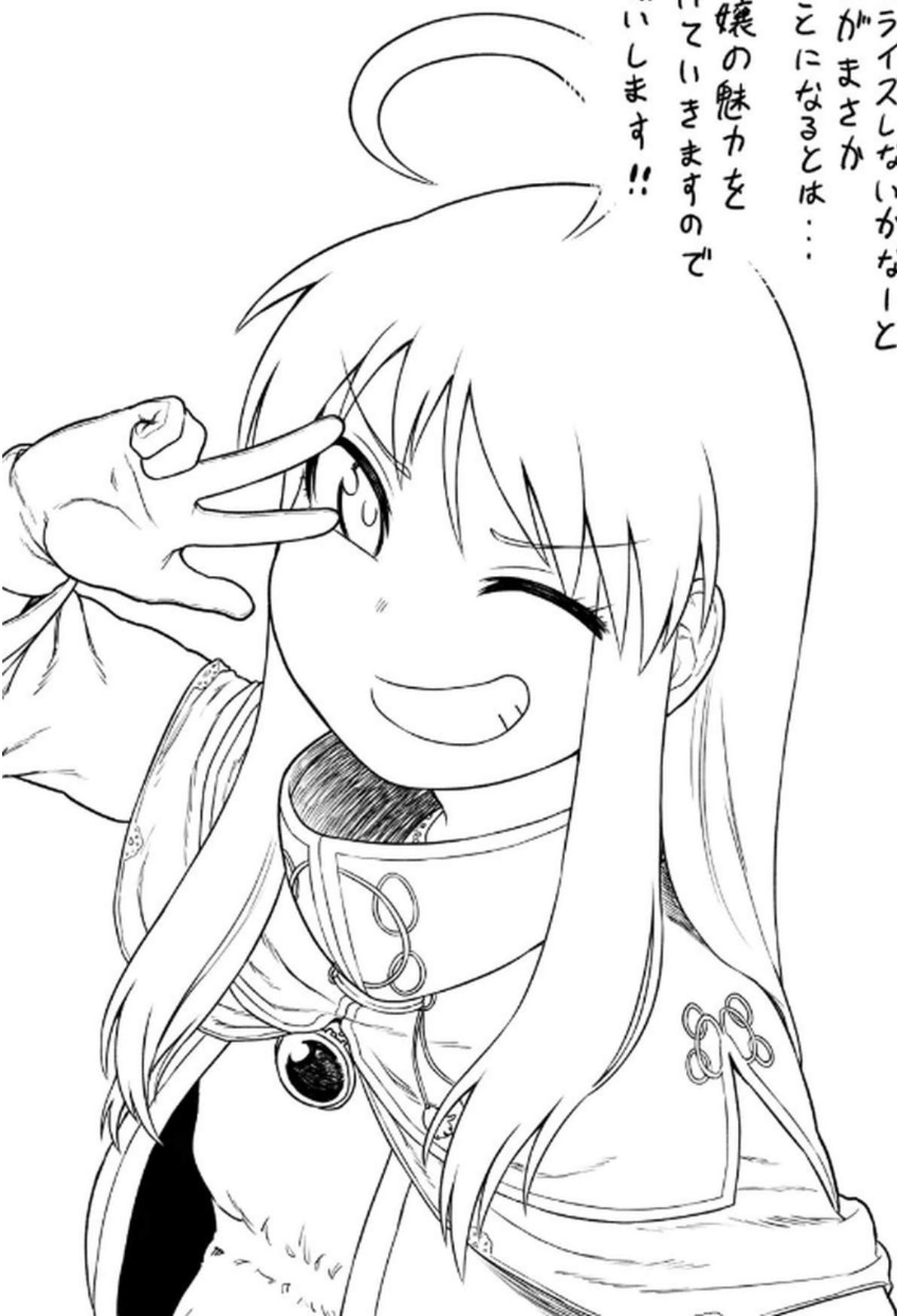
TS  
転生してまさかの  
サブヒロインに。

TS TENSEI shite  
Masaka no Sub Heroine ni.

TS 転生してまさかのサブヒロインに。  
第一巻をお買い上げありがとうございます！

ファンとして原作は何度も読み返していて  
いつかコミカライズしないかなーと  
思っていましたかまさか  
自分が描くことになるとは…

今後もフィオ嬢の魅力を  
かんばって描いていきますので  
よろしくお願ひします！！



2025

佃煮



あとがき

この度は「TS転生してまさかのサブヒロインに。」をお買い上げいただきましてありがとうございます。原作のまさきたまと申します。

本作を手を取っていただき、あとがきまで読んでいただけて、感謝恐悦の至りです。

実は本作は私にとって一番思い入れの強い作品でした。とりまるひよこ。先生からFAを頂いたことで、人生が変わった作品なのです。

どうということかといえます。私はとりまるひよこ。先生のファンで、その小説にはまりTSモノを書き始めました。しかし現実には厳しく、素人が小説を投稿してもいきなり反応は貰えません。十万文字書いて、まったく感想が来なかった作品もありました。そんなこんなでWEB小説という世界の厳しさを実感していた折に……とりまるひよこ。先生からFAを頂いたのです。

つまり、それがどうということかと文字に起こします。当時伸び悩んでいた私は『ファンだった作家先生から突然超絶クオリティのFAと応援メッセージが届く』という意味不明な幸運に見舞われていたのです。

豚もおだてりや木に登るといいますが、天上人におだてられた私のモチベーションは天井知らずでした。その勢いで完結まで死に物狂いに描き切りました。

本作を読み返すと、文章がなかなか拙かったりと、未熟な部分もあります。しかし人生

で一番心血を注ぎ込んで執筆した作品で、性癖で本作を超える作品は二度と書けないとも思っていました。

そんな作品でしたので、コミカライズのお話をいただいた時は飛び回ったのを覚えていません。本当に良いんですかと、まさに夢心地でした。

さて、そんなコミカライズの内容ですが。読んでいただいた皆様ならよくわかると思いますが、素晴らしいすぎて文句のつけようがありません。

コミカルでかわいらしい絵柄でフィオを描き、軽やかでファンタジーな色合いで世界を表現し、コマ割りのテンポも良く、凄く読みやすく仕上げていただいております。佃煮先生の漫画家としての腕が、原作を超えた魅力を引き出していると言っても間違いはないでしょう。私も、原稿を送っていたくのが楽しみで仕方ありませんでした。佃煮先生には、一生足を向けて眠れません。このコミカライズは私にとって、人生の宝物とさせていただきます。

こんな素晴らしい作画で原作を表現してくださっている佃煮先生、いつも相談に乗っていただいている担当編集様、私の人生を変えたFAを送ってくださったとりまるひよこ。先生、そして本作を応援してくださった全ての読者様に、謝辞を送らせていただきます。

今後もどうかコミカライズ版の「TS転生してまさかのサブヒロインに。」を応援していただけたなら幸いです。

以上、まさきたまででした。

# Special Thanks とりまるひよこ。



本コミカライズの原作  
WEB小説版『TS転生してまさかのサブヒロインに。』  
こちらの挿絵を描かれた作家兼イラストレーターの  
とりまるひよこ。先生から原作挿絵をご寄稿いただきましたので  
こちらに掲載、紹介させていただきます。

# TS転生してまさかのサブヒロインに。 【フルカラー】【電子単行本】(1)

著者 作画：佃煮 原作：まさきたま  
発行 CLLENN

---

ファンレターはこちら

〒106-6224

東京都港区六本木三丁目2番1号

住友不動産六本木グランドタワー24F

株式会社CLLENN DEDEDE編集部

〇〇〇〇先生係

本書の無断転載・複製等は著作権法上禁止されております。